

平成26年2月25日版

世界自然遺産
小笠原諸島
生態系保全アクションプラン【第2期】
(案)

2014（平成26）年3月 <策定予定>

関東地方環境事務所
関東森林管理局
東京都
小笠原村

目 次

1. 生態系保全アクションプランとは.....	1
2. 小笠原諸島全体としての短期的な取組みの流れ.....	2
3. アクションプランの運用面での改善.....	5
4. 島毎の生態系保全アクションプラン.....	5
〔父島列島〕	
父島	6
兄島	13
弟島	21
西島	24
東島	27
南島	30
〔母島列島〕	
母島	33
向島	45
姉島	48
妹島	51
姪島	54
平島	57
〔聟島列島、火山列島、その他〕	
聟島	60
北之島	63
媒島	65
嫁島	68
西之島	71
北硫黄島	73
南硫黄島	76

参考資料1. 「在来種の保全及び生態系機能の保全」に関する整理 参-1

参考資料2. 「侵略的外来種に対する防除」に関する整理 参-4

＜別冊資料＞

第1期アクションプランの取組み実績

1. 生態系保全アクションプランとは

(1) アクションプラン作成の背景と目的

- ・小笠原諸島生態系保全アクションプランとは、外来種問題をはじめ生態系への人為的影響に対する必要な是正措置を講じることを目的として、課題解決のために具体的な行動計画を示したものである。
- ・世界自然遺産への推薦にあたり、「世界遺産条約履行のための作業指針 116」に基づいて、2010（平成 22）年 1 月に「世界自然遺産推薦地小笠原諸島生態系保全アクションプラン」（以下、「アクションプラン」という。）として策定され、「世界自然遺産推薦地小笠原諸島管理計画」（以下、管理計画という。）の別冊資料として登録推薦書に添付された。

【UNESCO 世界遺産条約履行のための作業指針】（抜粋）

116.登録推薦資産の本来の特質が、人為的行為に脅かされていながら、なお登録基準及び第 78 段落から第 95 段落に既定されている真正性または完全性の条件を満たしている場合は、必要な是正措置について示したアクションプランを登録推薦ファイルとともに提出することが求められる。締約国が提出した是正措置が、締約国により提示された期限内に実施されない場合は、委員会で採択される手順に基づき、委員会は資産をリストから削除することを検討する。

(2) アクションプランの位置づけ

- ・アクションプランは、管理計画において下記のような位置づけがなされている。これによってアクションプランに基づく取組の実効性が担保されている。

【管理計画「5 管理の方策」】（抜粋）

2）島毎の戦略的な生態系保全

これまで小笠原諸島では管理機関が中心となって外来種対策を主とした様々な取組を展開してきている。管理機関は、このような取組の実績を基礎として、関係者の参加を得て、適切な役割分担と緊密な連携を図りながら、以下に掲げる長期目標及び対策の方向性に基づき、小笠原諸島の効果的な生態系保全を図っていく。

短期的には、管理計画の下に、島毎の種間関係を整理・把握した上で、短期的な目標及び対策の優先順位・手順や内容を示した「生態系保全アクションプラン」を検討・作成しており、これに基づき、外来種対策をはじめとする生態系の保全・管理対策を適切かつ計画的に進めることとする。

- ・また、アクションプランでは、このような管理計画での記載も踏まえ、管理計画及びアクションプランのそれぞれの役割を下記のように位置づけている。

	管理計画 2010（平成 22）年 1 月	アクションプラン 2010（平成 22）年 1 月
対象範囲	小笠原諸島の自然環境の保全・管理に係わる全体計画	人為的影響是正に係わる具体的な行動計画（主に島毎の生態系保全に係わる事項）
目標期間	長期目標の達成のために、概ね 5～10 年程度先の対策の方向性を示すもの。自然環境や社会状況の変化により、必要に応じて見直しを実施する	管理計画を補完する具体の行動計画として、短期的な目標及び対策の優先順位・手順や内容を示すもの
推進主体	小笠原諸島に係わるすべての関係者	主に管理機関（事業・調査の実施主体）

(3) 対象とした島

- ・アクションプランでは、管理計画に準じて小笠原諸島の主要な下記 19 の島を対象としている。
- ・そのうち父島及び母島については、遺産価値を保全する上で特に重要な地域ごとに細区分している。

父島列島	父島、兄島、弟島、西島、東島、南島
母島列島	母島、向島、姉島、妹島、姪島、平島
鴎島列島、火山列島、その他	鴎島、北ノ島、媒島、嫁島、北硫黄島、南硫黄島、西之島

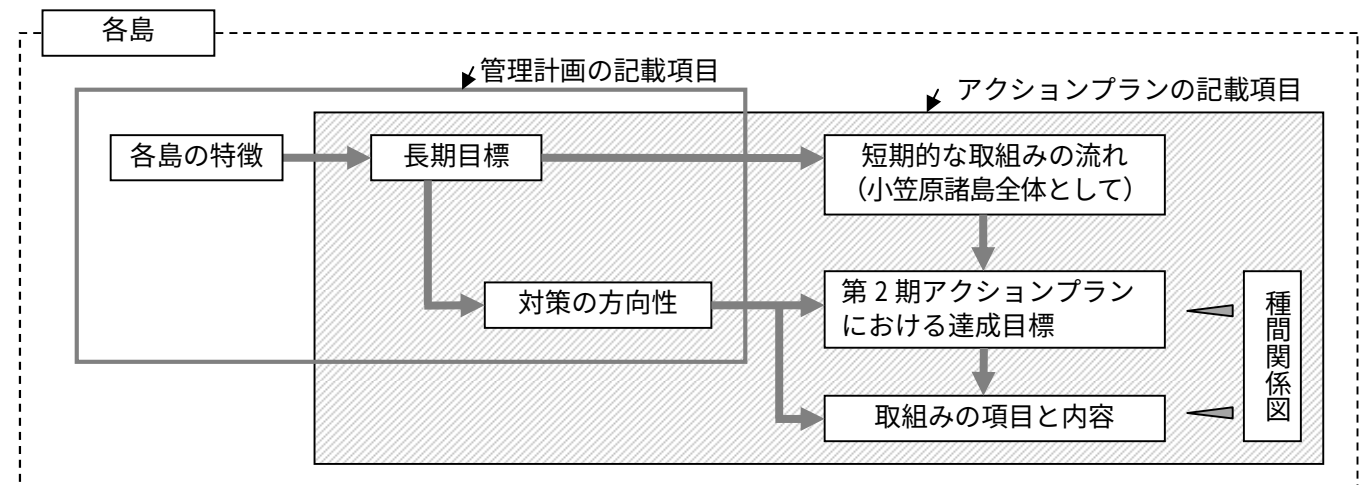
注）硫黄島について…世界自然遺産地域ではないため本アクションプランの対象外だが、人の交流があり、特に外来種の移動について留意する必要がある。

(4) アクションプラン【第 2 期】の策定について

- ・平成 22 年策定のアクションプラン（以下、「第 1 期アクションプラン」という。）では、対象とする島毎に平成 24 年度末までの短期目標が示され、これに基づいて各関係機関の協働により具体的な対策が実施されてきた。
- ・この結果、外来種の駆除等が進捗するに伴って、いくつかの固有の動植物に回復傾向が認められるなど取組みの効果が顕在化してきている一方で、新たな課題も浮かび上がってきている。
- ・そこで、第 1 期アクションプランでの経緯や取組みの効果、短期目標の達成状況を整理した上で、次のステップとして平成 25 年度以降の短期目標（5 年間：平成 29 年度末まで）を検討し、第 1 期アクションプランの改定版である「小笠原諸島生態系保全アクションプラン【第 2 期】」（以下、「第 2 期アクションプラン」という。）を策定した。

(5) アクションプランの構成

- ・小笠原諸島全体としての短期的な取組みの流れを示すとともに、対象とする島毎に、管理計画に基づく「長期目標」、ならびに「対策の方向性と第 2 期アクションプランにおける達成目標」、「取組みの項目と内容」について記載した。また、対策の方向性や取組みの項目を検討するための基礎的根拠となる種間関係図をあわせて示した。
- ・管理計画とアクションプランの記載項目の関連性は下記のとおりである。



2. 小笠原諸島全体としての短期的な取組みの流れ

(1) 第2期アクションプラン策定の背景

- ・小笠原諸島では、2010年に策定された第1期アクションプランに基づいて、これまでに様々な外来種駆除や希少種保全の取組みが実施されてきた結果、すでにいくつか特筆すべき成果が得られている。
- ・その例として、父島における山域のノネコが極めて低密度化されたことから、アカガシラカラスバトの生息状況に改善の傾向が見えている。また、父島列島の属島、賀島列島においてはノヤギが完全に排除されたほか、父島島内においては、東平地区において侵入防止柵によって再侵入できなくなったことで、これらの地域の植生に回復の傾向が現れている。さらに父島列島の無人島では、ネズミ類を一時的に根絶に近い状態まで至らしめたため、属島内での在来生物群（植物、動物含む）の急激な回復の成果が得られた。母島においても、一定の区画（新夕日ヶ丘 2ha）において、グリーンアノールの超低密度化を達成しており、絶滅危惧種を含む同区画内の昆虫相の著しい回復に成功している。
- ・しかし、依然として固有種群は危機的状況に置かれており、アカガシラカラスバトのノネコによる捕食や、グリーンアノールが生息する父島、母島において昆虫類は壊滅的打撃を受けているほか、陸産貝類についてもニューギニアヤリガタリクウズムシがひとたび侵入すれば壊滅的打撃を受けてしまう状況に変わりはない。
- ・一方、外来種駆除事業の進捗に伴って新たな問題が発生する事例も認められている。例えばノヤギ駆除によって、それまで摂食されていたギンネムの生育量が拡大するなどであり、今後の生態系保全管理を適切に進めていく上で、外来種同士の種間関係に留意した対策検討が重要となっている。
- ・第2期アクションプランは、このような現状を踏まえて策定したものであり、世界自然遺産の価値の保全のために必須、且つ緊急性の極めて高い事業群に関して、各機関の役割分担および科学的で順応的な管理の枠組みを整理した行動計画である。

(2) 兄島へのグリーンアノール侵入確認に伴う緊急対応について

- ・平成25年3月末、兄島において昆虫相等に壊滅的な被害を与え生態系に甚大な影響を及ぼすグリーンアノールの侵入が確認された。
- ・兄島は健全な乾性低木林の生態系が残存する世界自然遺産の核心地域の一つであり、顕著で普遍的な価値を維持するためには、グリーンアノールへの迅速且つ集中的な対策の実施が必要不可欠である。小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会から公表された「兄島に侵入したグリーンアノールに関する非常事態宣言と緊急提言」（平成25年3月27日）においても、侵入初期の根絶こそが唯一の解決策であり、一時的に他の外来種事業の休止も含め、予算、人員を集中的に投入すべきであるとされた。
- ・そのため第2期アクションプランの【兄島】については、別途策定された「小笠原諸島兄島におけるグリーンアノール短期防除計画」に基づき、今後3ヵ年（平成25～27年度）を対象として、グリーンアノールの早期根絶を図るために必要な取組み項目をあらゆる観点から検討を行った。

(3) 第2期アクションプランで位置づける特に重要な生態系、注目すべき希少種、侵略的外来種

- ・小笠原諸島では、これまでに様々な外来種駆除や希少種保全の取組みが実施されてきており、特に父島列島や賀島列島の生態系に極めて大きな影響を与えてきたノヤギは、父島以外のすべての島で根絶が達成された。こ

の結果、ネズミ類の駆除の進捗ともあいまって、多くの島で植生や動物相の回復効果が認めらるようになったが、一方でノヤギの駆除によるギンネムの増加、ネズミ類駆除後の再確認など、生態系の保全回復には困難を伴っている場合もみられる。

- ・第2期アクションプランでは、小笠原諸島の生態系の保全回復をさらに進めていくための行動計画として、過去の取組み経緯や成果に基づいて、次の①～④の観点から整理を行った。

①特に重要な生態系について

- 多くの固有種を育む小笠原諸島を代表する植生であり、且つ遺産価値が極めて高い森林として、乾性低木林（父島東部、兄島）および湿性高木林（母島）があげられる。これらの森林においては、モクマオウやギンネム、アカギ、リュウキュウマツ等の侵略的外来種の駆除を含め優先的に対策を講じていく。
- 特に兄島の乾性低木林では、上記のとおりグリーンアノールの防除に関する集中的な取組みにより保全を図るほか、父島では人の暮らしや観光利用にも留意した生態系保全を行っていく。

②注目すべき希少種について

- 固有植物（アサヒエビネ、ウラジロコムラサキ等）…希少植物の生育地内での安定的な生育状況の維持および回復、域外保全のための繁殖技術の確立を図るほか、保全的導入の検討を行う。
- 固有昆虫類（オガサワラハンミョウ、トンボ類等）…兄島中央台地上においてグリーンアノールの防除を行いつつ、モクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネムなどの外来種の駆除を継続し、生息環境の保全・回復を図る。また、オガサワラハンミョウの域外保全を継続するとともに、他の固有昆虫類（トンボ類等）の域外保全の検討に着手するほか、保全的導入の検討を行う。
- 固有陸産貝類…ネズミ類の駆除により、各島での個体数増加を図るほか、ニューギニアヤリガタリクウズムシの影響を可能な限り抑制する。また、同時並行として域外保全を継続するほか、保全的導入の検討を行う。
- オガサワラノスリ…本種にとって重要な餌資源であるネズミ類の駆除にあたっては、本種への影響も含めて検討を行った上で実施する。
- アホウドリ類…賀島（賀島鳥島含む）において、クマネズミの再侵入を監視するとともにギンネム等の駆除により外来植物の低密度化を図り、アホウドリ、コアホウドリ、クロアシアホウドリの安定的な繁殖・生息を目指す。

③生態系に大きな影響を及ぼす侵略的外来種について

- モクマオウ…小笠原諸島の植生全般に大きな影響を及ぼしている種である。今後とも各島にてモクマオウの駆除を継続し、さらなる低密度化を図る。
- ギンネム…ノヤギによる食圧効果の喪失や、モクマオウ等の駆除後の立地への急速な侵入も念頭に置きつつ、各島にて駆除を継続し、さらなる低密度化を図る。
- アカギ…母島の植生に大きな影響を及ぼしている種である。今後ともアカギの駆除を継続し、さらなる低密度化を図る。
- ノヤギ…唯一根絶が達成されていない父島においても平成22年度から駆除に着手しており、今後とも駆除を継続し、さらなる低密度化を図る。
- ネズミ類…固有陸産貝類に極めて大きな影響を及ぼす種であり、その他の動物相や植物相にも大きな影響を与える侵略的外来種である。ネズミ類の駆除は平成19年度に西島から着手され、平成22年度に兄島や弟島

など父島列島を中心に多くの島で駆除が実施された。しかし、西島、兄島、弟島、南島、人丸島、瓢箪島で再確認されたため、根絶に向けた駆除方法や手順について再検討を行う。なお、今後の駆除にあたっては、オガサワラノスリの重要な餌資源となっていること、母島の属島ではオガサワラカワラヒワをとりまく種間相互作用に留意すべきこと、兄島ではグリーンアノールの天敵である可能性があること等から、慎重な事前検討が必要である。

- ノネコ…現在、有人島である父島、母島のみに生息しており、飼いネコの適正飼養対策と合わせて効果的に実施していく。なお、侵入防止柵が設置された東平（父島）では、ノネコの排除を完了させる。
- グリーンアノール…兄島において根絶に向けた集中的な取組みを行うほか、母島でのアノール柵の維持管理および柵内での捕獲を継続していく。また、父島では属島への拡散防止を図る上でも低密度化の取組みを継続するほか、捕獲手法の改良検討を行う。
- ニューギニアヤリガタリクウズムシ…父島において固有陸産貝類のエリア防衛技術の確立を図っていくとともに、父島以外への拡散を厳重に防止する。

(4) 順応的な生態系保全管理の実現に向けて

- ・第2期アクションプランに基づく事業群は、関係機関・関係分野が多岐にわたり、事業規模も非常に大きいため、全ての事業群を網羅的、包括的に議論することは難しい。一方で、各取組みの実施に伴う生態系の変化は非常に早く、その変化を科学的にとらえ、順応的に事業に反映させる必要がある。
- ・そのため、後述の「3.アクションプランの運用面での改善」を行い、各取組みについて、「地域別」および「課題別」のそれぞれの観点から、機関横断的な検討を図ることが必要不可欠である。そして、これらの検討の結果を各事業に反映できる順応的な生態系保全管理体制の構築を目指すことが重要である。
- ・現在の検討体制の概念図は図1に示したとおりである。また、「地域別」および「課題別」に関して現在設置あるいは設置予定の主な検討機関について、その概要を①～②に示す。

①地域別の観点（地域別の生態系機能の回復状況等の検討）

- ・順応的な生態系保全管理の実現に向けた知見の蓄積のため、一定の対策が進んでいる地域別の事業群について、外来種駆除や生態系機能の保全回復の観点から、機関横断的な検討を行う。

<父島列島生態系保全管理ワーキンググループ>

科学委員会の下部組織として平成25年度に設置されたワーキンググループ。父島列島の生態系（主に父島・兄島・弟島）を対象として、種間相互作用に着目した生態系保全管理に関する検討・知見の蓄積を行い、各種事業の計画や実施に活用していく。

<東平地区における生態系保全方針検討会>

父島の東平地域では、これまでに多くの機関や団体が生態系保全事業に関わり、平成24年度にはノヤギ・ノネコ柵が完成するなど施策にも一定の進展がみられるほか、島民や観光客等に事業の成果を「見せることができる場所」としても重要な意味を持っている。今後、さらにきめ細かな管理を進めていくために、関係機関や団体が情報共有を図り、生態系保全管理の効率化を図っていくことを目的として設置された検討会。

<あたらしい新夕日ヶ丘づくりワーキンググループ(現地)>

母島の新夕日ヶ丘地域では、グリーンアノール侵入防止柵が設置され、柵内での捕獲が進められた結果、オガサワラシジミ等昆虫相の回復など一定の成果が認められている。今後とも母島の中北部地域における生態系保全管理の中心エリアとして、関係機関や団体の情報共有も含めた順応的な管理を行っていくことを目的として設置予定である。

②課題別の観点（課題ごとの解決に向けた検討）

- ・世界遺産委員会の指摘事項である、小笠原諸島における新たな外来種の侵入・拡散防止対策のための検討、または兄島のグリーンアノールの侵入への対処を教訓とする想定される緊急事態への準備に関する検討、その他保全対象種や外来生物種別の課題についての検討を行う。

<新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ>

科学委員会の下部組織として平成25年度に設置されたワーキンググループ。多岐にわたる外来種の侵入・拡散ルートを把握した上で、意図的・非意図的導入や重要地域への拡散防止等に関する対策の方向性や優先順位等を検討し、行動計画として策定していく。

<グリーンアノール対策ワーキンググループ>

兄島でのグリーンアノール根絶を目指して、科学的知見を結集し、関係機関や団体が連携して効率的・効果的に防除を進めることを目的として、科学委員会の下部組織として平成25年度に設置されたワーキンググループ。

<その他、保全対象種や外来種毎の種別の検討会>

外来生物については、ニューギニアヤリガタリクウズムシ、ネズミ等の種別の対策検討会、希少種についてはアカガシラカラスバト、希少昆虫類、希少植物の個別の検討会等が実施されている。

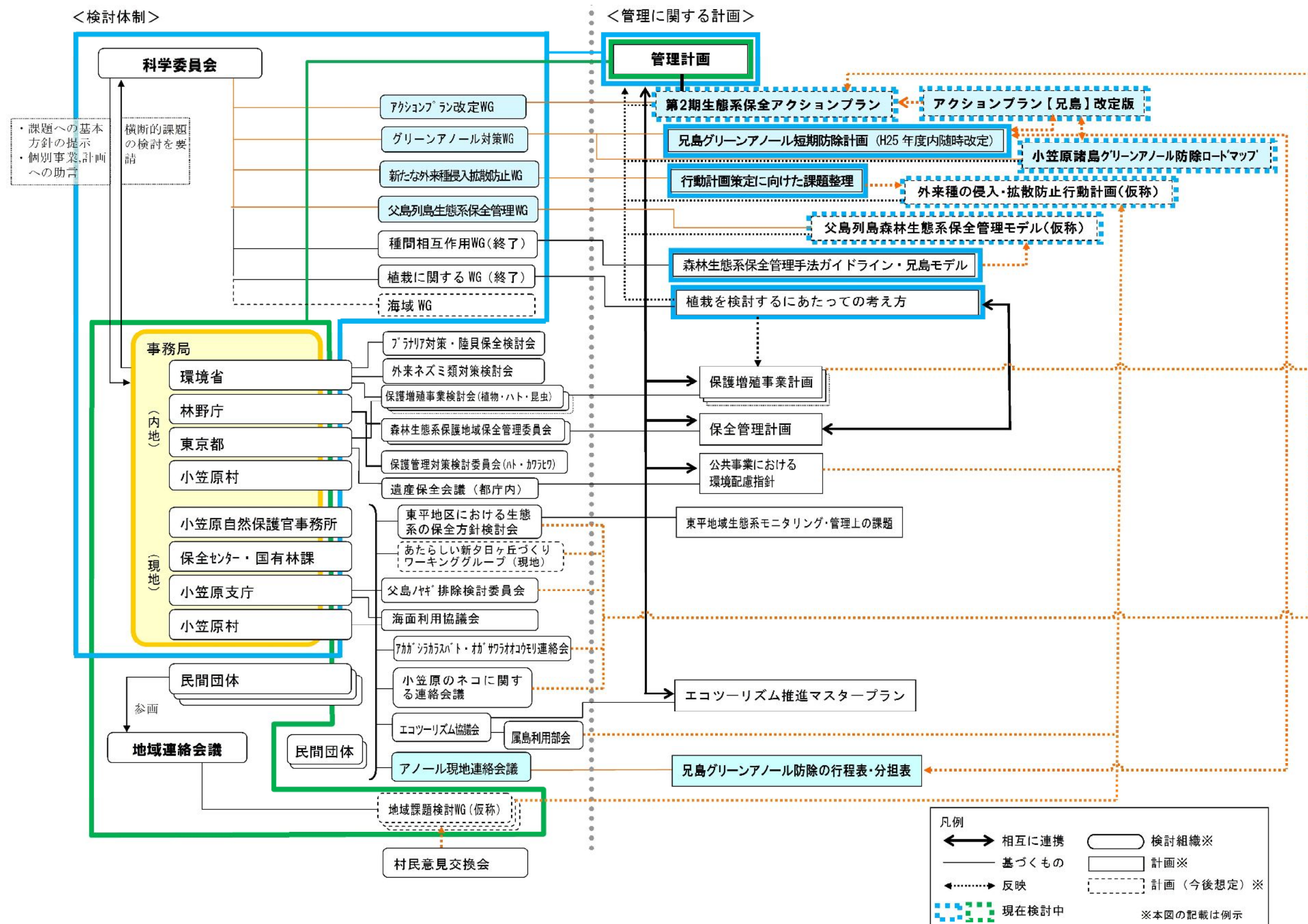


図1 小笠原諸島世界自然遺産地域の管理に関する検討体制及び各種計画の関係概念図

3. アクションプランの運用面での改善

(1) 第1期アクションプランの運用において明らかとなった運用面での課題

- ・第1期アクションプランの策定後、実際の事業を行っていく上で、行動計画としての運用の面から次のような課題が明らかとなってきた。

◎期間内の見直しの仕組みがない

- ・アクションプランで明示された個々の取組みについて、計画期間内に見直しを行う仕組みがない。
- ・そのため、策定時には予測困難であった著しい生態系変化や新たな外来種の侵入等が見られたとしても、アクションプランへのフィードバックを行うことができず、実際の運用において行動計画としての位置づけが曖昧となっている場合がある。

◎島やエリアを越えた取組みの位置づけが困難

- ・様々な事業が進捗しその効果によって、島やエリアを越えた希少種の回復等が確認されつつあり、現在のエリア区分での表現に限界がある。

◎有人島において、人の生活・産業等との関係への言及がない

- ・有人島における保全事業の取組は、人の生活・産業に密接に関係しているが、その言及がない。
- ・そのため、エコツーリズムなどの自然の利用や、島民・観光客への普及啓発の観点等、自然保全の取組と人の生活・産業との接点での課題が見えにくくなっている。

- ・これらに関連し、科学委員会からも「著しい生態系変化が生じているエリアは十分な議論を行うこと」、および「事業の成果や影響を定期的に評価し、計画の見直しが行えるような仕組みを検討すること」といった指摘があった。

(2) アクションプラン運用上の改善について

- ・上記(1)の課題を踏まえ、第2期アクションプランでは、以下①～④に示す運用面での改善を図ることとした。

①アクションプラン見直しの柔軟化

- アクションプランの改定は5年間隔を基本としつつも、生態系の著しい変化等が確認された場合には、必要に応じて科学委員会のもとにWGを設置し、アクションプラン見直しの検討を行う。
- なお、当該WGでは、個別の検討組織（下記②）や管理機関からの報告を受け、アクションプランの見直しの是非について確認し、必要に応じて見直し案を作成の上、科学委員会へ報告する。

②個別の検討組織との連携

- 生態系が著しく変化しているエリア、個別の希少種を保全するための対策が必要である等の重要なエリア、あるいは生態系の保全上重要な種の取り扱いについては、個別に検討を行う組織（検討会やワーキンググループ）が設置され、それぞれが専門とする分野について定期的に詳細な検討が行われている。
- 各検討組織は、それぞれが専門とする分野について検討を行う中で、事業の進捗状況、生態系の変化、最新の知見等から、アクションプランの見直しが必要であると判断した場合には、そのことを科学委員会に報告する。また、上記WGにおいてアクションプランの見直しに向けた検討が行われる際には、それぞれが専門とする分野についての検討成果や情報の提供等を行う。

③島やエリアを越えた生態系変化への留意

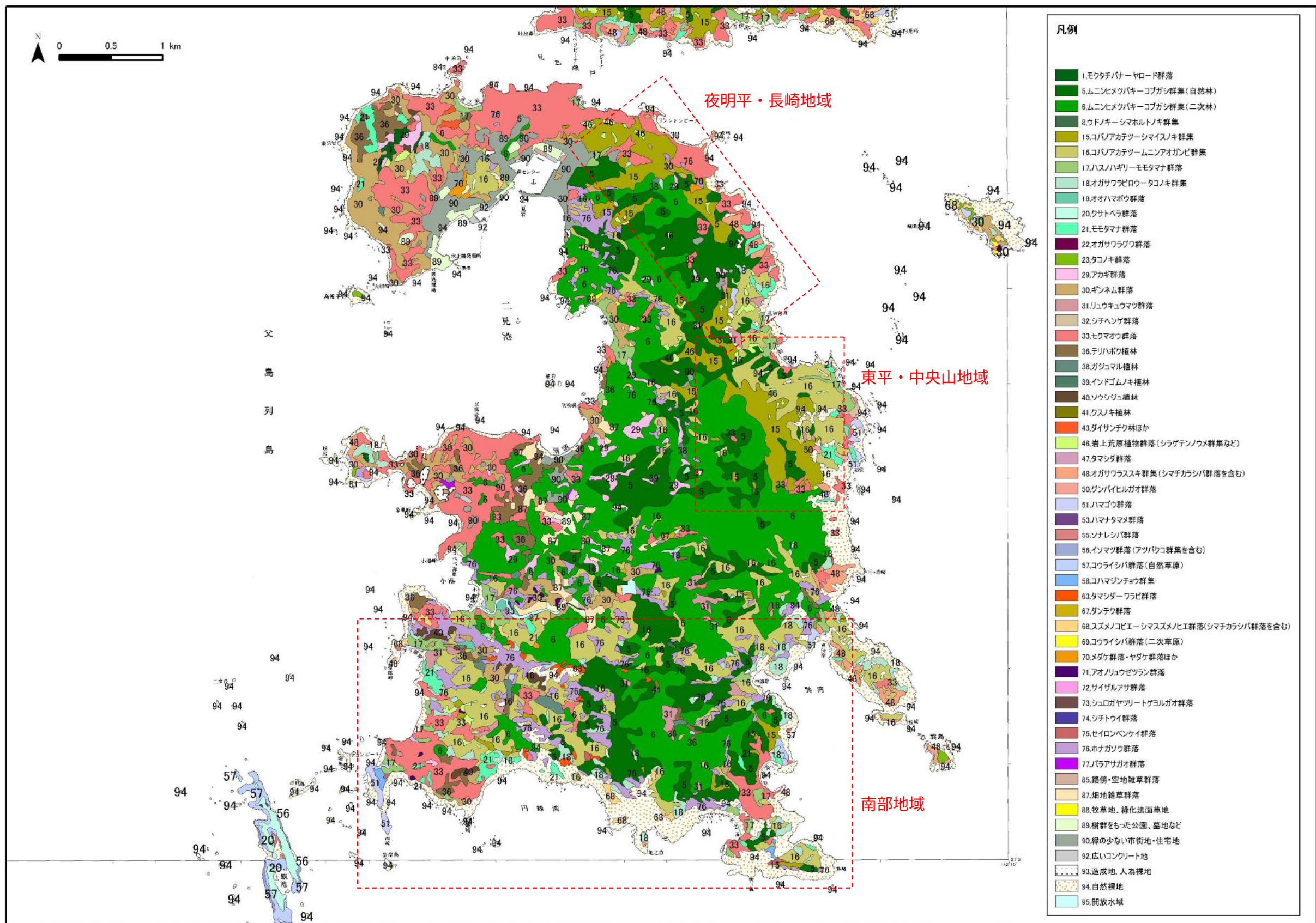
- アクションプランは各島やエリアを基本に構成したものであるが、これまでの事業実施の効果により島やエリアを越えた希少種の回復等が確認されつつある。これは、オオコウモリや鳥類、昆虫類など飛翔力の高い種などが、移動により他の島やエリアの生態系にも関与しているためである。
- このため、事業の検討・実施にあたっては、他の島やエリアでのモニタリング結果等の最新情報を可能な限り入手しつつ、当該種間関係図内に含まれる広域移動種の動向には留意することが望まれる。

④人の生活・産業等との関係への言及

- 父島および母島に関しては、生態系保全管理を行っていく上で密接な「人の生活」や「産業」等との関係についても言及し、これらを念頭においたアクションプランとして検討を行う。

4. 島毎の生態系保全アクションプラン

島毎の生態系保全アクションプランを次頁以降に示す。



植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 父島における生態系保全管理の長期目標

人の暮らしや観光利用に留意しつつ、乾性低木林やムニンヒメツバキ林を中心とした生態系、固有陸産貝類やアカガシラカラスバト等の生息地を保全する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- 父島は約 2,000 人が暮らす有人島であり、観光が重要な産業の一つである。そのため、生態系保全管理では、人の暮らしと外来種との関係や景観保全の観点、また世界自然遺産地域内に設定された指定ルートやサンクチュアリでのエコツアー等、観光利用の観点にも留意し、世界自然遺産の価値に関する普及、生態系保全の取組の情報発信、新たな外来種拡散防止の対策を講じていく必要がある。特に、これまでのノネコ対策の成果として、アカガシラカラスバトの生息状況に回復の兆候がみられる一方で、集落地での飼いネコとのトラブルや交通事故が発生しており、これらへの地域ぐるみでの対応（地域課題WGでの検討等）が必須である。
- 生態系保全や外来種の拡散防止や防除、情報発信の拠点として、世界自然遺産センターの整備を進める。
- 父島での生態系を保全、復元していくために、父島の森林生態系の核心部分である東平・中央山地域でのノヤギ・ノネコ排除柵の維持管理をはじめ、引き続きモクマオウやギンネム等の侵略的外来植物やノヤギ・ノネコの低密度化を図っていくほか、クマネズミの根絶に向けた検討を中長期的に行う。
- ニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食圧から陸産貝類を守るための技術開発や重要地域への侵入防止対策、周辺属島への保全的再導入に向けた検討に着手する。また、属島への拡散防止の観点から大村地区周辺でのグリーンアノールやオオヒキガエルの捕獲を継続するほか、兄島への再侵入防止の観点から父島北部地域（宮ノ浜）でのグリーンアノールの捕獲に着手する。
- アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリ、固有昆虫類の生息状況の維持、生態系での機能の回復を図っていくための基礎情報の蓄積を行う。特にオガサワラオオコウモリについては、農業被害や観光による影響（ねぐら観察）、ねぐら地環境の保全に留意した現状把握を行う。
- また、内地から小笠原諸島への新たな外来生物の侵入防止のための必要な対策について、意図的導入（愛玩動物、農業・園芸植物等）、非意図的導入（人や園芸植物への付着、熱帯魚飼育に伴う導入、公共事業、産業資材等）の両面から検討を進める。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	ギンネム、モクマオウ、リュウキュウマツ、アカギ、ガジュマルの駆除を実施・継続中。	ギンネム、モクマオウ等の侵略的外来種のさらなる低密度化。	固有森林生態系修復検討委員会など
②ノヤギの駆除	銃器やわなにより捕獲を進め、継続中。	ノヤギのさらなる低密度化。	—
③ノネコの排除	ノネコの排除を実施・継続中。	ノネコの排除を継続し、さらなる低密度化。	—
④ニューギニアヤリガタリクウズムシの生息域の拡大防止	侵入防止施設の施工および実験を実施・継続中。	侵入防止施設の効果検証、新たな対策の検討。	プラナリア対策・陸産貝類保全検討会
⑤グリーンアノールの根絶	大村地区周辺においてトラップ設置による捕獲を実施・継続中。	捕獲を継続し、さらなる低密度化および捕獲手法の改良検討。	—
⑥オオヒキガエルの根絶	大村地区周辺においてタモ網等による捕獲を実施・継続中。	捕獲を継続し、さらなる低密度化および捕獲手法の改良検討。	—
⑦クマネズミの根絶	(中長期的に対応)	(中長期的に対応)	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	人工授粉や播種試験の実施、希少植物へのネットの設置によりネズミ類からの食害を回避。	引き続き植生の保全・回復を図るための対策を継続。	小笠原希少植物保護増殖事業に関する検討会（開催予定）
②希少鳥獣類の保全	アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	アカガシラカラスバト保護増殖事業検討会
③固有昆虫類の保全	固有トンボ類の生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議
④固有陸産貝類の保全	固有陸産貝類の生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	プラナリア対策・陸産貝類保全検討会
⑤生態系機能の保全	父島列島の生態系を対象として、種間相互作用に着目した生態系保全管理に関する検討を開始。	固有の森林生態系の保全管理手法の解明に向けた実態把握。	父島列島生態系保全管理WG

3) 取組みの項目と内容

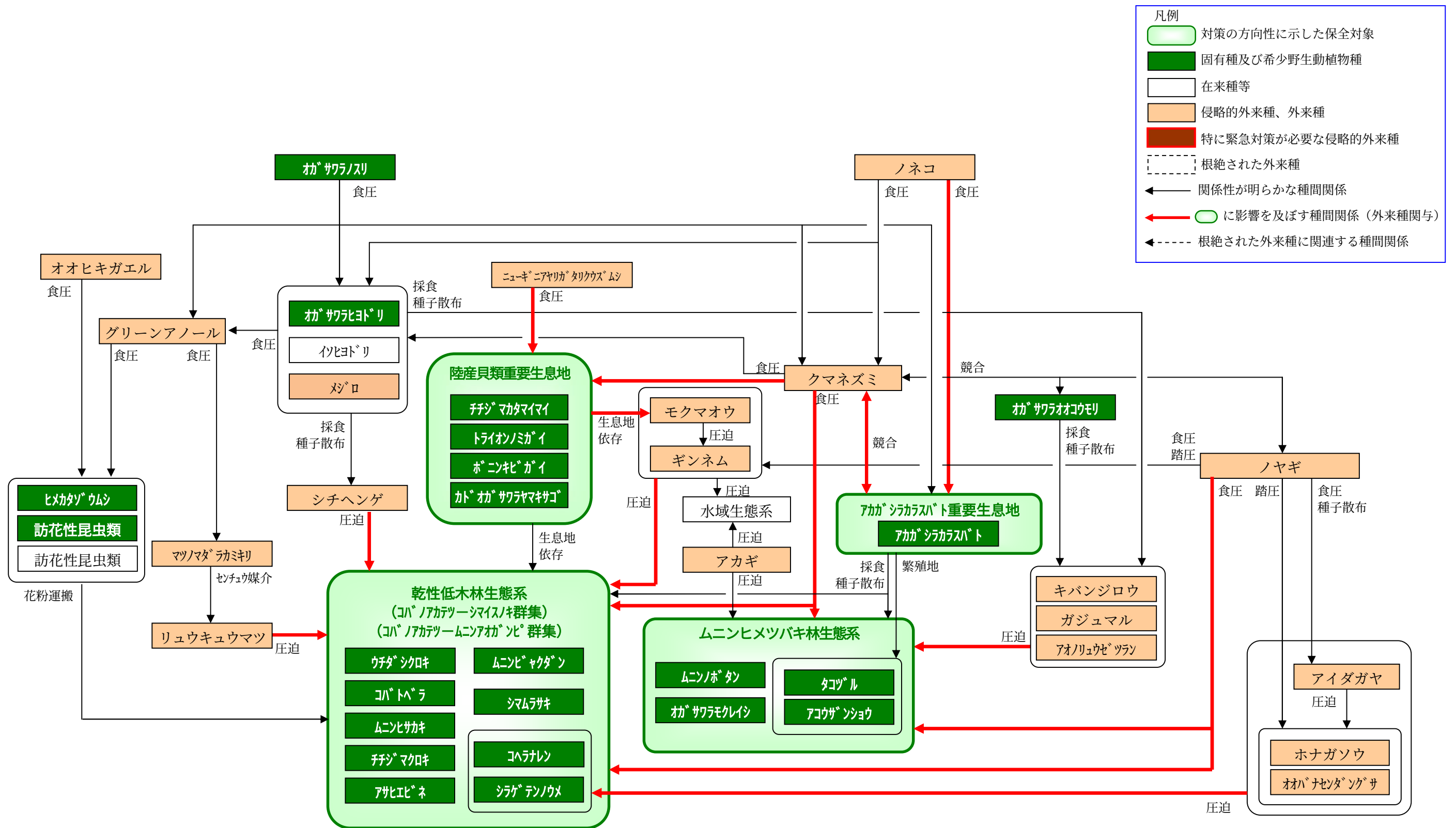
凡例 ●：実施地域
(●)：個別での実施は予定していないが、他の対策実施時に一体的に行うことを検討
○：検討対象地域（調査区は設置せず）

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	夜明平 長崎	東平 中央山	南部	その他	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○ギンネム駆除	●	●	●	●	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁 東京都
		○モクマオウ駆除	●	●	(●)	(●)	ギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
		○リュウキュウマツ駆除	●	●	(●)	(●)	リュウキュウマツの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
		○アカギ駆除	●	●	(●)	(●)	アカギの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○ガジュマル駆除	●	●			ガジュマルの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○ホナガソウ駆除		●			ホナガソウの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○シマグワ駆除	●	●			シマグワの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○キバンジロウ駆除	●				キバンジロウの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○都有地内外来植物駆除	●	●			都有地内の外来植物（キバンジロウ、シマグワ等）の駆除による低密度化。	東京都
②ノヤギの根絶	ノヤギによる生態系への影響排除	○ノヤギ駆除	●	●	●	●	ノヤギの駆除を継続し、さらなる低密度化。	東京都
③ノネコの排除	ノネコによる生態系への影響排除	○ノネコ排除	●	●	●	●	ノネコの排除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
④ニューギニアヤリガタリクウ ズムシの生息域の拡大防止	ニューギニアヤリガタリクウズムシによる固 有陸産貝類への影響排除	○ニューギニアヤリガタリクウズムシ の侵入防止対策の検討				●	侵入防止施設の効果検証、新たな対策の検討。重要地域（鳥山）への侵入防止対策の着手。	環境省
⑤グリーンアノールの根絶	グリーンアノールによる昆虫類への影響排除	○グリーンアノール駆除				●	属島へのグリーンアノールの拡散を防止する観点から、大村地区周辺での捕獲を継続し、 また、兄島への再侵入防止の観点から、父島北部（宮ノ浜周辺）での捕獲に着手。	環境省
⑥オオヒキガエルの根絶	昆虫類や土壌動物への影響排除	○オオヒキガエル駆除				●	父島島内からの排除のための手法を検討するため、集落地域周辺での捕獲を継続し、さら なる低密度化および捕獲手法の改良検討。	環境省
⑦クマネズミの根絶	クマネズミによる生態系への影響排除	○クマネズミ駆除					生態系保全の観点から、排除手法の検討含め、中長期的に検討。	環境省

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	夜明平 長崎	東平 中央山	南部	その他	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	希少植物の個体数の維持、回復	○希少植物の保全	●	●	●	●	希少植物（コバトベラ、ウラジロコムラサキ、コヘラナレン等）へのネットの設置により ノヤギ・ネズミ類の食害の回避。	環境省
			●	●	●	(●)	林木育種センター育成の父島産オガサワラグワの野生復帰(具体の箇所については検討中)	林野庁
						●	タコノキ植栽箇所のモニタリング ^a 等	林野庁
		○希少植物の巡視	●	●	●	●	希少植物（コバトベラ、ウラジロコムラサキ、コヘラナレン等）の巡視	林野庁
②希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の安定的な生息に向けた現況把握	○アカガシラカラスバトの生息調査		●			アカガシラカラスバト保護増殖事業計画に基づき、調査等を継続し、さらなる基礎情報を 蓄積。	環境省 林野庁
		○オガサワラオオコウモリの生息調査	●	●	●	●	都有地を活用してオガサワラオオコウモリの保全を図るため、オガサワラオオコウモリ の生息状況や生態等、さらなる基礎情報を蓄積。	東京都
③固有昆虫類の保全	固有トンボ類の安定的な生息に向けた現況把握	○固有トンボ類の生息調査	●	●	●	●	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
④固有陸産貝類の保全	固有陸産貝類の種の保全	○域外保全、及び、保全的再導入				●	域外での飼育（室内・野外）の継続、さらなる基礎情報の蓄積。父島個体群の周辺属島へ の保全的再導入の検討。	環境省
⑤生態系機能の保全	生態系機能の現状把握	○植生変化・世代交代の確認		●			調査区を設置し、実生の発生状況調査を含む植生調査等を経年的に実施。	林野庁
		○種間相互作用による生態系機能の解明	○	●	○	○	調査区を設置しての植生調査やライントランセクト法による動物調査等を経年的に実施 し、種間関係図等を作成。	林野庁



■特定地域への対応

東平・中央山地域では、アカガシラカラスバトの重要な繁殖地や希少植物の生育地点などを保全するためにノヤギ・ノネコ侵入防止柵が設置され、各機関連携により外来種対策等の事業も進められてきた。この結果、柵の内側では、外側と比べて生態系の一層の回復が認められつつあること、また柵の内側のみを対象とした事業も展開されていることから、柵の内側に限られる取組みを「特定地域」として以下に整理した。

1）東平・中央山地域【ノヤギ・ノネコ柵の内側】における生態系保全管理の長期目標

乾性低木林やムニンヒメツバキ林を中心とした生態系、固有陸産貝類やアカガシラカラスバトの生息地を保全する。

2）対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・東平・中央山地域は生態系の核心部分であり、ノヤギ・ノネコ柵が設置され生態系の回復が図られている。特にアカガシラカラスバトの重要な生息範囲としてサンクチュアリや指定ルートが設定されており、エコツアーが催行される代表的な地域として、生態系及び観光利用の双方に留意した対策を講じていくことが必要である。
- ・ノヤギ・ノネコ柵が設置され、その内側ではノヤギの根絶が達成されたほか、ノネコの残存個体もわずかとなっていることから、捕獲体制を維持・強化し、周辺山域含めたノネコの完全排除を目指す。
- ・今後、柵内の生態系を保全、維持していくために、クマネズミやグリーンアノールの対策実施に向けた検討を中長期的に行う。
- ・また、アカガシラカラスバトの生息状況の維持、回復を図っていくための基礎情報の蓄積を行う。

（1）侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	ギンネム、モクマオウ、リュウキュウマツ、アカギ、ガジュマル、シマグワ、グァバ、ソウシジュ、キバンジロウの駆除を実施・継続中。	ギンネム、モクマオウ等の侵略的外来種のさらなる低密度化。	東平地区における生態系の保全方針検討会（※）
②クマネズミの根絶	山域でのクマネズミの生息状況のモニタリング。	生態系保全の観点から、排除手法の検討含め、中長期的に検討。	
③ノネコの排除	柵内では平成24年度までに完全排除に近い状態を達成。	残存個体の排除。	
④グリーンアノールの根絶	山域でのグリーンアノールの生態の基礎的な情報を収集。父島では個体群が激減しているヒメカタゾウムシ等、昆虫類の生息状況の情報を収集。	東平地区での昆虫相の現況を調査する。兄島でのグリーンアノール対策の技術を活用した、父島での対策実施に向けた方向性を検討する。	
○ノヤギの駆除	平成24年度に柵内の根絶を完了。	再侵入時における速やかな対応。	

（2）在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	人工授粉や播種試験の実施、希少植物へのネットの設置によりネズミ類からの食害を回避。	引き続き植生の保全・回復を図るための対策を継続。	東平地区における生態系の保全方針検討会 小笠原希少植物保護増殖事業に関する検討会（開催予定）
②希少鳥獣類の保全	アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	

（※）東平地域及びその周辺については、ノネコ・ノヤギの排除及び侵入防止柵の整備、外来植物対策等がすすみ、保全事業の取組に一定の進捗が見られている。また、侵入防止柵の内部では、希少植物やアカガシラカラスバトの保護増殖事業、外来植物対策等、機関横断的な各種の保全の取組が行われている。これらの成果や中長期的な課題への機関横断的な取組の評価や第2期アクションプランに記述されている取組内容の検討については、平成24年度から実施されている「東平地区における生態系の保全方針検討会」等において行う。

3) 取組みの項目と内容

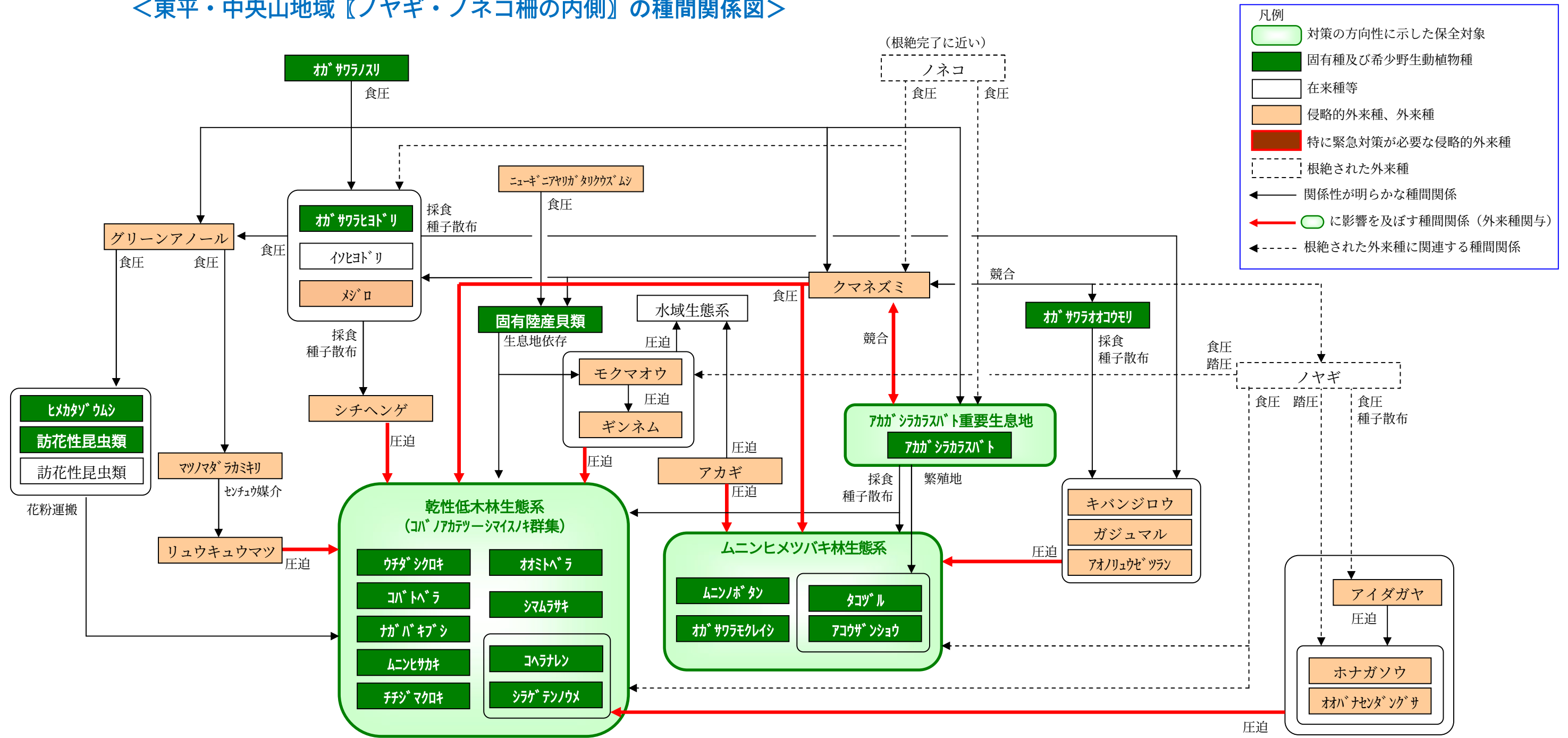
(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○ギンネム駆除	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
		○モクマオウ駆除	ギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
		○リュウキュウマツ駆除	リュウキュウマツの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
		○アカギ駆除	アカギの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○ガジュマル駆除	ガジュマルの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
②ノネコの排除	ノネコによる生態系への影響排除	○ノネコ排除	ノネコの排除を継続し、残存個体の排除状態を維持。	環境省
		○ノヤギ・ノネコ柵の維持	ノヤギ・ノネコ柵の維持。必要に応じて改良や補修を実施。	環境省
③クマネズミの根絶	クマネズミによる生態系への影響排除	○クマネズミ駆除	生態系保全の観点から、排除手法の検討含め、中長期的に検討。	環境省
④グリーンアノールの根絶	グリーンアノールによる昆虫類への影響排除	○グリーンアノール駆除	東平地区での昆虫相の現況を調査する。兄島でのグリーンアノール対策の技術を活用した、父島での対策実施に向けた方向性を検討する。	—

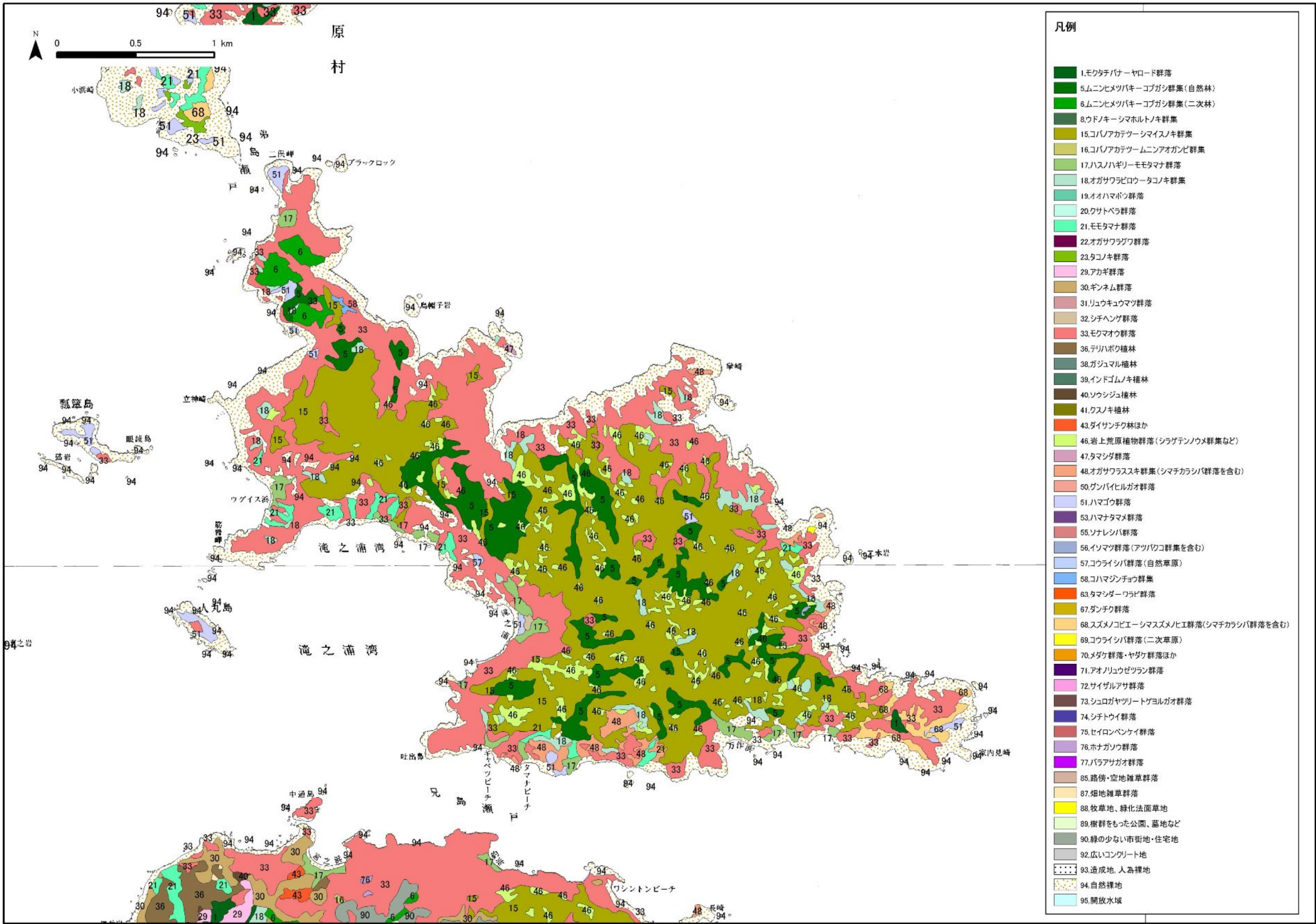
(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	希少植物の個体数の維持、回復	○希少植物の保全	希少植物（コバトベラ、ウラジロコムラサキ、コヘラナレン等）の生育環境改善、人工増殖等の域内保全、域外保全の継続により、個体数の安定、回復を図る。希少植物を被圧する外来植物の除去を進める。	環境省
②希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の安定的な生息に向けた現況把握	○アカガシラカラスバトの生息調査	アカガシラカラスバト調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省 林野庁
		○オガサワラオオコウモリの生息調査	オガサワラオオコウモリ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省

＜東平・中央山地域【ノヤギ・ノネコ柵の内側】の種間関係図＞



兄 島



植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 兄島における生態系保全管理の長期目標

岩上荒原植生を含む乾性低木林を中心とした生態系において本来の種間関係の回復を図り、生態系の機能を維持・向上させる。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・喫緊の課題であるグリーンアノールの早期根絶を図るために、「小笠原諸島兄島におけるグリーンアノール短期防除計画」に基づき、各機関が連携して可能な限りの対策を講じる。
- ・また、これまでの外来種駆除事業の成果や進捗状況を踏まえ、兄島での生態系を保全、復元していくために、モクマオウやギンネム等の侵略的外来植物の個体数低減を図っていくほか、クマネズミの個体数の適正なコントロールに向けた取り組みを行う。
- ・オガサワラハンミョウや固有トンボ類の生息状況の維持、回復を図っていくために、域外保全のための飼育・保護増殖技術の開発に取り組む。希少植物も同様に繁殖技術の確立を目指す。
- ・アカガシラカラスバトやオガサワラオコウモリ、固有陸産貝類などの希少種の生息状況の維持、回復を図るとともに、乾性低木林など固有の森林生態系の保全管理手法の解明に向けた実態把握を行う。

(1) 侵略的外来種に対する防除

：最優先で実施すべき対策

対策の方向性	第1期アクションプランによる取り組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①グリーンアノールの早期根絶	平成25年3月末に兄島へのグリーンアノールの侵入を確認し、その後、緊急的に策定した「小笠原諸島兄島におけるグリーンアノール短期防除計画」に基づいて防除事業を実施。	グリーンアノールの根絶及び父島からの再侵入防止に向けた取り組みへの着手。 ※ここでの「根絶」とは、高密度にトラップを設置してもアノールが捕獲できない検出限界以下の状態を指す。	・グリーンアノール防除に関する現地連絡会議 ・グリーンアノール対策WG
②クマネズミの個体数の適正コントロール	平成21年度に第1世代抗凝血性毒物の空中散布事業を実施し、平成22～24年度に事業成果を確認するための事後モニタリングを実施していたところ、平成24年9月にクマネズミの残存が確認されたため、その後は個体数の増加、分布域の拡大等の状況を監視しつつ、駆除方法の改善・見直しを検討中。	クマネズミの適正な個体数レベルの明確化及びコントロールのための方策（根絶手法含む）の検討・確立。	・小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会
③侵略的外来植物の個体数低減	リュウキュウマツ、モクマオウ等侵略的外来植物の駆除を実施しているが、特にモクマオウ、ギンネム、シチヘンゲ等については、ノヤギの根絶、クマネズミの低密度化による摂食、踏圧の低下により駆除事業の実施にも関わらず生育量や個体数が増加したエリアも出現。また、ガジュマル、シマグワ、クリノイガ類等の生育を確認。	侵略的外来植物（モクマオウ、ギンネム、シチヘンゲ等）の低密度化。侵入初期のガジュマル、シマグワ等の状況監視。	・固有森林生態系修復検討委員会
④未侵入（未定着）外来種の侵入防止と対応強化	侵略的外来種のうち、ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入は未確認である。オオヒキガエルは平成22年7月に確認された1匹がすでに駆除され、その後のモニタリングにより未定着と判断。	ニューギニアヤリガタリクウズムシ及びオオヒキガエルの未侵入（未定着）状態の維持、ならびに侵入時の早期発見と緊急対応の実施体制の確保。	・新たな外来種の侵入拡散防止WG ・ブラナリア対策・陸産貝類保全検討会
○ノヤギの駆除	平成16～19年度に駆除事業を実施し、平成20～21年度に事業成果を確認するための事後モニタリングを実施した上で、平成21年度末に根絶完了と判断。		
○ノネコの排除	平成21年度に排除事業を実施し、平成22～23年度に事業成果を確認するための事後モニタリングを実施した上で、平成23年度末に根絶完了と判断。		

（２）在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	第１期アクションプランによる取組み成果及び現状	第２期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①固有昆虫類の保全	オガサワラハンミョウについては、域外保全として卵から３齢幼虫までの飼育技術はほぼ確立されたが、現地では確認個体数や分布が減少しつつあり、生息地環境の復元等の対策を実施中。固有トンボ類の生息状況は、大きな変化なし。	固有昆虫類の生息個体数の維持、訪花性昆虫類のポリネーターとしての機能の維持、オガサワラハンミョウ等の域外保全のための飼育・保護増殖技術の開発。	・小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議
②希少植物の保全	希少植物（アサヒエビネ、ウラジロコムラサキ、シマカコソウ、コヘラナレン）の生育状況の把握、課題抽出、域外保全の実施。	希少植物の生育地内での安定的な生育状況の維持・回復、域外保全のための繁殖技術の確立。	・小笠原希少野生植物保護増殖事業に関する検討会（開催予定）
③希少鳥獣類の保全	アカガシラカラスバトは、他の島での外来種駆除の効果もあり、確認頻度が増加しつつあり、営巣も確認。オガサワラノスリは、クマネズミ駆除に伴う繁殖率低下等、影響を懸念。オガサワラオオコウモリは、生息状況等の知見が不足。	アカガシラカラスバト、オガサワラノスリ、オガサワラオオコウモリの生息状況の維持、回復。	・アカガシラカラスバト保護増殖検討会 （オガサワラノスリ、オガサワラオオコウモリについては、個別の検討組織は未設置であるが、関係機関による情報共有を実施）
④固有陸産貝類の保全	クマネズミ駆除事業の効果により陸産貝類相は回復しつつあるが、クマネズミの再確認により経過観察中。	陸産貝類の生息状況の維持、回復。	・外来ネズミ類対策検討会
⑤生態系機能の保全	乾性低木林を対象として、優占植物や侵略的外来種など主な生物間の種間相互作用に着目した森林生態系の保全管理手法のガイドラインを作成。しかし、新たにグリーンアノールの侵入による影響や、島間移動種の扱いなど検討課題が残されている。	乾性低木林など固有の森林生態系の保全管理手法の解明に向けた実態把握。	・父島列島生態系保全管理WG

3) 取組みの項目と内容

※記載の方針

- ・通常業務は除く。（東京都レンジャー業務の一貫としてのパトロールや、外来種対策への協力等）
- ・ネズミ類対策のように、複数の保全対象種にまたがる外来生物対策については「(1)侵略的外来種に対する防除」にて記載することとし、「(2) 在来種の保全及び生態系の機能把握の保全」では再掲していない。保全対象種と外来生物対策の関係については、種間関係図を参照のこと。

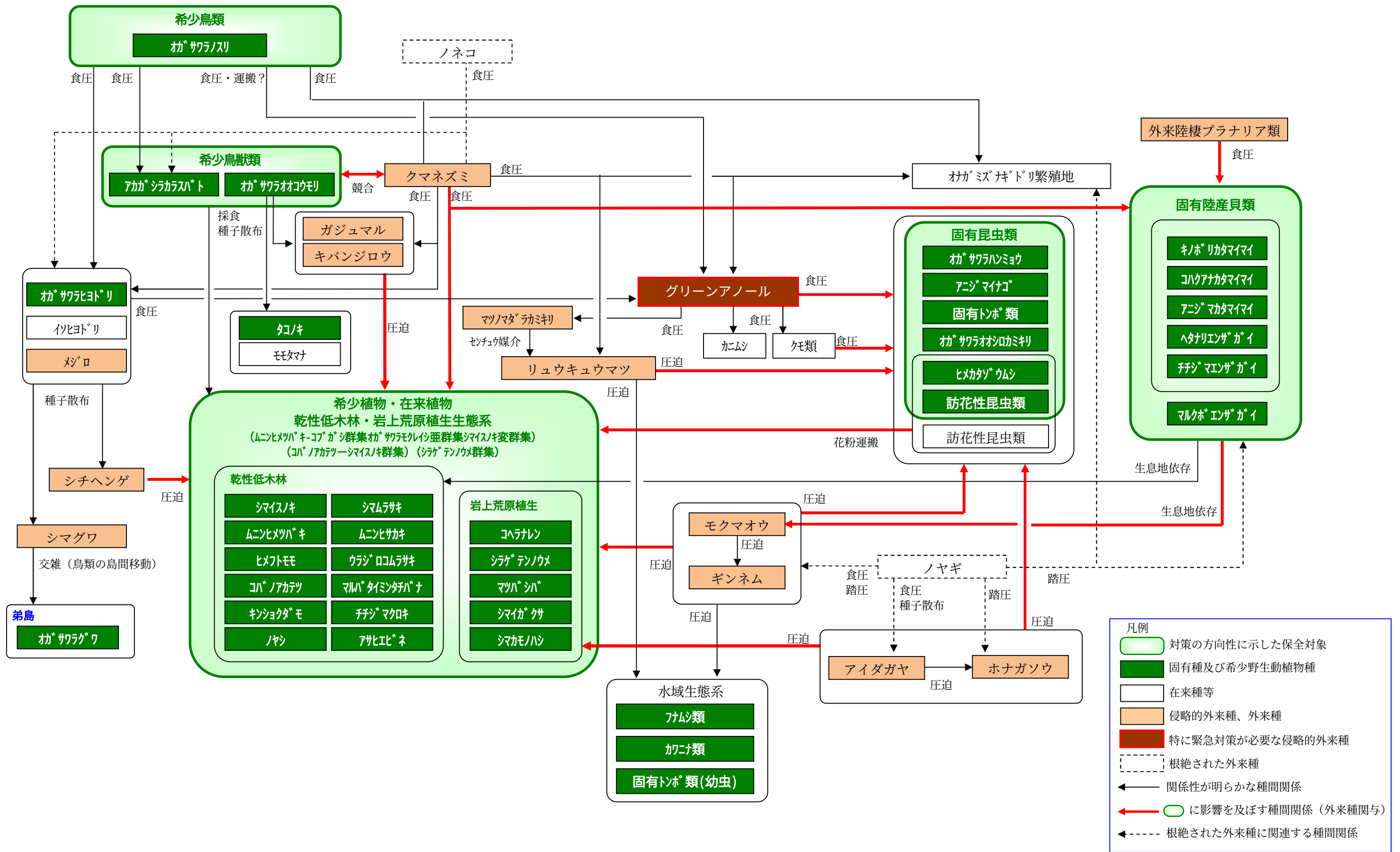
(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目 (H27 年度末まで)	内容	実施 機関	実施時期		
					25	26	27
①グリーンアノールの早期根絶	グリーンアノールの生息実態・分布実態の把握	○Aエリアでの集中捕獲事業の効果確認	○Aエリアでの集中捕獲作業の効果を確認するため、目視センサス、トラップでの捕獲状況の確認を継続的に実施	環境省			
		○Bエリア・Cエリアにおける生息確認調査	○Bエリア及びCエリアの保全上重要な箇所を中心に、目視センサス、センサートラップの設置等によりグリーンアノールの新たな生息を早期に発見するための調査	環境省			
			○Cエリアの第3次防衛ライン以西を中心に、目視センサス等によりグリーンアノールの新たな生息を早期に発見するための調査	東京都			
		○島内全域でのモニタリング計画の策定、実施	○グリーンアノールのモニタリング計画（方法、区分け、頻度、評価手法など）を検討し、島内全域でのモニタリング計画を作成、各機関と協力して実施する。	環境省			
	グリーンアノールの個体数の低減及び低密度状態の維持	○Aエリアでの集中捕獲	○Aエリア全域を対象としたトラップの高密度設置による集中捕獲を実施	環境省			
		○Bエリア・Cエリアにおける生息確認時の捕獲	○Bエリア及びCエリアでの目視センサス、センサートラップにおいて生息が確認された場合における発見個体の捕獲と発見個所周辺におけるトラップの高密度設置による集中捕獲を実施	環境省			
			○第3次防衛ライン以西における上記対応	東京都			
	グリーンアノールの個体群の拡散防止	○第1次防衛ラインへの捕獲柵の設置	○Aエリアの北端部への第1次防衛ラインとしての簡易構造物「捕獲柵」の設置	環境省			
		○第2次防衛ラインへのフェンスの設置	○BエリアからCエリアへの拡散を防止するため、Bエリアの北端部への第2次防衛ラインとしてのフェンスの設置	環境省			
	グリーンアノールの再侵入の防止	○兄島への再侵入リスクの低減	○父島での対策の実施（属島への侵入防止に係るトラップ設置の検討及び捕獲の実施）	環境省			
	グリーンアノール防除事業の影響の確認	○グリーンアノールのトラップ設置に伴う混獲状況の把握	○グリーンアノールのトラップによる昆虫類、陸産貝類、爬虫類、鳥類等の混獲状況を把握するための調査の実施	環境省			
	グリーンアノール防除に必要な調査研究の推進	○より効率的・効果的な捕獲技術の開発	○発見時の効率的・効果的な捕獲手法の検討、トラップによる混獲防止手法、より効果的なトラップの設置・管理方法、グリーンアノールの誘引方法、効果的な薬剤の使用方法的の検討	環境省			
		○クマネズミによるグリーンアノールの捕食圧の把握	○グリーンアノール生息域内でのクマネズミによるグリーンアノールの捕食状況を確認するための調査の実施	環境省			

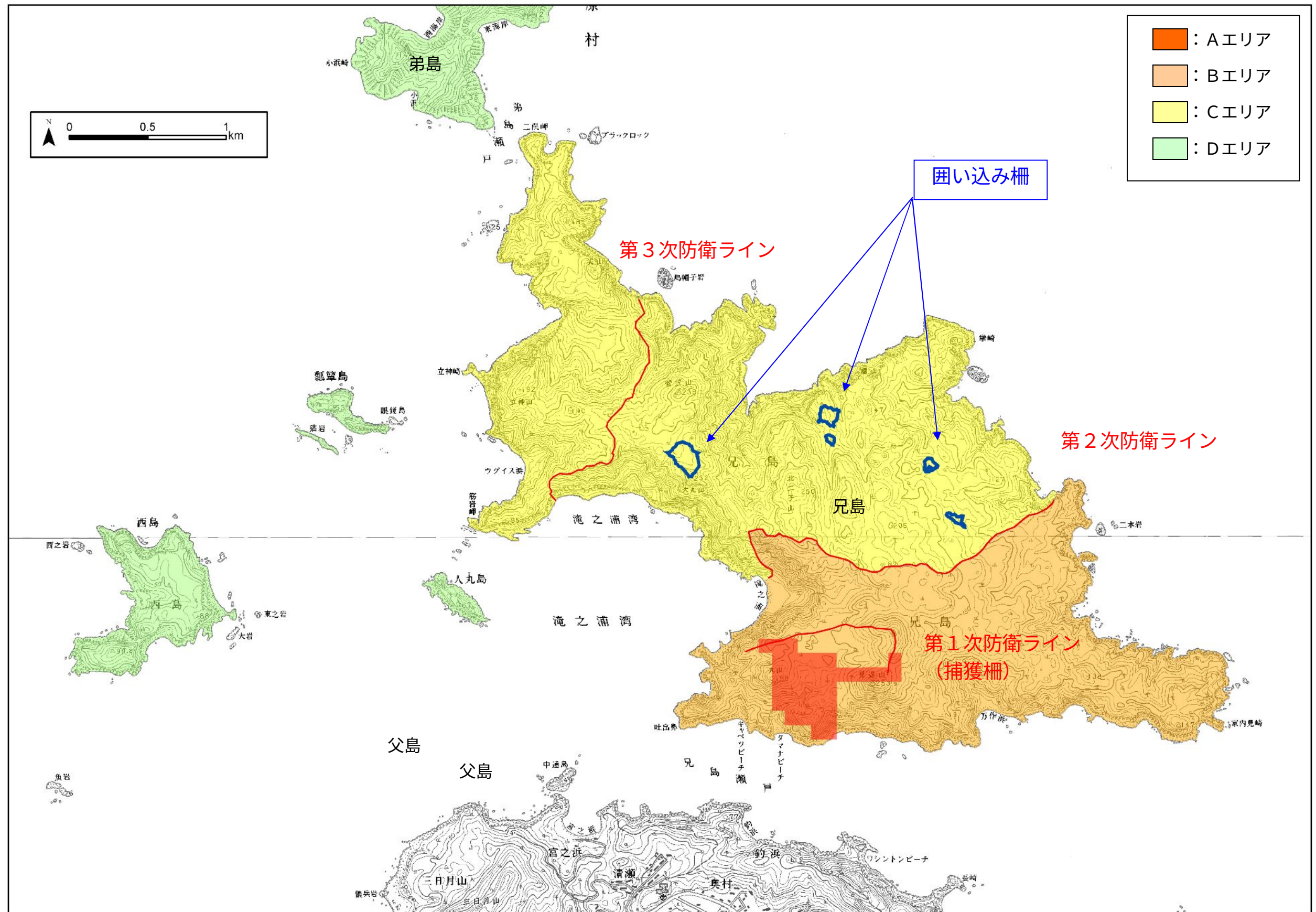
対策の方向性	目的	取組みの項目 (H27 年度末まで)	内容	実施 機関	実施時期		
					25	26	27
②クマネズミの個体数の 適正コントロール	クマネズミの生息実態・分布実態の把握	○クマネズミの生息密度の推移・分布域 の把握	○残存個体発見後の生息密度の推移及び分布域の変化状況を把握するための調査の実施	環境省			
		○グリーンアノール分布域でのクマネズ ミの食性や動態把握	○グリーンアノール分布域でのクマネズミの食性や動態を把握するためのモニタリングを実施	環境省			
	クマネズミの個体数の適正コントロールに必 要な調査研究の推進と方策の検討	○クマネズミによる在来生物の捕食圧の 把握	○クマネズミの適正な個体数レベル検討の基礎データとして、兄島の在来生物（陸産貝類、アカガシラカラス バト、固有昆虫類、在来植物等）に対する捕食圧の現状や影響を把握するための調査を実施 ○捕食圧の有無の把握を修復モニタリングにおいて可能な範囲で実施	環境省 林野庁			
		○クマネズミの駆除技術の開発	○クマネズミの根絶を達成できる第一世代坑凝血性毒物（ダイファシノン）の空中散布に代わる駆除技術の開 発	環境省			
		○クマネズミの適正な個体数レベルの明 確化及びコントロール方策の検討	○在来生物に対するクマネズミの捕食圧の現状や影響に係る調査の結果や駆除技術の開発検討を踏まえ、クマ ネズミの適正な個体数レベルを明確化し、コントロールの方策を検討	環境省			
③侵略的外来植物の個体 数低減	駆除事業実施によっても分布の拡大傾向が顕 著な侵略的外来植物に対する個体数の確実な 低減	○モクマオウ等駆除	○台地上緩傾斜地を中心にエリア排除域を拡大し、駆除を実施（モクマオウ類及びリュウキュウマツ等を対象） するとともに、植生（在来・外来植物）の変化等に関する事後モニタリングを実施	林野庁 環境省 東京都			
		○ギンネム駆除	○台地上緩傾斜地を中心にエリア排除域を拡大し、駆除を実施するとともに、植生（在来・外来植物）の変化 等に関する事後モニタリングを実施	林野庁 東京都			
		○シチヘンゲ等駆除	○台地上緩傾斜地について、モクマオウ等の駆除と併せ、ホナガソウやアイダガヤを含めて、小面積の試験的 な駆除と植生の変化等に関する事後モニタリングを実施	林野庁			
			○滝之浦にて駆除を実施 ○オオバナセンダングサやホナガソウ等とあわせて実施	林野庁			
		○駆除作業のための仮設作業歩道の整備	○駆除作業のための仮設作業歩道の整備と維持管理（滝之浦、タマナビーチ）	東京都			
④未侵入（未定着）外来種 の侵入防止と対応強化	未侵入（未定着）外来種の侵入の未然防止	○事業実施に伴う非意図的導入の防止対 策	○未侵入（未定着）の侵略的外来種（ニューギニアヤリガタリクウズムシ、オオヒキガエル）の侵入を防止す るための対策マニュアルを作成	環境省			
	未侵入（未定着）外来種の侵入の早期発見と緊 急対応の確実な実施	○侵入時の緊急対策マニュアルの作成	○未侵入（未定着）の侵略的外来種（ニューギニアヤリガタリクウズムシ、オオヒキガエル）の侵入時の緊急 対策マニュアルを作成	環境省			
		○侵入の継続的監視	○未侵入（未定着）の侵略的外来種（ニューギニアヤリガタリクウズムシ、オオヒキガエル）の侵入監視モニ タリング調査の実施（他の調査や日常的な監視での確認を含む）	環境省			

（２）在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目 (H27 年度末まで)	内容	実施 機関	実施時期		
					25	26	27
①固有昆虫類の保全	固有昆虫類の生息実態の把握	○Ｃエリア、Ｄエリアでの生息確認調査	○固有昆虫類の生息状況を確認するためのモニタリングを実施（Ｃエリア、Ｄエリア）	環境省			
		○Ｃエリア（第３次防衛ライン以西）での生息確認調査	○第３次防衛ライン以西での訪花昆虫類等の生息モニタリング調査を実施	東京都			
		○種間相互作用に着目した調査・検討	○兄島中央台地上の乾性低木林及び弟島において、固有昆虫類等の生息状況に関する調査を実施し、種間関係図等を作成	林野庁			
	固有昆虫類の生息域内での保全	○固有昆虫類の生息環境保全のための囲い込み柵の検討	○オガサワラハンミョウなど固有昆虫類の生息環境の保全のための措置（囲い込み柵の効果や妥当性など）についてグリーンアノール対策ワーキンググループにおいて検討	環境省 林野庁 東京都 小笠原村			
		○オガサワラハンミョウ生息地周辺でのモクマオウ等駆除	○オガサワラハンミョウ生息地周辺において、試験的な駆除を実施（モクマオウ類及びリュウキュウマツ等を対象）するとともに、植生の変化等に関する事後モニタリングを実施	林野庁			
		○第３次防衛ライン以西における保全措置の検討	○兄島北部の固有訪花昆虫類等を保全するために、第３次防衛ライン以西における保全について検討を行い、必要に応じて柵等を設置	東京都			
	固有昆虫類の生息域外での保全	○オガサワラハンミョウ等の生息域外での飼育・増殖技術の開発	○オガサワラハンミョウの緊急避難及び種の保存を目的とした域外飼育の維持、再導入のための域外飼育技術の検討、ならびに必要なに応じた他の固有種の域外保全検討	環境省			
②希少植物の保全	希少植物の安定的な生育状況の確保	○生育環境の改善対策	○希少植物（アサヒエビネ、ウラジロコムラサキ、シマカコソウ、コヘラナレン）生育地周辺における外来種対策、植栽等により、生育環境改善対策を実施	環境省			
		○域外保全	○域外施設における繁殖技術の確立、種の保存	環境省			
	虫媒花植物類の保全	○第３次防衛ライン以西での虫媒花植物類の保全のための調査および方策検討	○第３次防衛ライン以西での虫媒花植物類の生育モニタリング調査を実施 ○虫媒花植物類および訪花昆虫類の調査結果を元に保全の方策を検討・実施	東京都			
③希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の安定的な生育状況の確保	○アカガシラカラスバトの生息確認調査	○アカガシラカラスバトの生息状況を確認するためのモニタリングを実施	環境省			
		○オガサワラノスリの生息確認調査	○オガサワラノスリの生息状況を確認するための調査を修復モニタリング調査において可能な範囲で実施 ○島内で実施される各種調査・事業等においてオガサワラノスリの生息状況の把握に努め、関係機関で情報共有を行う	環境省 林野庁 東京都 小笠原村			
		○オガサワラオオコウモリの生息確認調査	○島内で実施される各種調査・事業等においてオガサワラオオコウモリの生息状況の把握に努め、関係機関で情報共有を行う。	環境省 林野庁 東京都 小笠原村			
④陸産貝類の保全	陸産貝類の生息実態の把握	○陸産貝類の生息確認調査	○陸産貝類の生息状況をクマネズミ等による影響を確認するためのモニタリングとして実施	環境省			
⑤生態系機能の保全	乾性低木林の生態系機能の現状把握	○植生変化・世代交代の確認	○乾性低木林の植生変化や世代交代を確認するため、調査区を設置して実生の発生状況調査を含む植生調査等を実施	林野庁			
		○種間相互作用による生態系機能の解明	○兄島中央台地上の乾性低木林及び弟島において、調査区を設置しての植生調査やライントランセクト法による動物調査等を実施し、種間関係図等を作成	林野庁			



<グリーンアノール防除に関するエリア区分>



1) 第島における生態系保全管理の長期目標

ムニンヒメツバキ林を中心とした生態系、固有トンボ類やアカガシラカラスバトの生息地を保全する。

2) 対策の方向性と第 2 期アクションプランにおける達成目標

- ・第島ではノヤギ、ノネコ、ノブタ、ウシガエルの根絶が達成されたほか、アカギも根絶に近い状態である。
- ・今後、第島の生態系を保全、維持していくために、ギンネムやモクマオウ、シマグワ等の侵略的外来植物の低密度化を図るほか、特に固有昆虫類の生息環境である止水域について、人工トンボ類繁殖池とともに維持していく。
- ・また、鳥類等による外来植物の種子散布に留意しつつ、アカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリの生息状況の維持、回復を図っていくための基礎情報の蓄積や、クマネズミの根絶に向けた検討を中長期的に行うほか、兄島に侵入したグリーンアノールの第島への侵入を防ぐとともに、父島や兄島も含めた種間相互作用に着目した生態系保全管理手法の検討を行う。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取り組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	アカギは根絶に近い状態を達成。ギンネム、モクマオウ、リュウキュウマツ、ガジュマル、ソウシジュ、シュロガヤツリの駆除を実施・継続中。	ギンネム、モクマオウ等の侵略的外来種のさらなる低密度化。	固有森林生態系修復検討委員会
②クマネズミの根絶	H22 年 2 月に駆除が実施されたが、直後に残存を確認し、現在増加傾向をモニタリング中。	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会
○ノヤギの駆除	平成 20～22 年度に駆除事業を実施し、平成 23 年度に事業成果を確認するための事後モニタリングを実施した上で、当年度末に根絶完了と判断。		
○ノネコの排除	平成 22 年度末までに排除完了と判断。		
○ノブタの駆除	平成 19 年度の 3 頭捕獲を最後に、根絶完了。		
○ウシガエルの駆除	平成 21 年度に根絶完了。		

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取り組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	ギンネムやモクマオウ等の駆除によって在来植生の保全を実施。また、オガサワラグワの生育状況調査を実施中。	侵略的外来種の駆除を継続するとともに、優占植物や侵略的外来種など主な生物間の種間相互作用に着目した森林生態系の保全管理手法の解明に向けた実態把握を実施。	固有森林生態系修復検討委員会 父島列島生態系保全管理WG
②希少鳥獣類の保全	アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—
③固有昆虫類の保全	固有トンボ類の保護増殖事業計画に基づく調査・対策を実施中であり、人工トンボ類繁殖池を複数個所に設置し、生息環境の安定化に寄与。	固有トンボ類の保護増殖事業計画に基づく保全対策の継続や、その他希少昆虫類のさらなる基礎情報の蓄積。	—
④生態系機能の保全	父島列島の生態系を対象として、種間相互作用に着目した生態系保全管理に関する検討を開始。	固有の森林生態系の保全管理手法の解明に向けた実態把握。	父島列島生態系保全管理WG

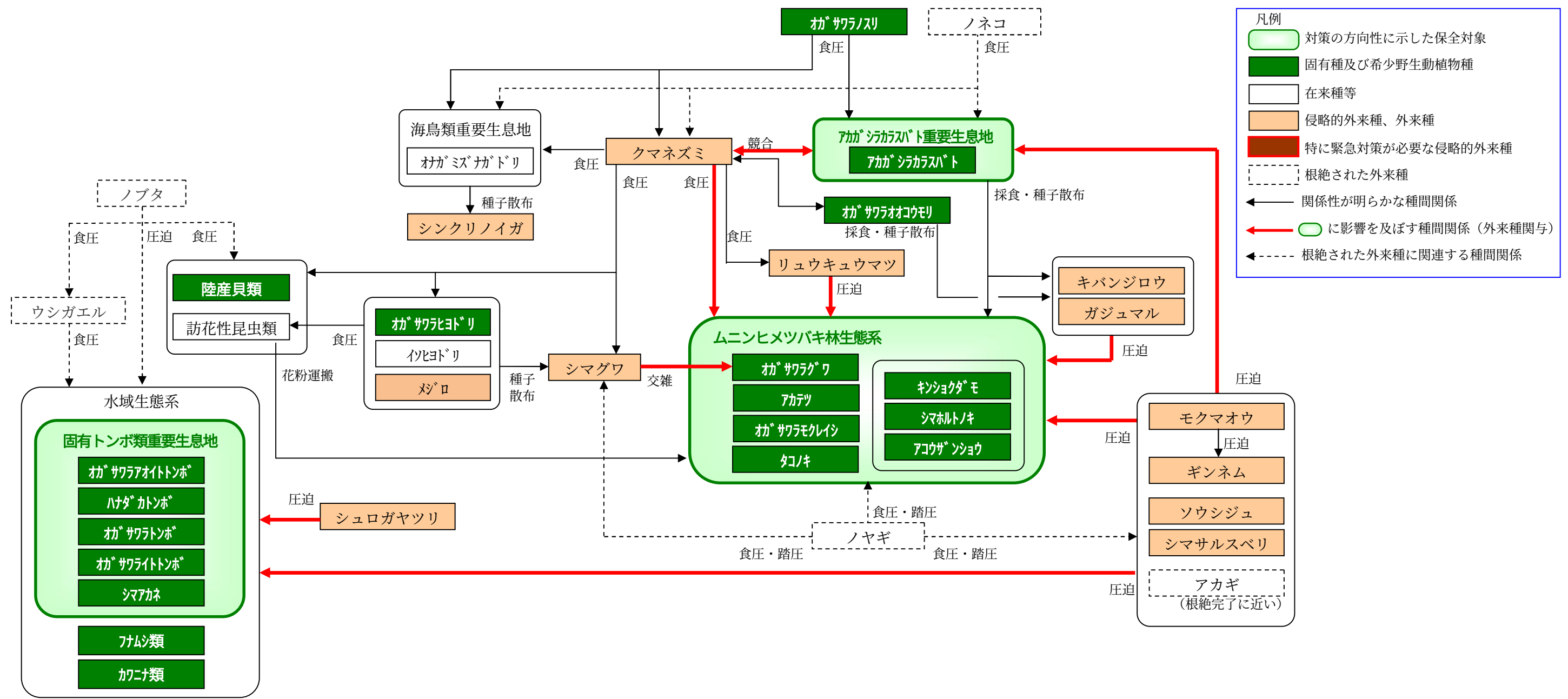
3) 取り組みの項目と内容

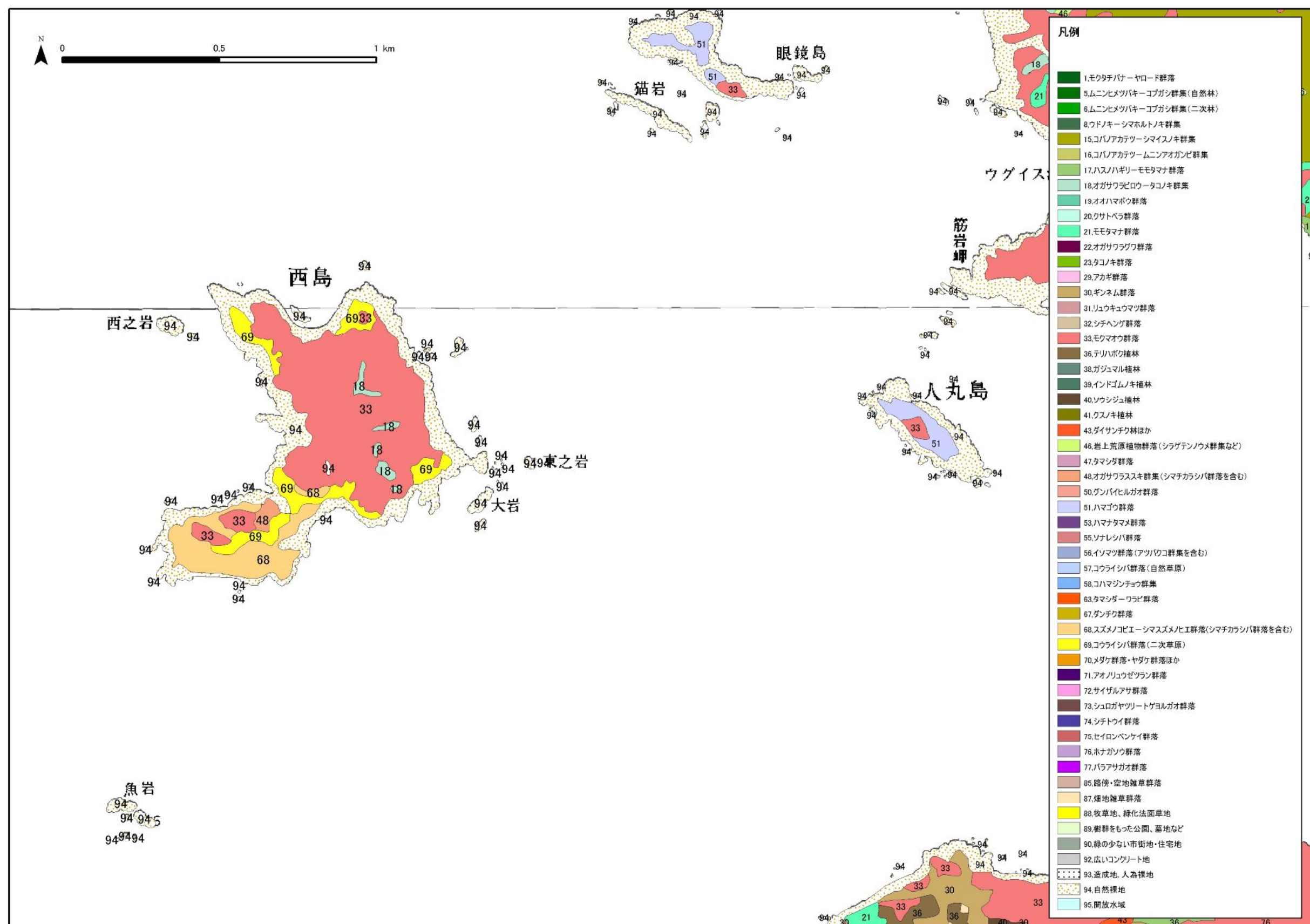
(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取り組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○アカギ駆除	継続的に事後モニタリングを行い、確認時には駆除を実施。	環境省
		○ギンネム駆除	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
		○モクマオウ駆除	モクマオウの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
		○リュウキュウマツ駆除	リュウキュウマツの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○ガジュマル駆除	ガジュマルの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
		○ソウシジュ駆除	ソウシジュの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○シュロガヤツリ駆除	シュロガヤツリの駆除を継続し、開放的な止水環境の維持。	環境省
		○シマグワ駆除	シマグワの駆除に着手し、低密度化。	東京都
②クマネズミの根絶	クマネズミによる生態系への影響排除	○クマネズミ駆除手法の検討	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	環境省

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	希少植物の保全に向けた現況把握	○オガサワラグワの生育状況調査	オガサワラグワの保全計画に基づき、調査・対策を継続。	東京都
②希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の安定的な生息に向けた現況把握	○アカガシラカラスバトの生息調査	アカガシラカラスバト調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
		○オガサワラオオコウモリの生息調査	オガサワラオオコウモリ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
③固有昆虫類の保全	希少昆虫類の安定的な生息・維持	○固有トンボ類の域内保全	保護増殖事業計画に基づく調査・対策を継続。	環境省
		○止水環境の維持・回復	人工トンボ類繁殖池も含めた止水環境の維持・回復を実施。	環境省
	希少昆虫類の安定的な生息に向けた現況把握	○希少昆虫類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
④生態系機能の保全	生態系機能の現状把握	○植生変化・世代交代の確認	調査区を設置して実生の発生状況調査を含む植生調査等を実施。	林野庁
		○種間相互作用による生態系機能の解明	調査区を設置しての植生調査やライントランセクト法による動物調査等を実施し、種間関係図等を作成。	林野庁





西島

植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 西島における生態系保全管理の長期目標

在来植生を中心とした生態系を保全する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・海鳥類への食害が懸念されたクマネズミは駆除後に再確認されたため、今後の根絶に向けた駆除方法や手順を検討する。
- ・また、モクマオウやギンネム等の外来植物の駆除を継続するとともに、在来植生の保全、回復を図る。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	モクマオウ、ギンネムの駆除を実施・継続中。	侵略的外来種のさらなる低密度化。	固有森林生態系修復検討委員会
②クマネズミの根絶	H19年に駆除が実施され、再確認後、H22年2月に再駆除されたが、H25年10月に再度確認。	モニタリングを継続し、再度駆除を行う時期を検討する。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	モクマオウやギンネム等の駆除によって在来植生の保全を実施。また、希少植物の生育状況を把握。タコノキ植栽の実施。	侵略的外来種の駆除を継続するとともに、中長期的に現況把握を実施。NP0等と連携しながら植栽による在来種の保全と回復。	固有森林生態系修復検討委員会な
②希少鳥獣類の保全	オガサワラオオコウモリの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—

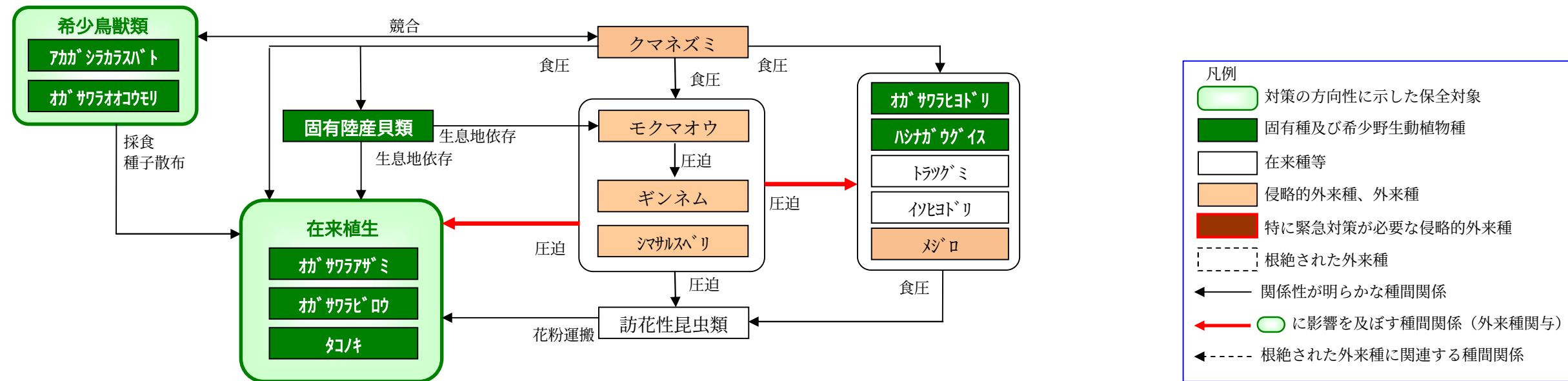
3) 取組みの項目と内容

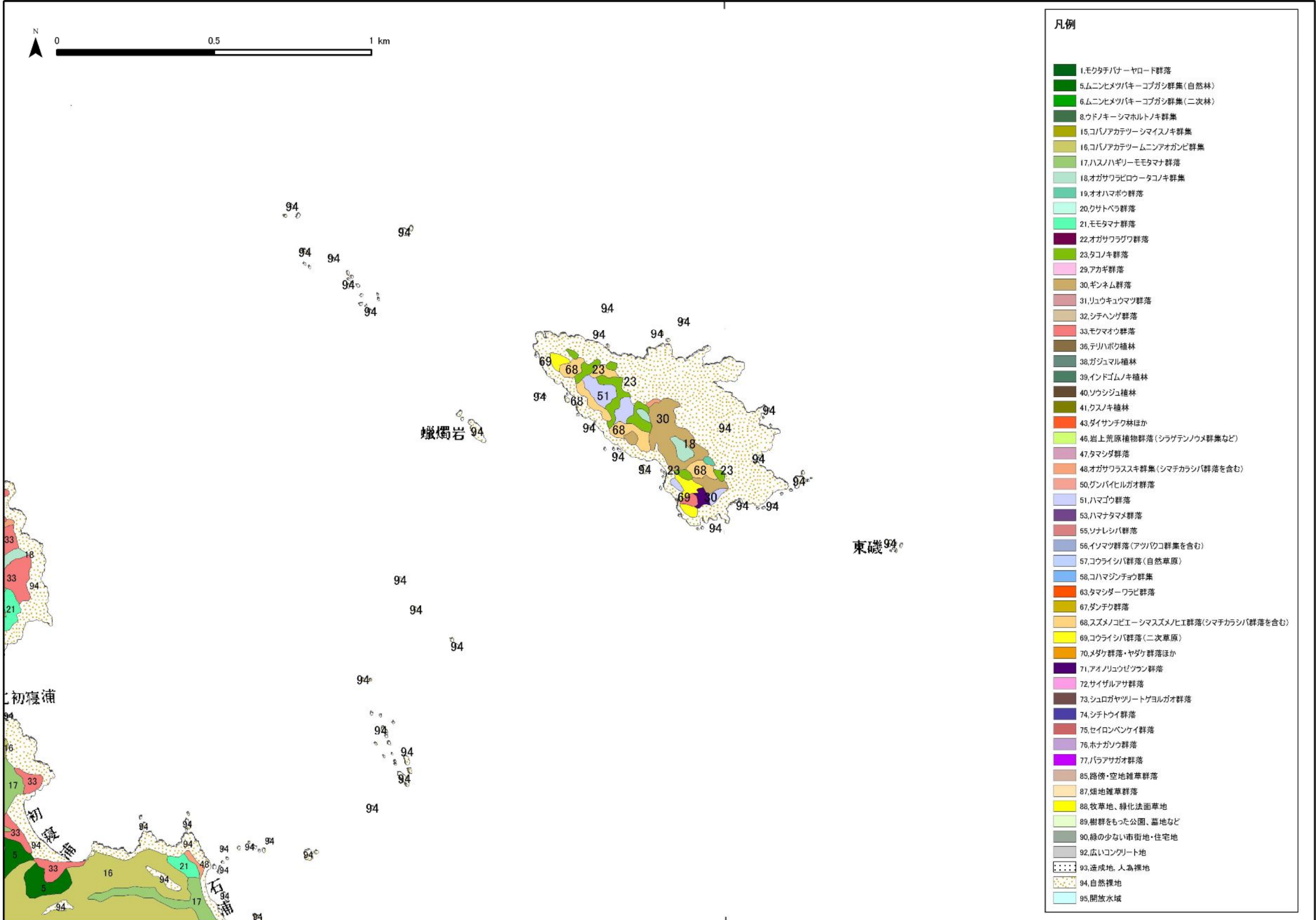
(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○モクマオウ駆除	ギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○ギンネム駆除	ギンネムの駆除に着手し、低密度化。	林野庁
		○シマサルスベリ駆除	シマサルスベリの駆除に着手し、低密度化。	林野庁
		○ソウシジュ駆除	ソウシジュの駆除に着手し、低密度化。	林野庁
②クマネズミの根絶	クマネズミによる生態系への影響排除	○クマネズミ駆除手法の検討	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	環境省

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	林野庁
	外来種駆除後の在来種の回復	○タコノキの植栽	NP0と連携しながら在来種の植生の回復。	林野庁
②希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の安定的な生息に向けた現況把握	○オガサワラオオコウモリの生息調査	オガサワラオオコウモリ調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
		○アカガシラカラスバトの生息調査	アカガシラカラスバト調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省





東京

植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 東島における生態系保全管理の長期目標

海鳥類の繁殖地や在来植生を中心とした生態系を保全する。

2) 対策の方向性と第 2 期アクションプランにおける達成目標

- ・海鳥類への食害が懸念されたクマネズミは根絶が完了（推定）したため、今後は再侵入等の監視を行っていく。
- ・また、モクマオウやギンネム等の外来植物の駆除を継続するとともに、オオハマギキョウが群生する在来植生の保全、回復を図る。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	モクマオウ、ギンネムの駆除を実施・継続中。	侵略的外来種のさらなる低密度化。	固有森林生態系修復検討委員会
②クマネズミの根絶	H20 年 8 月、H22 年 3 月に駆除が実施され、根絶が完了と推定。	事後モニタリングを行い、根絶や再侵入を監視。	—

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	モクマオウやギンネム等の駆除によって在来植生の保全を実施。また、希少植物の生育状況を把握。	侵略的外来種の駆除を継続するとともに、中長期的に現況把握を実施。	固有森林生態系修復検討委員会など
②希少鳥獣類の保全	オガサワラオオコウモリの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—

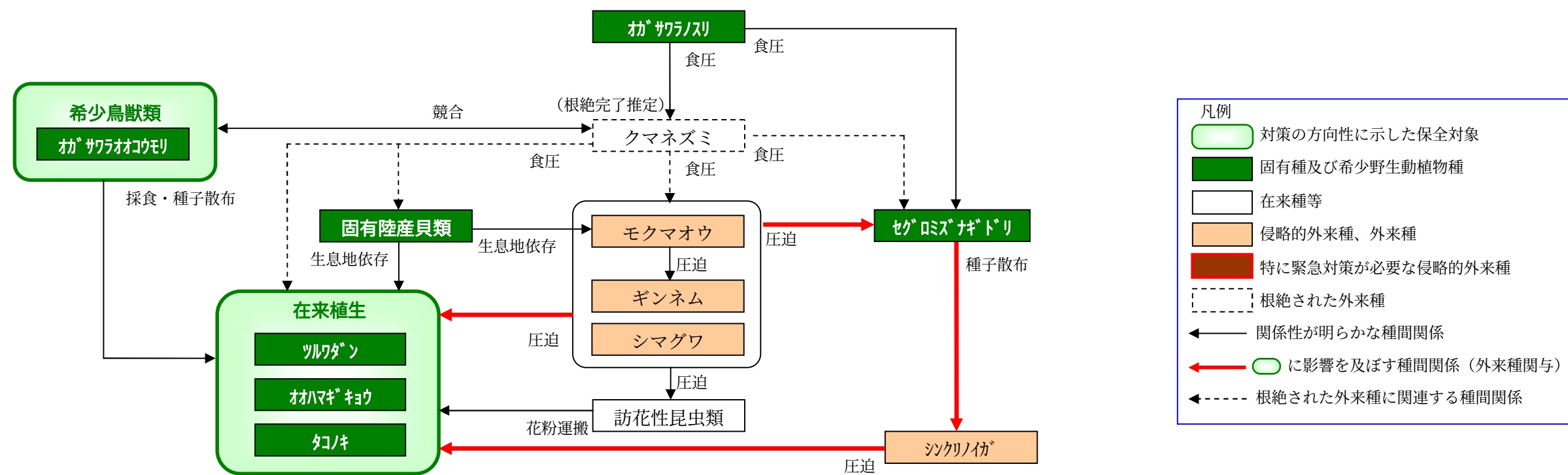
3) 取組みの項目と内容

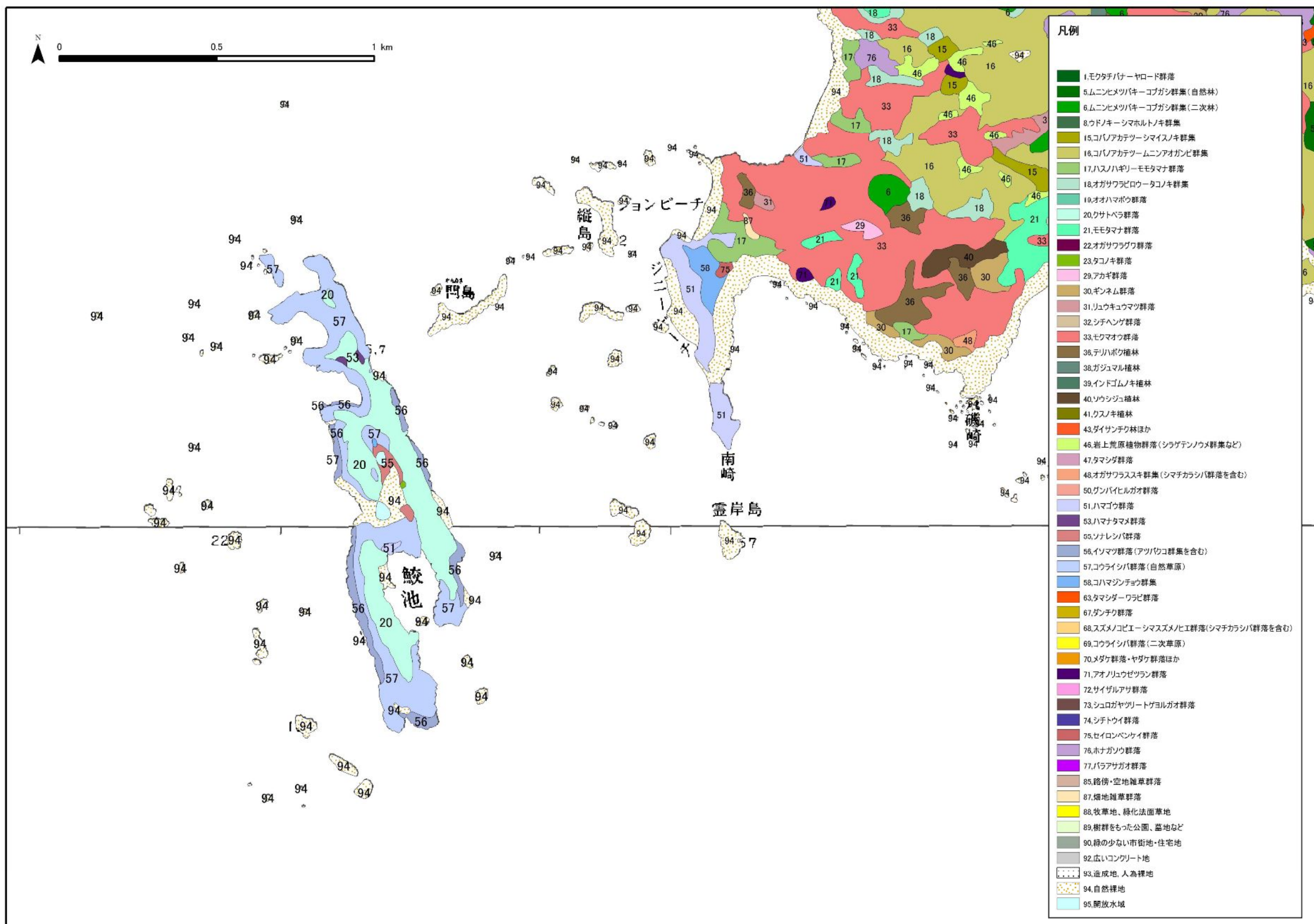
(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除、海鳥類の繁殖地の保全	○モクマオウ駆除	ギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○ギンネム駆除	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
②クマネズミの根絶	クマネズミの根絶確認	○クマネズミ生息確認調査	継続的に事後モニタリングを行い、根絶や再侵入を監視。	東京都

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	林野庁
②希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の安定的な生息に向けた現況把握	○オガサワラオオコウモリの生息調査	オガサワラオオコウモリ調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省





植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 南島における生態系保全管理の長期目標

海鳥類の繁殖地や在来植生を中心とした生態系を保全する。

2) 対策の方向性と第 2 期アクションプランにおける達成目標

- ・観光利用による影響がないよう現在のルールを遵守し、適切な保全を進める。
- ・海鳥類への食害が懸念されたクマネズミは駆除後に再確認されたため、今後の根絶に向けた駆除方法や手順を検討する。
- ・また、シンクリノイガ等の外来植物の駆除を継続するとともに、在来植生の保全、回復を図る。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	空中写真判読により、縮尺 1：25,000 地形図を用いた外来植物分布図を作成。	中長期的に対応。	—
②クマネズミの根絶	H24 年 1 月に駆除が実施され、H26.1 に再確認。	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を再検討。	—

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	—	中長期的に対応。	—
②希少鳥獣類の保全	アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—

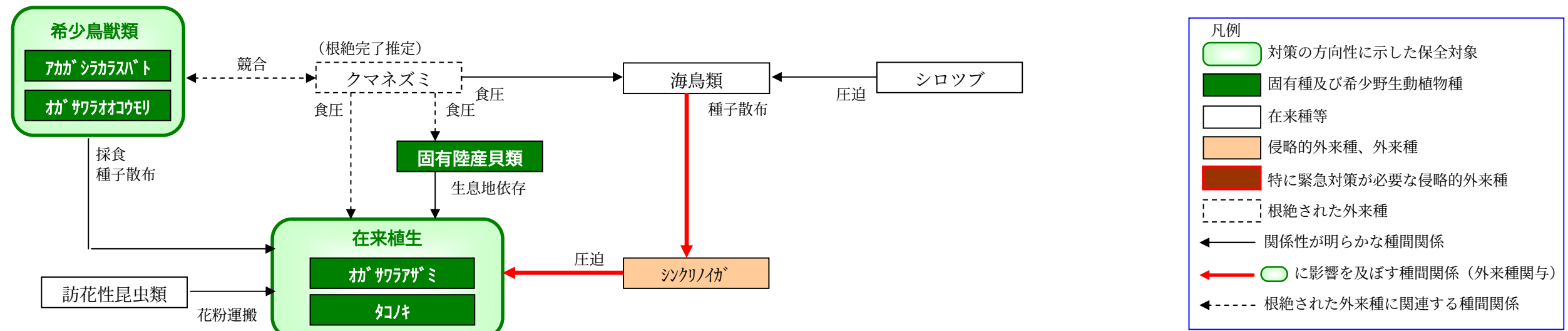
3) 取組みの項目と内容

(1) 侵略的外来種に対する防除

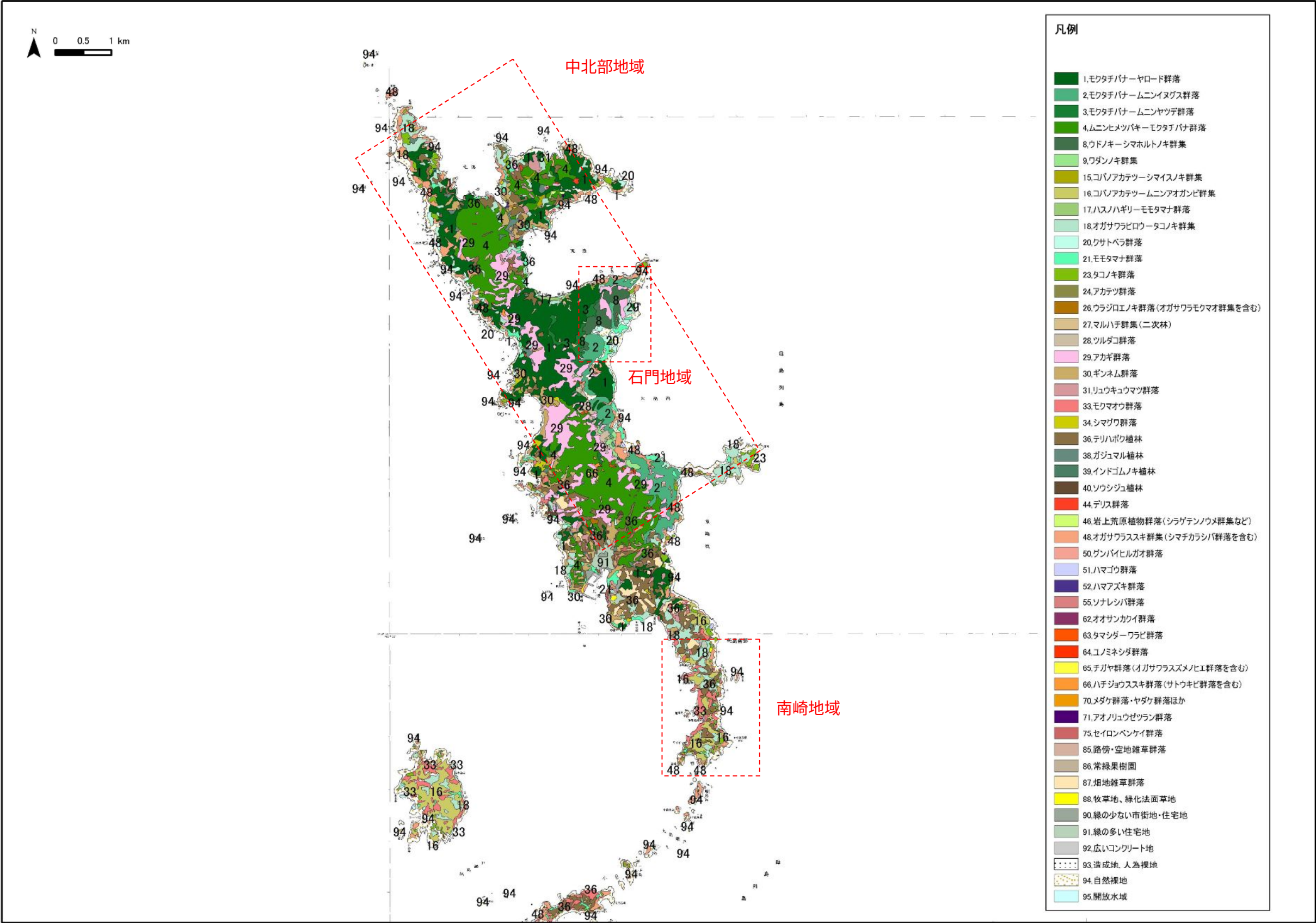
対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の侵入状況の把握	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○外来植物の侵入状況や分布の監視等	（中長期的に対応）	—
	外来植物の駆除	○シンクリノイガ等の外来植物の除去	シンクリノイガ等の外来植物の除去を継続し、低密度化。	東京都
②クマネズミの根絶	クマネズミの根絶確認	○クマネズミ駆除手法の検討	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を再検討。	東京都

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	林野庁
②希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の安定的な生息に向けた現況把握	○アカガシラカラスバトの生息調査	アカガシラカラスバト調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
		○オガサワラオオコウモリの生息調査	オガサワラオオコウモリ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省

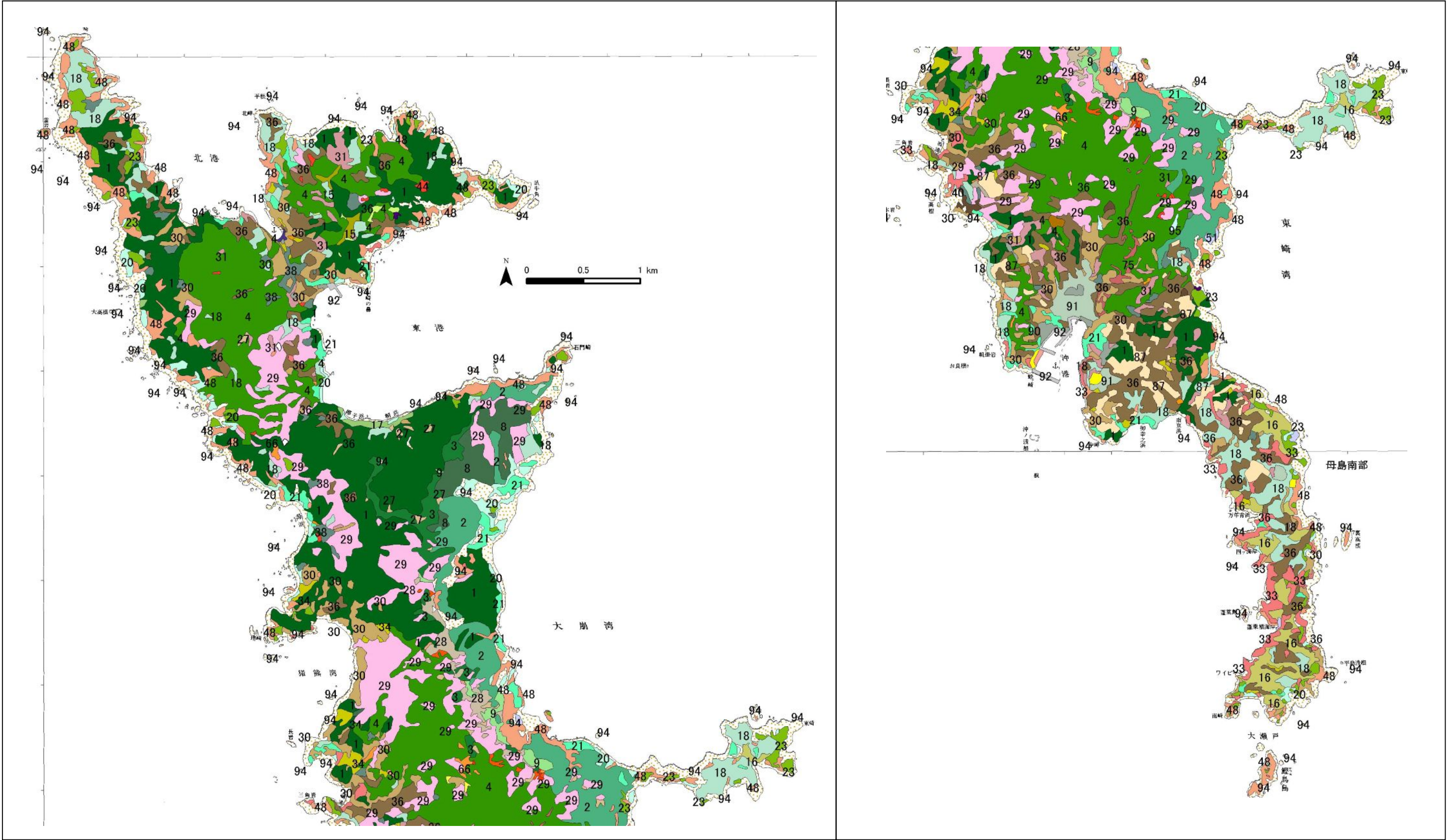


母島



植生図：「平成24年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

<母島植生図・拡大>



植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 母島（全域）における生態系保全管理の長期目標

人の暮らしや観光利用に留意しつつ、湿性高木林、モクタチバナ林を中心とした生態系、固有昆虫類、固有陸産貝類、アカガシラカラスバト等の生息地を保全する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・母島は約 500 人が暮らす有人島であり、農業、漁業、観光が重要な産業となっている。そのため、生態系保全管理では、人の暮らしと外来種との関係や景観保全の観点、また世界自然遺産地域内に設定された指定ルート等、観光利用の観点にも留意し、世界自然遺産の価値に関する普及、生態系保全の取組の情報提供、新たな外来種拡散防止の対策を講じていく必要がある。特に、父島におけるノネコ対策の結果、アカガシラカラスバトの増加が見られ、母島島内で多数が確認されるようになるとともに、生活圏でのネコとのトラブルや交通事故が発生しており、これらへの地域ぐるみでの対応が必須である。
- ・集落地において、生態系保全や外来種の駆除や防除、普及啓発の拠点となる施設の建設を進める。
- ・母島での生態系を保全、復元していくために、湿性高木林、モクタチバナ林を中心とした森林生態系の保全をはかるためのアカギをはじめとする外来植物対策、アカガシラカラスバトや海鳥に大きな影響を与えるノネコの低密度化、固有昆虫類に影響を与えるグリーンアノール・オオヒキガエルのエリア排除を引き続き進める。
- ・陸産貝類に甚大な影響を与えるニューギニアヤリガタリクウズムシについては、その非意図的導入（人への付着、公共事業・産業用資材等への付着）の阻止のための対策を徹底・検討するとともに、侵入時の緊急対応の方策を検討する。
- ・中長期的な対策として、オガサワラカワラヒワや海鳥に影響を与えるクマネズミの根絶に向けた検討を行う。
- ・アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリ、固有昆虫類の生息状況の維持、生態系での機能の回復を図っていくための基礎情報の蓄積を行う。

注記）母島のアクションプランでは、自然環境の現況（固有種の生育生息状況や種間関係等）やこれまでの対策の実施経緯が異なる「石門地域」・「中北部地域」・「南崎地域」の3つの特定地域に区分し、それぞれについて改めて「生態系保全管理の長期目標」ならびに「対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標」を示した。

■特定地域への対応（石門地域）

1）石門地域における生態系保全管理の長期目標

観光利用に留意しつつ、湿性高木林やモクタチバナ林等の生態系や、希少鳥類や固有陸産貝類の生息地を保全する。

2）対策の方向性と第２期アクションプランにおける達成目標

- ・石門地域には母島元来の植生としての湿性高木林が残存しており、希少植物や希少動物の貴重な生育、生息地となっている。
- ・これらの生態系を保全、維持していくために、アカギをはじめとした侵略的外来植物の低密度化を図っていくほか、特に希少昆虫類への影響を排除するためにグリーンアノールの低密度化を継続していく。
- ・また、アカガシラカラスバト等の生息の維持、回復を図っていくための基礎情報を蓄積する。
- ・生態系保全の観点からクマネズミの根絶に向けた検討を中長期的に行う。
- ・なお、世界自然遺産地域内に設定された指定ルートでのエコツアー等、観光利用にも留意した対策を講じていく必要がある。

（１）侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第２期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	アカギ、ギンネム、パパイアの駆除、およびガジュマル、シマグワの試験駆除を実施・継続中。	アカギ、ギンネム等の侵略的外来種のさらなる低密度化。	固有森林生態系修復検討委員会
②外来動物の個体数低減	グリーンアノールの駆除を実施・継続中。	グリーンアノールのさらなる低密度化。	小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議
③クマネズミの根絶	クマネズミの生息状況のモニタリングの実施。	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会
④ニューギニアヤリガタリクウズムシ対策	侵入防止策の検討、侵入時の緊急対応について、新たな外来生物侵入防止WG等において対応方針を検討。	侵入拡散の防止をはかるとともに、侵入時の緊急対応の方策を検討する。	プラナリア対策・陸産貝類保全検討会、 新たな外来種の侵入・拡散防止WG

（２）在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第２期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	アカギやギンネム等の駆除によって在来植生の保全を実施。また、希少植物の生育状況を把握。	侵略的外来種の駆除を継続するとともに、中長期的に現況把握を実施。	固有森林生態系修復検討委員会など 小笠原希少植物保護増殖事業に関する検討会 （開催予定）
②希少鳥獣類の保全	アカガシラカラスバト、ハハジマメグロ、オガサワラノスリの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	アカガシラカラスバト保護増殖事業検討会
③固有昆虫類の保全	オガサワラシジミや固有トンボ類の保護増殖事業計画に基づく保全対策の実施や、ヒメカタゾウムシ類、コメツキムシ類などの希少昆虫類の現況把握を実施・継続中。	オガサワラシジミや固有トンボ類の保護増殖事業計画に基づく保全対策の継続や、希少昆虫類のさらなる基礎情報の蓄積。	小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議
④固有陸産貝類の保全	固有陸産貝類の生息状況の把握、および貝食性プラナリア類の生息状況を把握。	固有陸産貝類や貝食性プラナリア類の生息状況に関する基礎情報のさらなる蓄積。	プラナリア対策・陸産貝類保全検討会

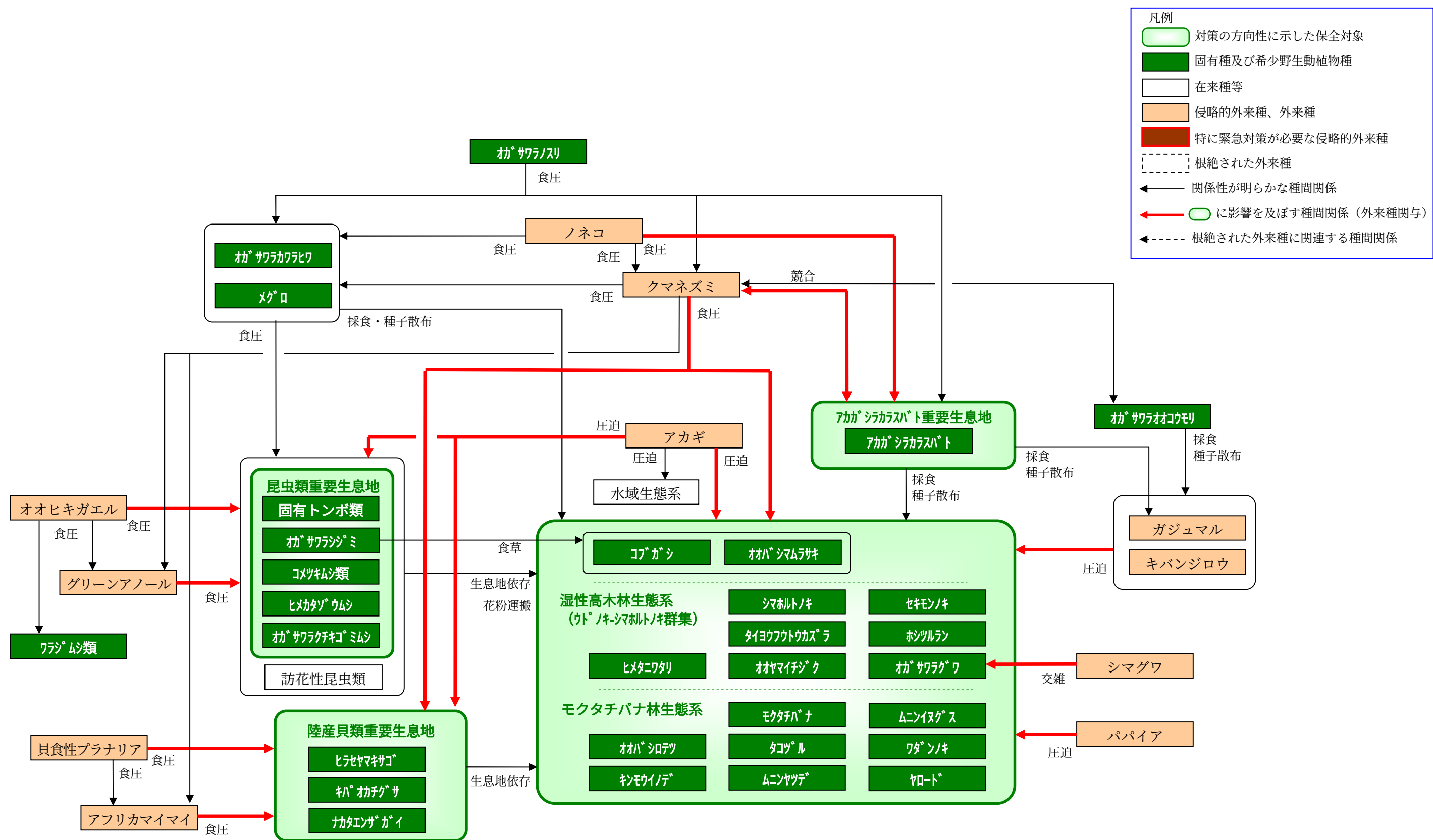
3) 取組みの項目と内容

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○アカギ駆除	アカギの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○ギンネム駆除	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○パパイア駆除	パパイアの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○ガジュマル駆除	ガジュマルの駆除に着手し、低密度化。	林野庁
		○シマグワ駆除	シマグワの駆除に着手し、低密度化。	林野庁
②外来動物の個体数低減	外来動物の生態系への影響排除	○グリーンアノール駆除	グリーンアノールの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
③クマネズミの根絶	固有生態系の復元、影響排除	○クマネズミ駆除手法の検討	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	環境省
④ニューギニアヤリガタリクウズムシ対策	ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入防止、及び、侵入時の緊急対応	○モニタリング ○外来種除去装置の運用	ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入防止、及び、侵入時の緊急対応を検討。	環境省 林野庁 東京都 小笠原村

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	希少植物の個体数の維持、回復	○希少植物の生育状況調査・生育状況巡視	希少植物（ホシツルラン、タイヨウフウトウカズラ、ヒメタニワタリ、シマカコソウ）の生育状況調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省 林野庁
	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	—
②希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の安定的な生息に向けた現況把握	○アカガシラカラスバトの生息調査	アカガシラカラスバト調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省 林野庁
		○オガサワラカワラヒワの生息調査	オガサワラカワラヒワ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	
		○ハハジマメグロの生息調査	ハハジマメグロ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	
		○オガサワラノスリの生息調査	オガサワラノスリ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	
③固有昆虫類の保全	希少昆虫類の安定的な生息・維持	○オガサワラシジミの域内保全	保護増殖事業計画に基づく調査・対策を継続。	環境省
		○固有トンボ類の域内保全	保護増殖事業計画に基づく調査・対策を継続。	環境省
	希少昆虫類の安定的な生息に向けた現況把握	○ヒメカタゾウムシ類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
		○コメツキムシ類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
		○その他希少昆虫類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
④固有陸産貝類の保全	固有陸産貝類の安定的な生息・維持	○固有陸産貝類・貝食性プラナリア類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省



■特定地域への対応（中北部地域）

1）中北部地域における生態系保全管理の長期目標

人の暮らしや観光利用に留意しつつ、モクタチバナ林やヒメツバキ林等の生態系や、希少鳥類や固有陸産貝類の生息地を保全する。

2）対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・母島の多くの面積を占め中北部に広く分布するモクタチバナ林及びムニンヒメツバキ林は、希少植物や希少動物の貴重な生育、生息地となっている。これらの生態系を保全、維持していくために、アカギをはじめとした侵略的外来植物の低密度化を図っていく。
- ・希少昆虫類の保全を図るために、特に新夕日ヶ丘自然再生区にてグリーンアノール等の外来生物の低密度化、オガサワラシジミの餌木の保全を継続していく。新夕日ヶ丘自然再生区では、オガサワラシジミをはじめとする在来昆虫類が回復している場所であり、母島の生態系を理解するための環境教育の拠点として、地域と連携した普及啓発活動を実施する。
- ・アカガシラカラスバト等の在来鳥類の生息状況の維持、回復を図っていくための基礎情報を蓄積する。
- ・中長期的には、生態系保全の観点から、クマネズミの根絶に向けた検討を中長期的に行う。

（1）侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取り組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	アカギ、ギンネム、リュウキュウマツ、シマグワの駆除を実施・継続中。	アカギ、ギンネム等の侵略的外来種のさらなる低密度化。	固有森林生態系修復検討委員会
②外来動物の個体数低減	新夕日ヶ丘自然再生区を設け、グリーンアノールやオオヒキガエルの駆除を実施・継続中。	新夕日ヶ丘自然再生区の遮断柵を維持しつつ、グリーンアノールのさらなる低密度化、およびオオヒキガエルの再侵入を監視。	あたらしい新夕日ヶ丘づくりワーキンググループ（※）
③クマネズミの根絶	駆除検討中。	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会
④ニューギニアヤリガタリクウズムシ対策	侵入防止策の検討、侵入時の緊急対応について、新たな外来生物侵入防止WG等において対応方針を検討。	侵入拡散の防止をはかるとともに、侵入時の緊急対応の方策を検討する。	プラナリア対策・陸産貝類保全検討会、 新たな外来種の侵入・拡散防止WG

（2）在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取り組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	アカギやギンネム等の駆除によって在来植生の保全を実施。また、希少植物の生育状況を把握。	侵略的外来種の駆除を継続するとともに、中長期的に現況把握を実施。	固有森林生態系修復検討委員会など 小笠原希少植物保護増殖事業に関する検討会 （開催予定）
②希少鳥獣類の保全	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	アカガシラカラスバト保護増殖事業検討会
③固有昆虫類の保全	オガサワラシジミや固有トンボ類の保護増殖事業計画に基づく保全対策の実施や、ヒメカタゾウムシ類、コメツキムシ類などの希少昆虫類の現況把握を実施・継続中。	オガサワラシジミや固有トンボ類の保護増殖事業計画に基づく保全対策の継続や、希少昆虫類のさらなる基礎情報の蓄積。	小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議
④固有陸産貝類の保全	固有陸産貝類の生息状況の把握、および貝食性プラナリア類の生息状況を把握。	固有陸産貝類や貝食性プラナリア類の生息状況に関する基礎情報のさらなる蓄積。	プラナリア対策・陸産貝類保全検討会

（※）新夕日ヶ丘自然再生区及びその周辺については、グリーンアノール侵入防止柵の整備が進み、同柵内のグリーンアノール対策や外来植物対策等に一定の進捗が見られている。その結果、同地区及びその周辺においてオガサワラシジミをはじめとする在来昆虫相に回復の兆候が見られている。新夕日ヶ丘を含む母島中北部通期において実施されている希少植物やアカガシラカラスバトの保全、外来植物対策等、機関横断的な各種の保全の取組が行われている。これらの成果の情報発信や、地域関係者との課題や情報共有については、「あたらしい新夕日ヶ丘づくりワーキンググループ（現地）」等において行う。

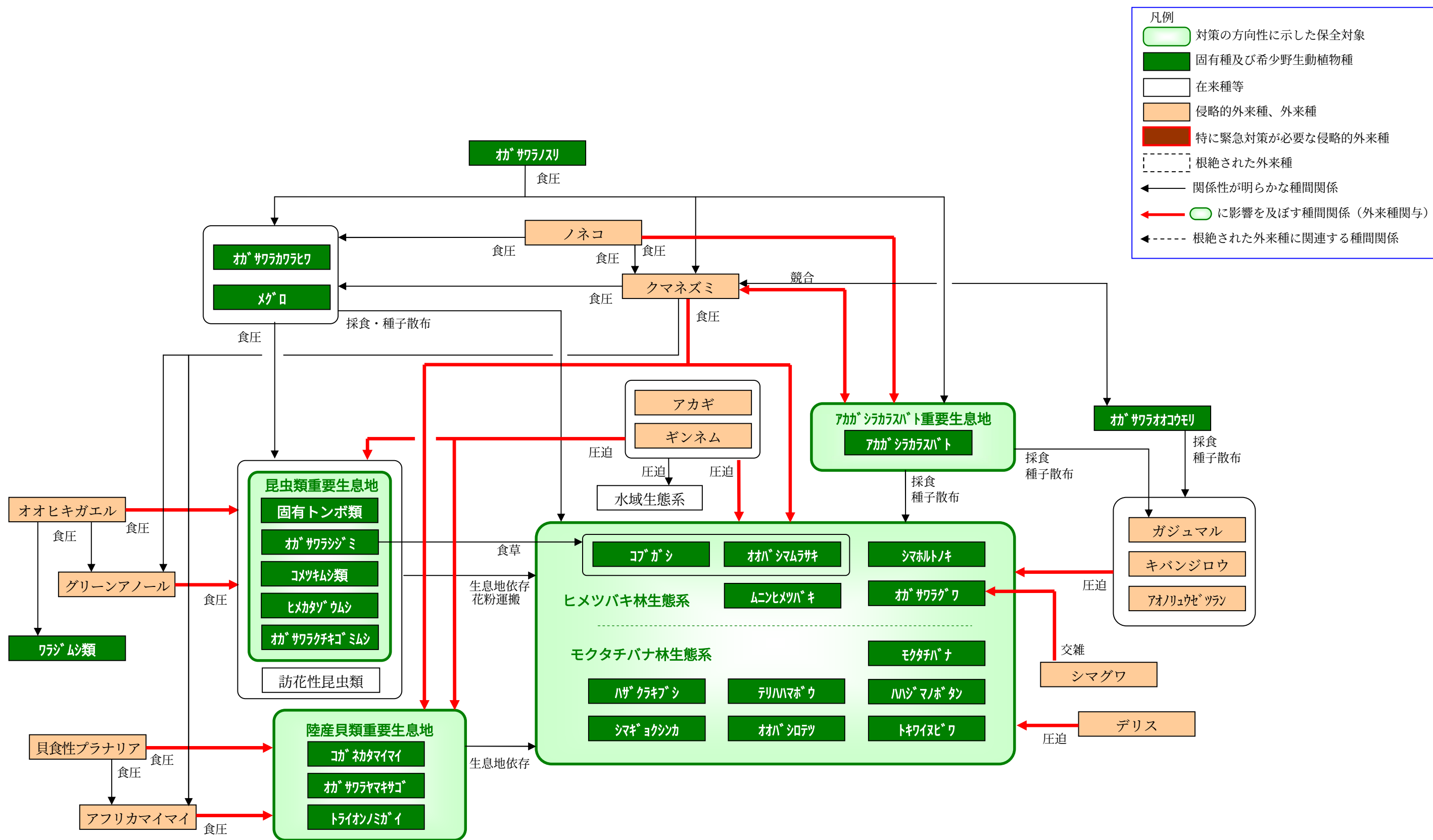
3) 取組みの項目と内容

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○アカギ駆除	アカギの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
		○ギンネム駆除	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
		○リュウキュウマツ駆除	リュウキュウマツの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
		○シマグワ駆除	シマグワの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
②外来動物の個体数低減	外来動物の生態系への影響排除	○グリーンアノール駆除	新夕日ヶ丘自然再生区でのグリーンアノールの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
		○オオヒキガエル生息確認調査	新夕日ヶ丘自然再生区での継続的な調査により、再侵入を監視。	環境省
③クマネズミの根絶	固有生態系の復元、影響排除	○クマネズミ駆除手法の検討	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	環境省
④ニューギニアヤリガタリクウズムシ対策	ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入防止、及び、侵入時の緊急対応	○モニタリング ○外来種除去装置の運用	ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入防止、及び、侵入時の緊急対応を検討。	環境省 林野庁 東京都 小笠原村

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	希少植物の個体数の維持、回復	○希少植物の生育状況調査、生育状況巡視	希少植物（ホシツルラン、シマカコソウ）の生育状況調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省 林野庁
	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	—
②希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の安定的な生息に向けた現況把握	○アカガシラカラスバトの生息調査	アカガシラカラスバト調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省 林野庁
		○オガサワラカワラヒワの生息調査	オガサワラカワラヒワ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	
		○ハハジマメグロの生息調査	ハハジマメグロ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	
		○オガサワラノスリの生息調査	オガサワラノスリ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	
③固有昆虫類の保全	希少昆虫類の安定的な生息・維持	○オガサワラシジミの域内保全	保護増殖事業計画に基づく調査・対策を継続。	環境省
		○オガサワラシジミの保全施設活用	都有地に設置した施設にて、人工飼育に向けた取組を実施。	東京都
		○固有トンボ類の域内保全	保護増殖事業計画に基づく調査・対策を継続。	環境省
	希少昆虫類の安定的な生息に向けた現況把握	○ヒメカタゾウムシ類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
		○コメツキムシ類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
		○その他希少昆虫類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
				環境省
④固有陸産貝類の保全	固有陸産貝類の安定的な生息・維持	○固有陸産貝類・貝食性プラナリア類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省



■特定地域への対応（南崎地域）

1）南崎地域における生態系保全管理の長期目標

観光利用に留意しつつ、母島列島型乾性低木林の生態系や、希少鳥類や固有陸産貝類の生息地を保全する。

2）対策の方向性と第２期アクションプランにおける達成目標

- ・母島の中では比較的乾燥傾向にある南崎地域では、母島列島型の乾性低木林が成立し、希少植物や希少動物の貴重な生育、生息地となっている。特に、陸産貝類の生息環境が豊かに残されている。また、ノネコ排除柵内では、ノネコがほぼ排除されており、海鳥の繁殖地としての機能が回復しつつある。世界自然遺産地域内に設定された遊歩道でのエコツアー等、観光利用にも留意した対策を講じていく必要がある。
- ・これらの生態系を保全、維持していくために、侵略的外来植物の低密度化を図っていく。
- ・希少昆虫類の保全を図るために南崎自然再生区にてグリーンアノール等の低密度化を継続していく。
- ・鳥類等による外来植物の種子散布に留意しつつ、アカガシラカラスバトやオガサワラカワラヒワの生息状況の維持、回復を図っていくための基礎情報を蓄積する。
- ・陸産貝類保全のため、南崎へのブラナリア類侵入防止のためのモニタリングや外来種除去装置の運用の徹底をはかるとともに、中長期的にクマネズミのエリア排除に向けた検討を行う。

（１）侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第２期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	アカギ、ギンネム、シマグワの駆除を実施・継続中。	アカギ、ギンネム等の侵略的外来種のさらなる低密度化。	固有森林生態系修復検討委員会など
②外来動物の個体数低減	南崎自然再生区を設け、グリーンアノールやオオヒキガエルの駆除を実施・継続中。また、ノネコ排除区では排除が完了したほか、その他地域においても排除実施・継続中。	南崎蓮池でのオオヒキガエルの再侵入を監視。また、ノネコのさらなる排除の推進。	－
③クマネズミの根絶	駆除検討中。	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会
④ニューギニアヤリガタリクウズムシ対策	侵入防止策の検討、侵入時の緊急対応について、新たな外来生物侵入防止WG等において対応方針を検討。	遊歩道入り口での侵入拡散の防止をはかるとともに、侵入時の緊急対応の方策を検討する。また、南崎や隣接する中ノ平等において、ブラナリアの侵入の有無を確認するモニタリング体制を構築する。	ブラナリア対策・陸産貝類保全検討会、新たな外来種の侵入・拡散防止WG

（２）在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第２期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	アカギやギンネム等の駆除によって在来植生の保全を実施。また、希少植物の生育状況を把握。	侵略的外来種の駆除を継続するとともに、中長期的に現況把握を実施。	固有森林生態系修復検討委員会など
②希少鳥獣類の保全	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	アカガシラカラスバト保護増殖事業検討会
③固有昆虫類等の保全	オガサワラシジミの保護増殖事業計画に基づく保全対策の実施や、ヒメカタゾウムシ類、コメツキムシ類、オガサワラセセリなどの希少昆虫類、ワラジムシ類の現況把握を実施・継続中。	オガサワラシジミの保護増殖事業計画に基づく保全対策の継続や、希少昆虫類等のさらなる基礎情報の蓄積。	小笠原希少昆虫保護増殖事業に関する検討会（開催予定）
④固有陸産貝類の保全	固有陸産貝類の生息状況の把握、および貝食性ブラナリア類の生息状況を把握。	固有陸産貝類や貝食性ブラナリア類の生息状況に関する基礎情報のさらなる蓄積。母島属島への保全的再導入の検討を行う。	ブラナリア対策・陸産貝類保全検討会

3) 取組みの項目と内容

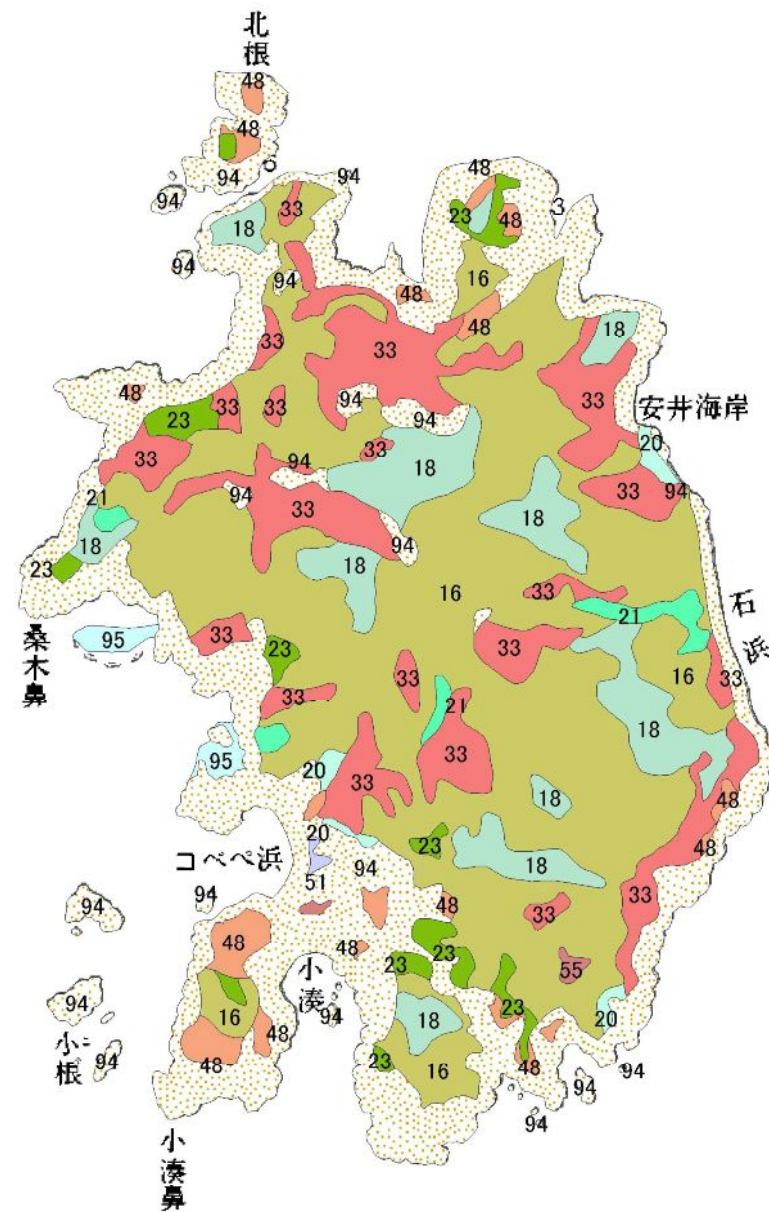
(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○アカギ駆除	アカギの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省 林野庁
		○ギンネム駆除	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○モクマオウ駆除	ギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの駆除に着手し、低密度化。	林野庁
		○シマグワ駆除	シマグワの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
②外来動物の個体数低減	外来動物の生態系への影響排除	○グリーンアノール駆除	南崎自然再生区でのグリーンアノールの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
		○オオヒキガエル生息確認調査	南崎自然再生区および蓮池での継続的な調査により、再侵入を監視。	環境省
		○ノネコ排除	ノネコの排除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
③クマネズミの根絶	固有生態系の復元、影響排除	○クマネズミ駆除手法の検討	陸産貝類の保全のため、クマネズミの低密度化に向けた駆除方法や手順を検討。	環境省
④ニューギニアヤリガタリクウ ズムシ対策	ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入防 止、及び、侵入時の緊急対応	○モニタリング ○外来種除去装置の運用	ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入防止、及び、侵入時の緊急対応を検討	環境省 林野庁 東京都 小笠原村

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	希少植物の個体数の維持、回復	○希少植物の生育状況調査	希少植物（シマカコソウ）の生育状況調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
	生態系保全管理を推進していくための基礎情 報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	—
②希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の安定的な生息に向けた現況把握	○アカガシラカラスバトの生息調査	アカガシラカラスバト調査等を継続し、ノネコの影響など、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省 林野庁
		○オガサワラカワラヒワの生息調査	オガサワラカワラヒワ調査等を継続し、ノネコの影響など、さらなる基礎情報を蓄積。	
③固有昆虫類等の保全	希少昆虫類の安定的な生息・維持	○オガサワラシジミの域内保全	保護増殖事業計画に基づく調査・対策を継続。	環境省
	希少昆虫類の安定的な生息に向けた現況把握	○ヒメカタゾウムシ類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
		○コメツキムシ類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
		○オガサワラセセリの生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
		○その他希少昆虫類等の生息調査	その他希少昆虫類や湿地性の土壌動物の現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省
④固有陸産貝類の保全	固有陸産貝類の安定的な生息・維持	○固有陸産貝類・貝食性プラナリア類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省

向島



凡例

- 1.モクダチバナ・ヤロード群落
- 2.モクダチバナ・ムニンイヌグス群落
- 3.モクダチバナ・ムニンヤツデ群落
- 4.ムニンヒメツバキ・モクダチバナ群落
- 8.ウドノキ・シマホルトノキ群落
- 9.ワダンノキ群落
- 15.コバノアカテツ・シマイスノキ群落
- 16.コバノアカテツ・ムニンアオガンド群落
- 17.ハスノハギリ・モモタマナ群落
- 18.オガサワラビロウ・タコノキ群落
- 20.クサトベラ群落
- 21.モモタマナ群落
- 23.タコノキ群落
- 24.アカテツ群落
- 26.ウラジロエノキ群落(オガサワラモクマオ群落を含む)
- 27.マルハチ群落(二次林)
- 28.ツルダコ群落
- 29.アカギ群落
- 30.ギンネム群落
- 31.リュウキュウマツ群落
- 33.モクマオウ群落
- 34.シマグワ群落
- 36.テリハボク植林
- 38.ガジュマル植林
- 39.インドゴムノキ植林
- 40.ソウシユ植林
- 44.デリス群落
- 46.岩上荒原植物群落(シラゲテンノメ群落など)
- 48.オガサワラスギ群落(シマカラシバ群落を含む)
- 50.グンバイヒルガオ群落
- 51.ハマゴウ群落
- 52.ハマアズキ群落
- 55.ソナレシバ群落
- 62.オオサンカイ群落
- 63.タマシダーワラビ群落
- 64.ユノミネシダ群落
- 65.チガヤ群落(オガサワラスズメノヒゲ群落を含む)
- 66.ハチジョウススキ群落(サトウキビ群落を含む)
- 70.メダケ群落・ヤダケ群落ほか
- 71.アオノリュウゼツラン群落
- 75.セイロンベンケイ群落
- 85.路傍・空地雑草群落
- 86.常緑果樹園
- 87.畑地雑草群落
- 88.牧草地、緑化法面草地
- 90.緑の少ない市街地・住宅地
- 91.緑の多い住宅地
- 92.広いコンクリート地
- 93.造成地、人為裸地
- 94.自然裸地
- 95.開放水域

植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 向島における生態系保全管理の長期目標

母島列島型乾性低木林を中心とした生態系や、希少鳥類の生息地を保全する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・良好に残存している母島列島型乾性低木林や、希少鳥獣類、固有昆虫類等の保全、回復を図るため、モクマオウやギンネム等の侵略的外来植物の低密度化を行う。
- ・また、オガサワラカワラヒワとモクマオウなどの種間関係に留意したドブネズミの根絶に向けた検討を行っていく。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	モクマオウ、ギンネム、シマグワの駆除を実施し、継続中。また、空中写真判読により、縮尺1：25,000 地形図を用いた外来植物分布図を作成。	モクマオウ等の侵略的外来種のさらなる低密度化。	—
②ドブネズミの根絶	駆除検討中。	ドブネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	モクマオウ、ギンネム、シマグワの駆除によって在来植生の保全を実施。また、シマカコソウの現況把握を実施。	侵略的外来植物の駆除を継続するとともに、在来植生の基礎情報を中長期的に蓄積。	—
②希少鳥獣類の現況把握	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—
③固有昆虫類の現況把握	昆虫類の生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—

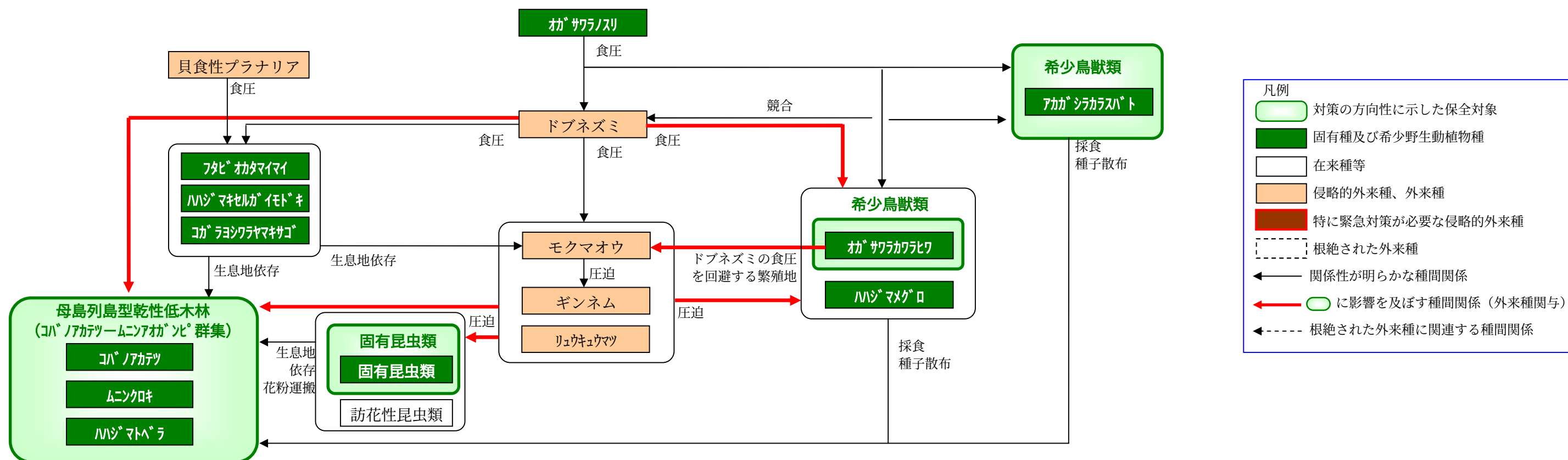
3) 取組みの項目と内容

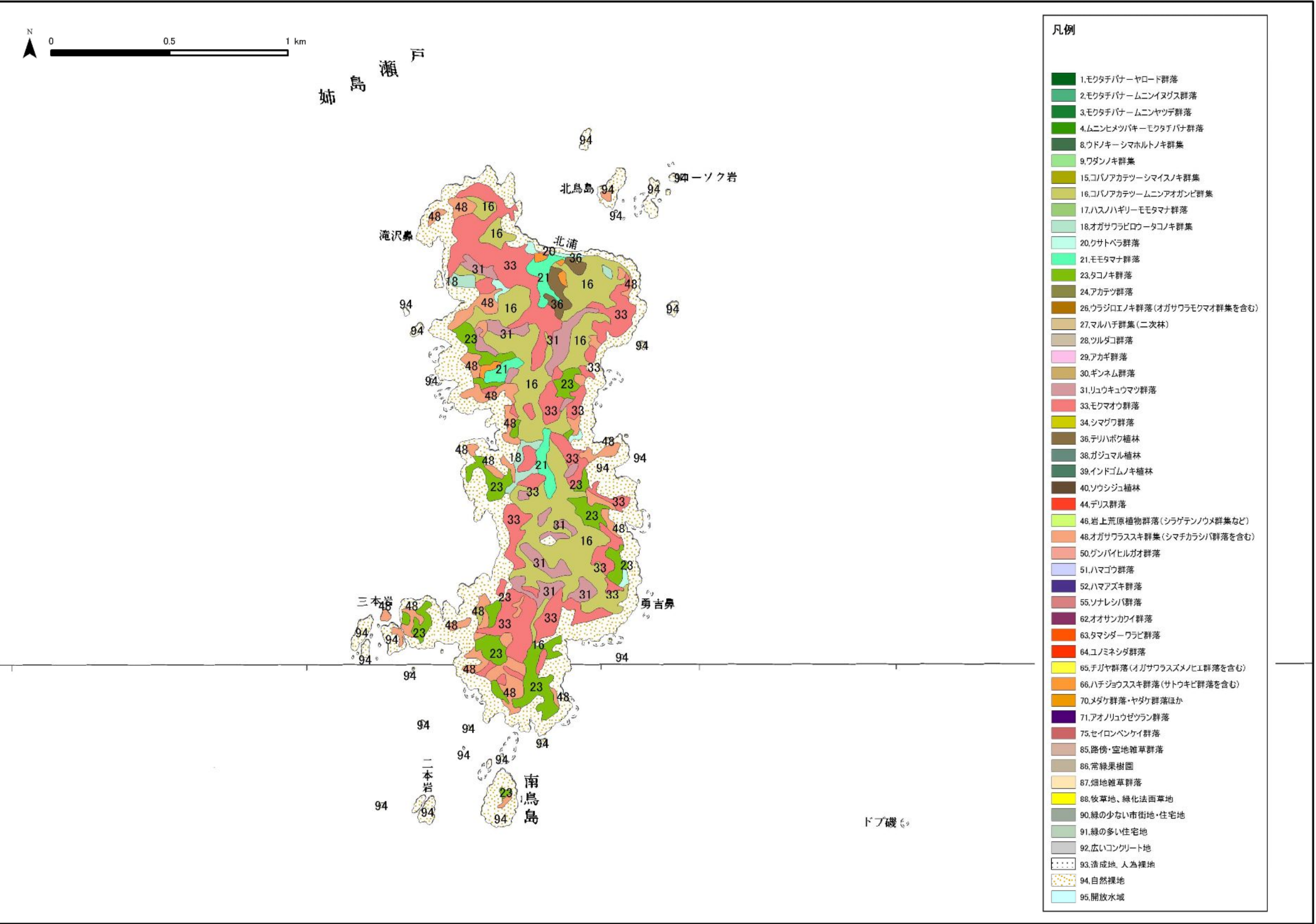
(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○モクマオウ駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの個体数低減に向けた検討を実施。	林野庁
		○ギンネム駆除	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
		○シマグワ駆除	シマグワの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林野庁
②ドブネズミの根絶	ドブネズミによる生態系への影響排除	○ドブネズミ駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやモクマオウ等との種間関係を考慮し、ドブネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	環境省

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	—
②希少鳥獣類の現況把握	希少鳥獣類を保全していくための基礎情報の把握	○生息・繁殖状況の把握、ドブネズミの影響把握等	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	林野庁
③固有昆虫類の現況把握	固有昆虫類を保全していくための基礎情報の把握	○生息状況の把握等	昆虫類調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省





姉島

植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 姉島における生態系保全管理の長期目標

母島列島型乾性低木林を中心とした生態系を保全する。

2) 対策の方向性と第 2 期アクションプランにおける達成目標

- ・良好に残存している母島列島型乾性低木林や、希少鳥獣類、固有昆虫類等の保全、回復を図るため、モクマオウ等の侵略的外来植物の低密度化を行う。
- ・また、オガサワラカワラヒワとモクマオウなどの種間関係に留意したネズミ類の根絶に向けた検討を行っていく。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の侵入状況の把握	空中写真判読により、縮尺 1：25,000 地形図を用いた外来植物分布図を作成。	中長期的に対応。	—
②ドブネズミの根絶	駆除検討中。	ドブネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	—	中長期的に対応。	—
②希少鳥獣類の現況把握	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—
③固有昆虫類の現況把握	昆虫類の生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—

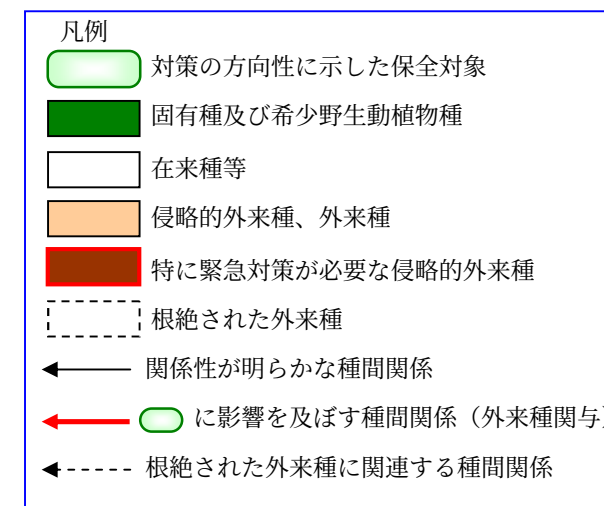
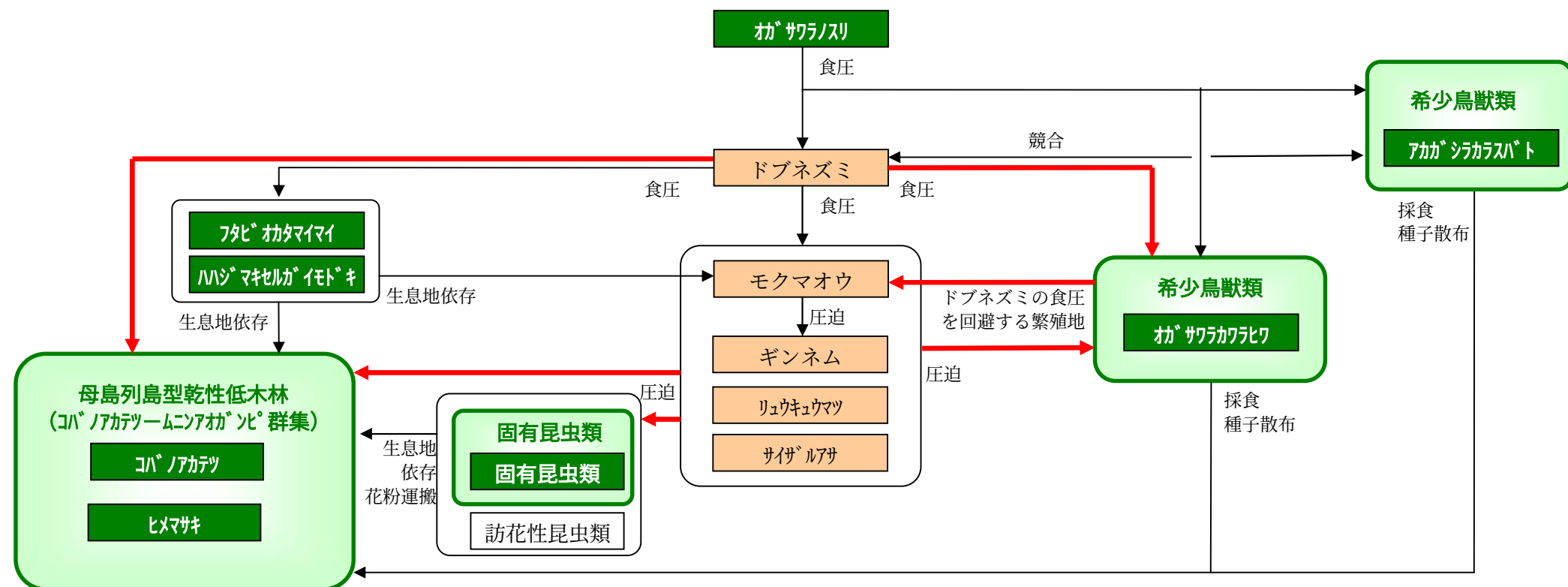
3) 取組みの項目と内容

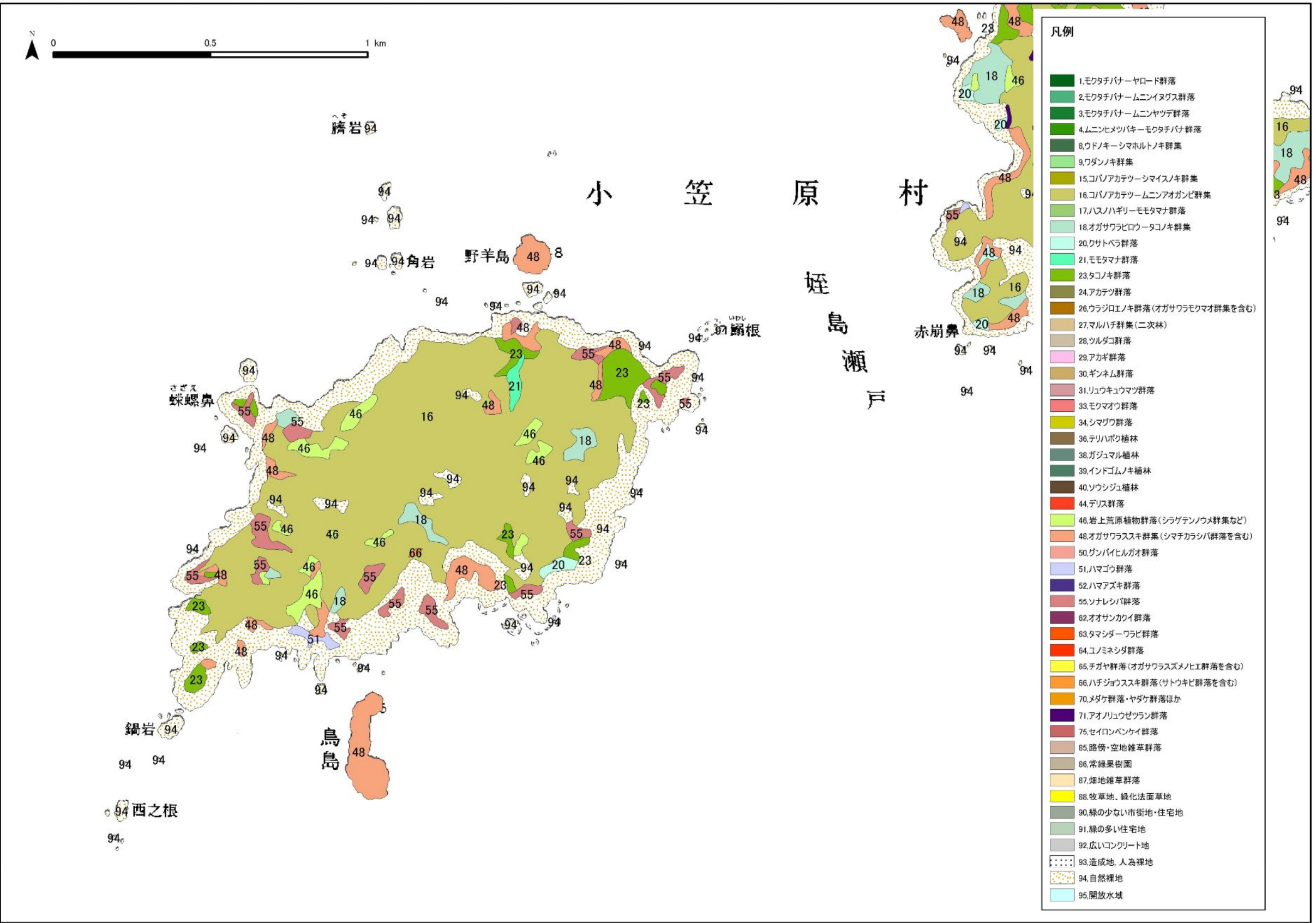
(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○モクマオウ駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやモクマオウとの関係に留意しつつ、モクマオウの個体数低減に向けた検討を実施。	林野庁
②ドブネズミの根絶	ドブネズミによる生態系への影響排除	○ドブネズミ駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやモクマオウ等との種間関係を考慮し、ドブネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	環境省

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	—
②希少鳥獣類の現況把握	希少鳥獣類を保全していくための基礎情報の把握	○生息・繁殖状況の把握、ドブネズミの影響把握等	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	林野庁
③固有昆虫類の現況把握	固有昆虫類を保全していくための基礎情報の把握	○生息状況の把握等	昆虫類調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省





妹島

植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 妹島における生態系保全管理の長期目標

母島列島型乾性低木林を中心とした生態系や、希少鳥類の生息地を保全する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・良好に残存している母島列島型乾性低木林や、希少鳥獣類、固有昆虫類等の保全、回復を図るため、ギンネムやリュウキュウマツ等の侵略的外来植物の低密度化を行う。
- ・また、オガサワラカワラヒワとモクマオウなどの種間関係に留意したネズミ類の根絶に向けた検討を行っていく。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	ギンネム、リュウキュウマツの駆除を実施し、継続中。また、空中写真判読により、縮尺 1:25,000 地形図を用いた外来植物分布図を作成。	ギンネム、リュウキュウマツ等の侵略的外来種のさらなる低密度化。	—
②ドブネズミの根絶	駆除検討中。	ドブネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	ギンネム、モクマオウ、シマグワの駆除によって在来植生の保全を実施。また、シマカコソウの現況把握を実施。	侵略的外来植物の駆除を継続するとともに、希少植物の生育状況の基礎情報を蓄積。	—
②希少鳥獣類の現況把握	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—
③固有昆虫類の現況把握	オガサワラセセリなどの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—

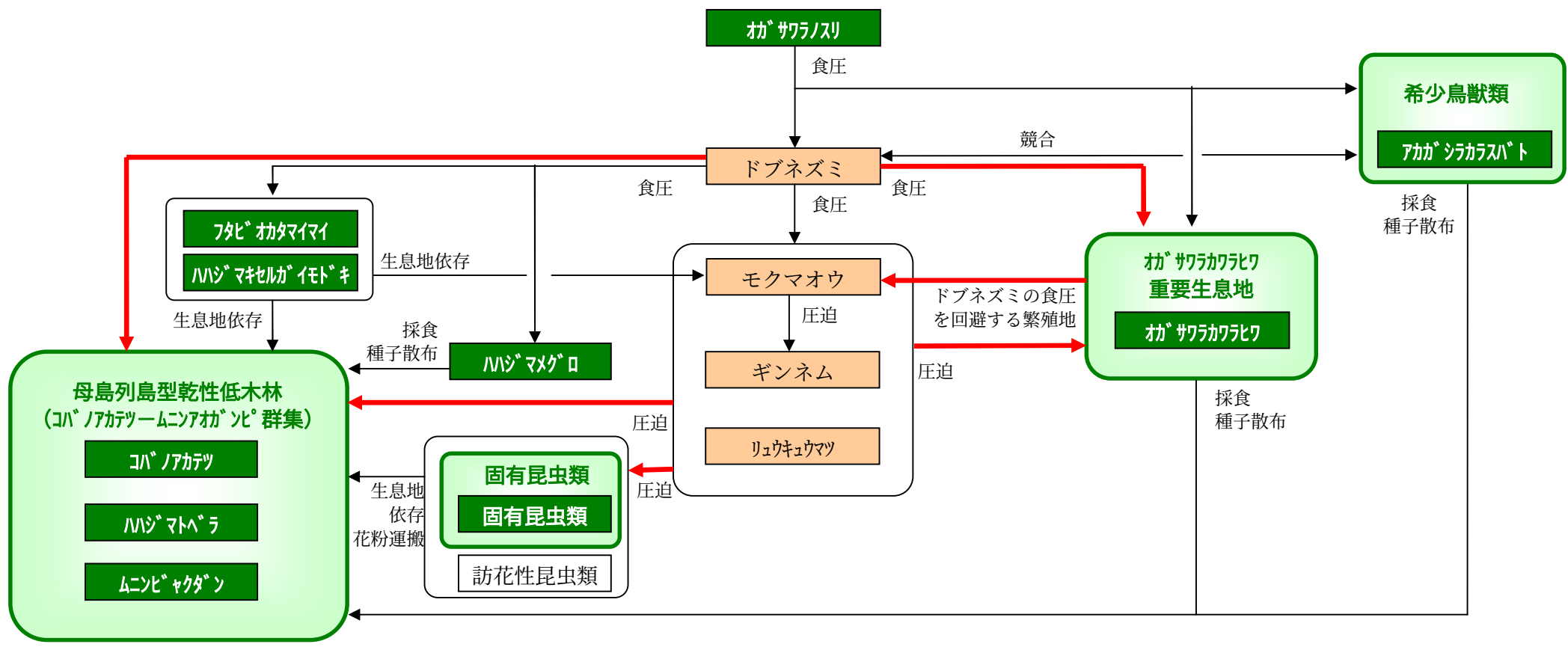
3) 取組みの項目と内容

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○ギンネム駆除	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
		○リュウキュウマツ駆除	リュウキュウマツの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
		○モクマオウ駆除	ギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの駆除に着手し、低密度化。	林野庁
②ドブネズミの根絶	ドブネズミによる生態系への影響排除	○ドブネズミ駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやモクマオウ等との種間関係を考慮し、ドブネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	環境省

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

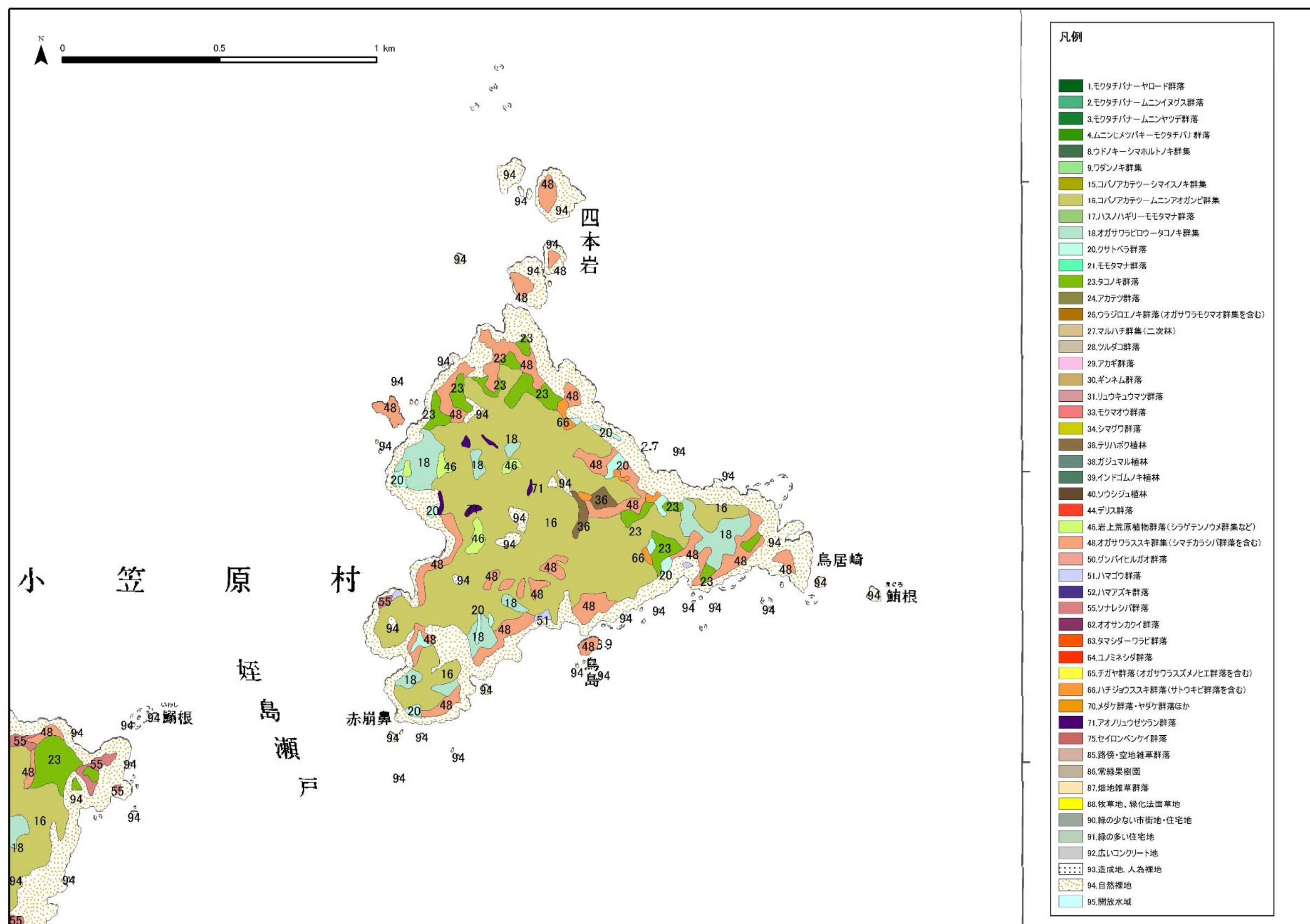
対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	(中長期的に対応)	—
		○シマカコソウの現況把握	シマカコソウの生育状況のさらなる基礎情報を蓄積。	環境省
②希少鳥獣類の現況把握	希少鳥獣類を保全していくための基礎情報の把握	○生息・繁殖状況の把握、ドブネズミの影響把握等	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	林野庁
③固有昆虫類の現況把握	固有昆虫類を保全していくための基礎情報の把握	○生息状況の把握等	オガサワラセセリ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省



凡例

- 対策の方向性に示した保全対象
- 固有種及び希少野生動植物種
- 在来種等
- 侵略的外来種、外来種
- 特に緊急対策が必要な侵略的外来種
- 根絶された外来種
- 関係性が明らかな種間関係
- に影響を及ぼす種間関係 (外来種関与)
- 根絶された外来種に関連する種間関係

姪島



植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 姪島における生態系保全管理の長期目標

母島列島型乾性低木林を中心とした生態系を保全する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・台地上に広く分布する母島列島型乾性低木林や、希少鳥獣類、固有昆虫類等の保全、回復を図るため、ギンネムやモクマオウ等の侵略的外来植物の低密度化を行う。
- ・また、オガサワラカワラヒワとモクマオウなどの種間関係に留意したネズミ類の根絶に向けた検討を行っていく。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	ギンネム、シマグワの駆除を実施し、継続中。また、空中写真判読により、縮尺1：25,000地形図を用いた外来植物分布図を作成。	ギンネム、シマグワ等の侵略的外来種のさらなる低密度化。	—
②ネズミ類の根絶	駆除検討中。	ネズミ類の根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	ギンネム、モクマオウ、シマグワの駆除によって在来植生の保全を実施。	侵略的外来植物の駆除を継続するとともに、中長期的に現況把握を実施。	—
②希少鳥獣類の現況把握	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—
③固有昆虫類の現況把握	オガサワラセセリなどの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—

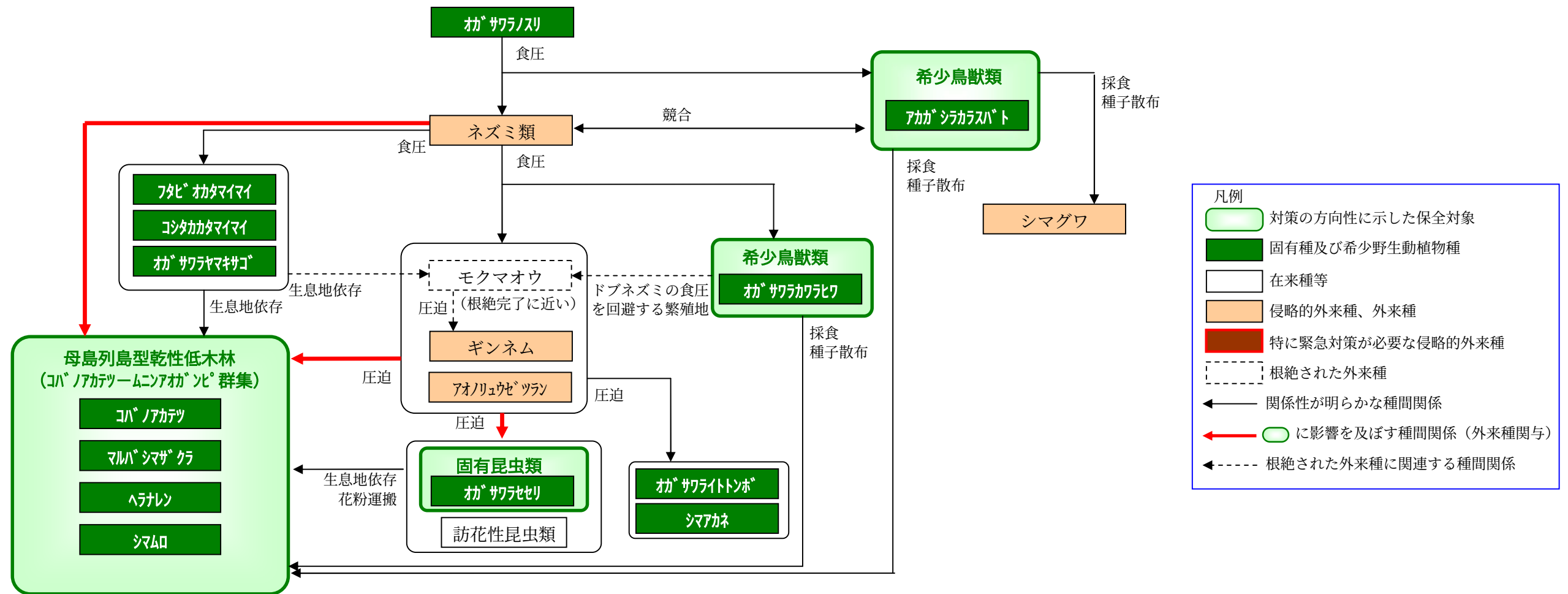
3) 取組みの項目と内容

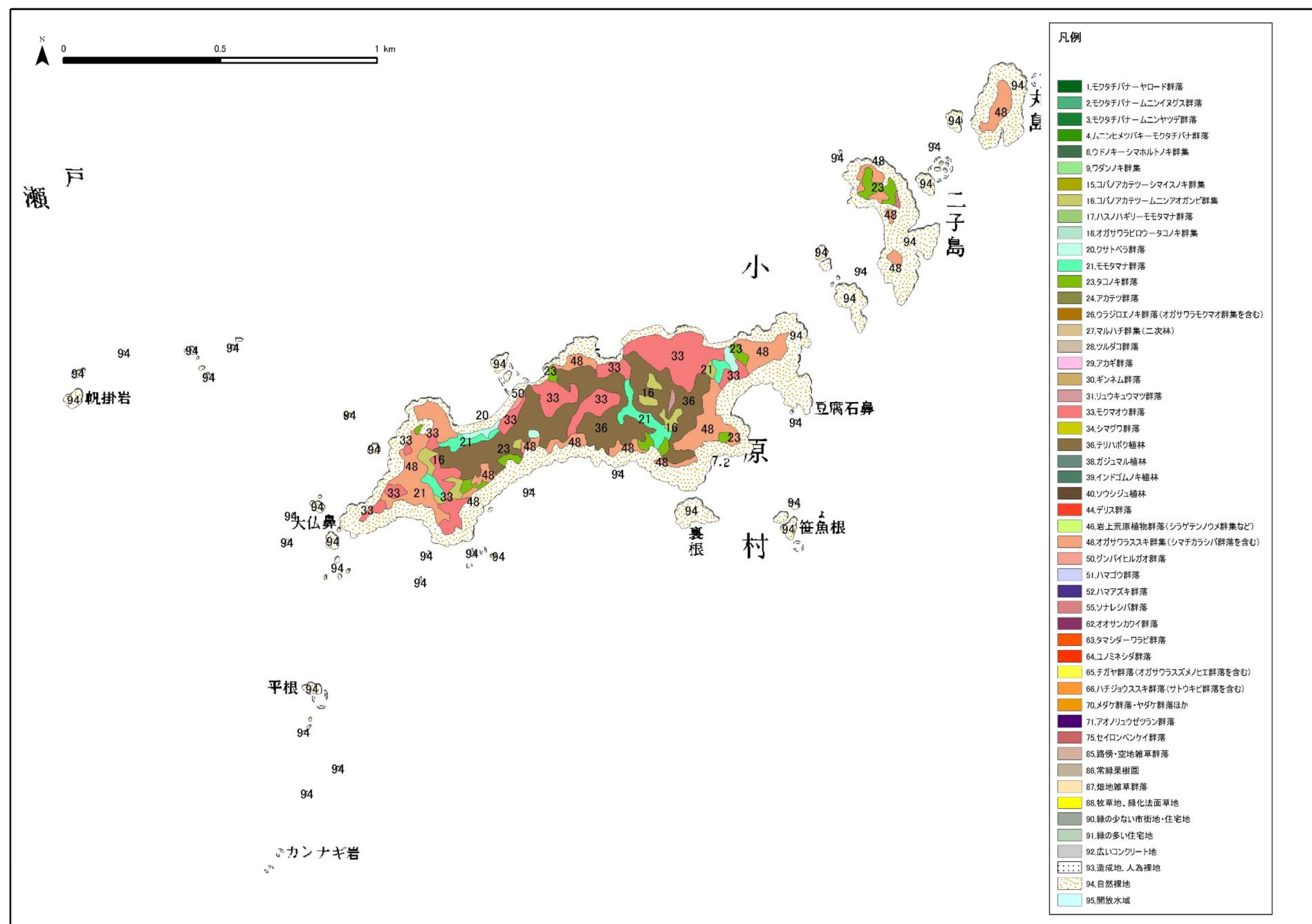
(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○ギンネム駆除	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
		○モクマオウの生育状況の監視	モクマオウの再拡大に留意し、監視。	環境省
		○シマグワ駆除	シマグワの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環境省
②ネズミ類の根絶	ネズミ類による生態系への影響排除	○ネズミ類駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやモクマオウ等との種間関係を考慮し、ネズミ類の根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	環境省

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	—
②希少鳥獣類の現況把握	希少鳥獣類を保全していくための基礎情報の把握	○生息・繁殖状況の把握、ネズミ類の影響把握等	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワ調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	林野庁
③固有昆虫類の現況把握	固有昆虫類を保全していくための基礎情報の把握	○生息状況の把握等	オガサワラセセリ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省





植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 平島における生態系保全管理の長期目標

在来植生を中心とした生態系を保全する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・在来植生や希少鳥獣類、固有昆虫類等の保全、回復を図るため、モクマオウやギンネム等の侵略的外来植物の低密度化を行う。
- ・また、オガサワラカワラヒワとモクマオウなどの種間関係に留意したネズミ類の根絶に向けた検討を行っていく。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	アカギ駆除を実施し、根絶に近い状態を達成。また、空中写真判読により、縮尺1：25,000地形図を用いた外来植物分布図を作成。	モクマオウやギンネム等の侵略的外来種の低密度化。	—
②ドブネズミの根絶	駆除検討中。	ドブネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	アカギの駆除によって在来植生の保全を実施。	侵略的外来植物の駆除を継続するとともに、中長期的に現況把握を実施。	—
②希少鳥獣類の現況把握	オガサワラカワラヒワの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—
③固有昆虫類の現況把握	オガサワラセセリなどの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—

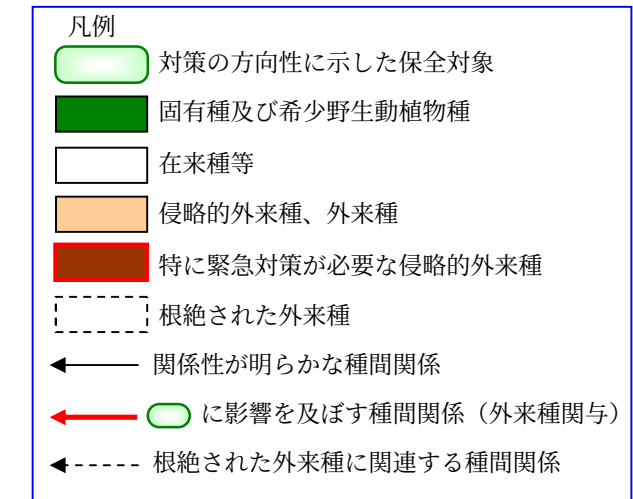
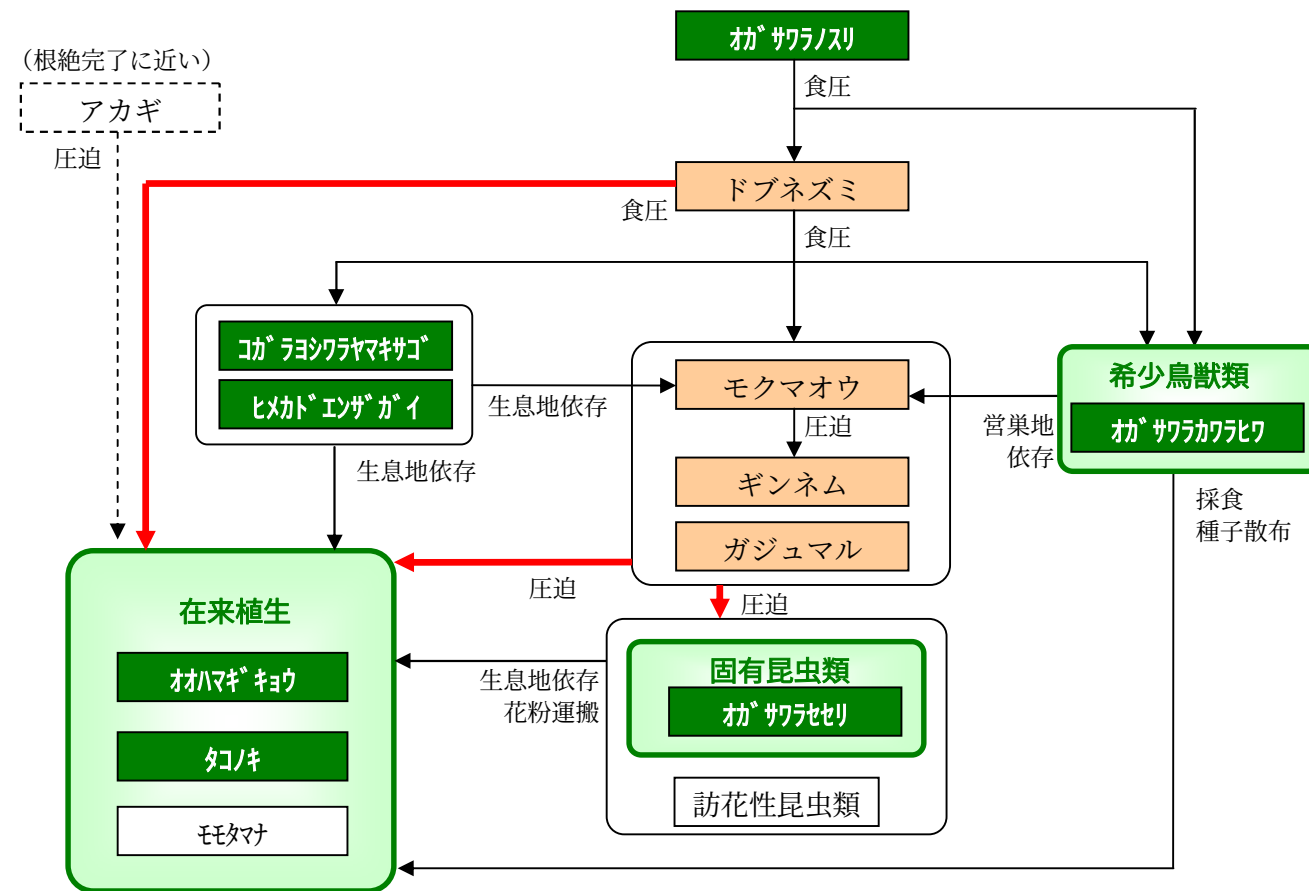
3) 取組みの項目と内容

(1) 侵略的外来種に対する防除

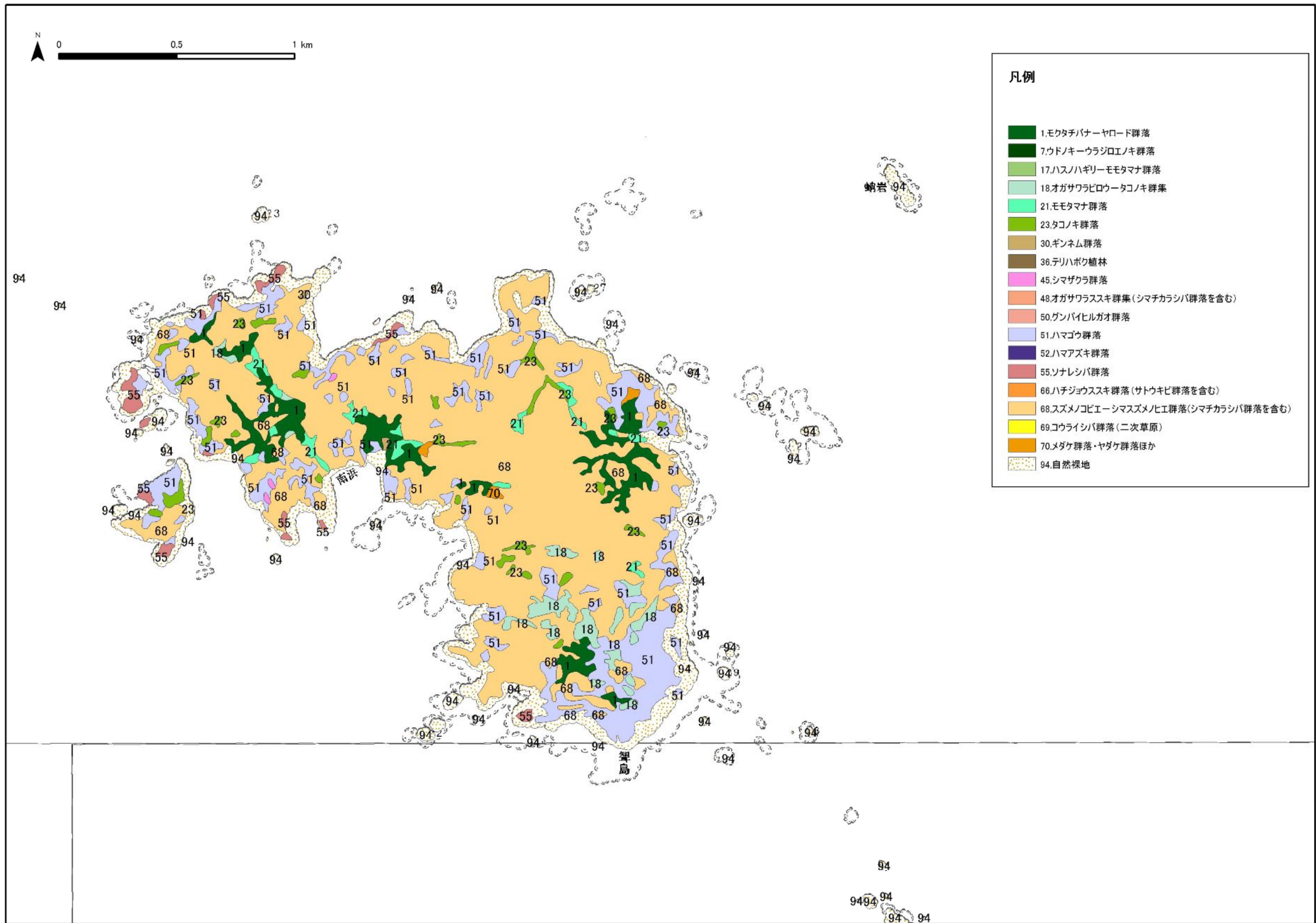
対策の方向性	目的	取組みの項目（H29年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○アカギ駆除	継続的に事後モニタリングを行い、確認時には駆除を実施。	環境省
		○モクマオウ駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの個体数低減に向けた検討を実施。	林野庁
		○ギンネム駆除	ギンネムの駆除に着手し、低密度化。	林野庁
②ドブネズミの根絶	ドブネズミによる生態系への影響排除	○ドブネズミ駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやモクマオウ等との種間関係を考慮し、ドブネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。	環境省

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	—
②希少鳥獣類の現況把握	希少鳥獣類を保全していくための基礎情報の把握	○生息・繁殖状況の把握、ドブネズミの影響把握等	希少鳥獣類の調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	林野庁
③固有昆虫類の現況把握	固有昆虫類を保全していくための基礎情報の把握	○生息状況の把握等	昆虫類の調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環境省



智 島



植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 釧路市における生態系保全管理の長期目標

海鳥類の繁殖地や在来植生を中心とした生態系を保全する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・既にノヤギが根絶されており、在来植生や固有昆虫類の生息環境の保全、回復を図るため、ギンネムをはじめとした侵略的外来種の低密度化を図っていく。
- ・また、釧路市及び隣接する島根県は、コアホウドリ、クロアシアホウドリの2種の繁殖地である。釧路市においては、アホウドリ保護増殖事業計画に沿って、かつて繁殖していたアホウドリの新繁殖地形成の継続的な取組が進められている。外来植物の繁茂などの影響を取り除き、持続的な繁殖地として保全し、アホウドリ類3種の安定的な繁殖・生息を目指していく。

1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	駆除対象とされたギンネム、タケ・ササ類、ガジュマル、シチヘンゲのうち、ギンネムは駆除を実施・継続中であり、メダケは試験駆除を実施。 また、空中写真判読により、縮尺1：25,000地形図を用いた外来植物分布図を作成。	ギンネムをはじめとした侵略的外来種のさらなる低密度化。	小笠原国立公園釧路列島植生回復調査検討委員会
②クマネズミの根絶	H20年8月に駆除が実施され、再確認後、H22年3月に再駆除された結果、根絶が完了。	事後モニタリングを行い、根絶や再侵入を監視。	小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会
○ノヤギの根絶	平成15年度までに根絶完了。		

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	ギンネムの駆除やクマネズミ・ノヤギの根絶によって在来植生の保全を実施。	侵略的外来種の駆除を継続するとともに、中長期的に現況把握を実施。	—
②固有昆虫類の保全・回復	ギンネムの駆除やクマネズミ・ノヤギの根絶によって固有昆虫類の保全を実施。	侵略的外来種の駆除を継続するとともに、中長期的に現況把握を実施。	—
③アホウドリ類3種の繁殖地の保全・形成	釧路市へ移送され巣立った雛が帰還するなど成果が認められ、現在、事後モニタリング等を継続中。	事後モニタリングを継続し、新繁殖地の維持・保全。	アホウドリ保護増殖事業検討会

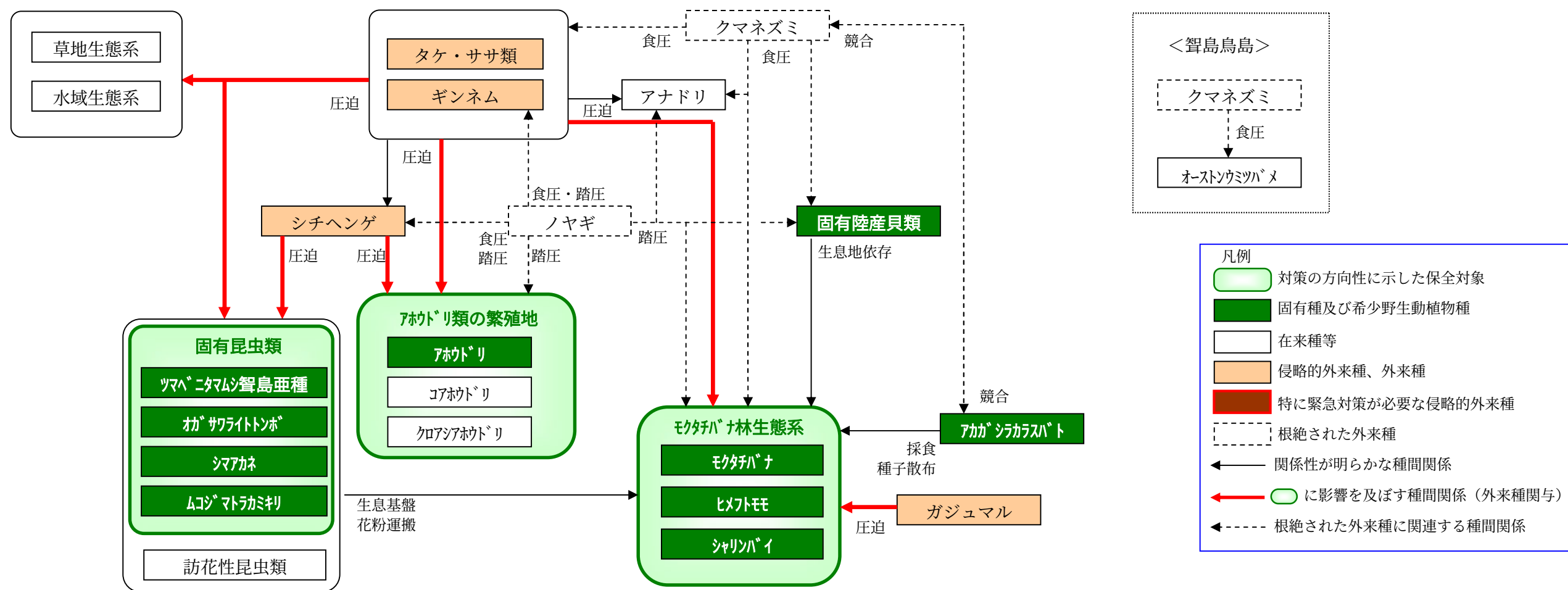
3) 取組みの項目と内容

(1) 侵略的外来種に対する防除

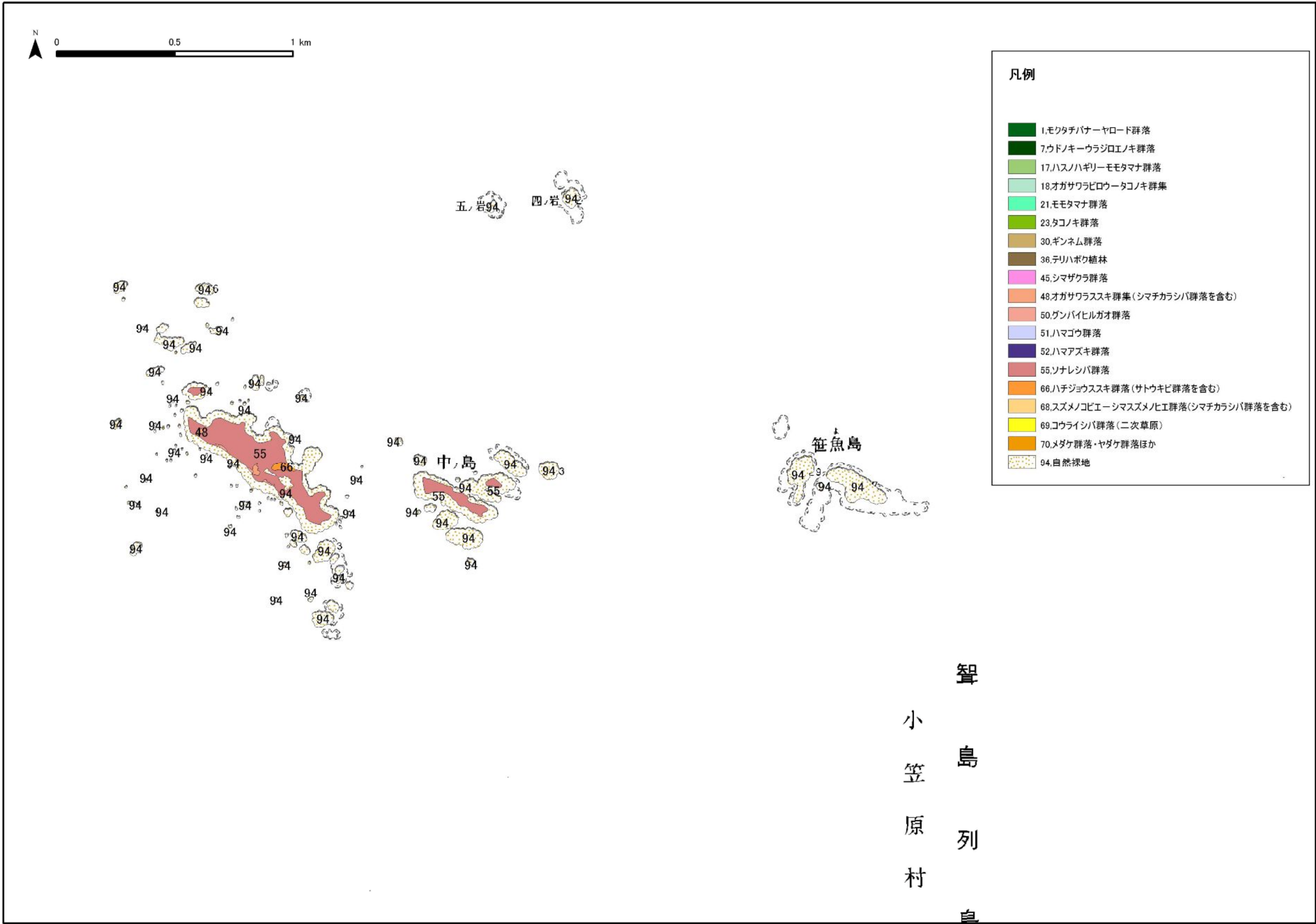
対策の方向性	目的	取組みの項目（H29年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○ギンネム駆除	ノヤギ駆除後に生育範囲が拡大しているギンネムの駆除を継続し、低密度化。	東京都
		○タケ・ササ類駆除	ギンネム駆除とあわせてタケ・ササ類の駆除を検討。	東京都
②クマネズミの根絶	クマネズミの根絶確認	○クマネズミ生息確認調査	継続的に事後モニタリングを行い、根絶や再侵入を監視。	環境省

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○外来種駆除後の回復状況の把握等	（中長期的に対応）	—
②固有昆虫類の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○外来種駆除後の回復状況の把握等	（中長期的に対応）	—
③アホウドリ類3種の保全	アホウドリ類3種の繁殖場所の持続化	○事後モニタリングの実施等	継続的に事後モニタリングを行い、必要に応じて新たな対策等を検討。	環境省 東京都



北之島



植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 北之島における生態系保全管理の長期目標

海鳥類の繁殖地や在来植生を中心とした生態系を保全する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・北ノ島はオナガミズナギドリやアナドリなどの海鳥類の貴重な繁殖地となっている。
- ・海鳥類の繁殖地や在来植生の保全、回復を図るため、外来植物の駆除に向けた検討を中長期的に行っていく。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の侵入状況の把握	空中写真判読により、縮尺1：25,000 地形図を用いた外来植物分布図を作成。	中長期的に対応。	—

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	—	中長期的に対応。	—
②海鳥類の繁殖地の保全	—	中長期的に対応。	—

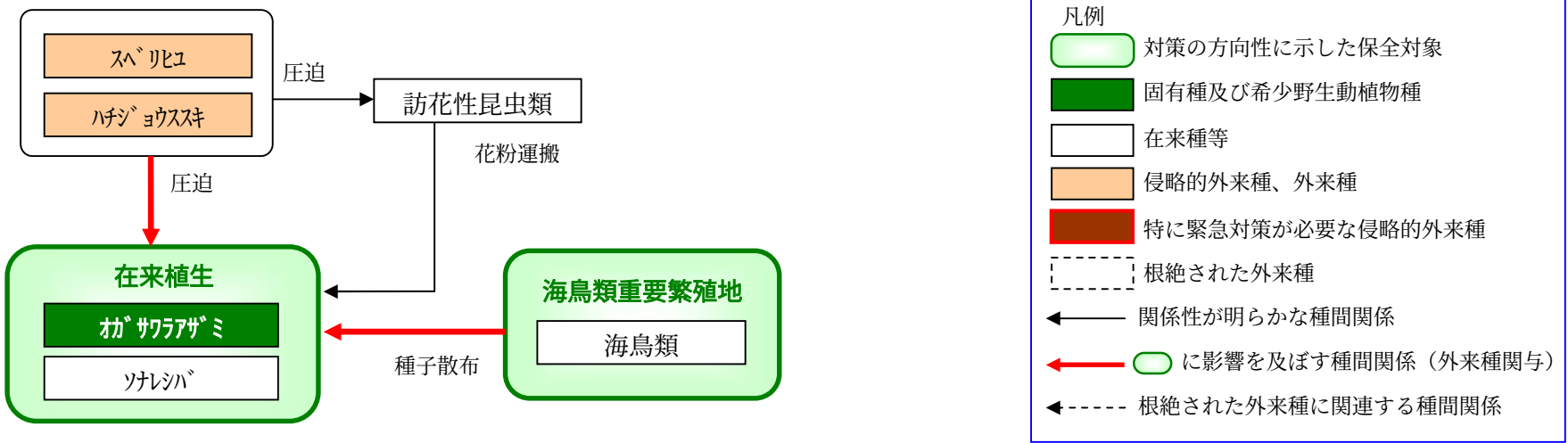
3) 取組みの項目と内容

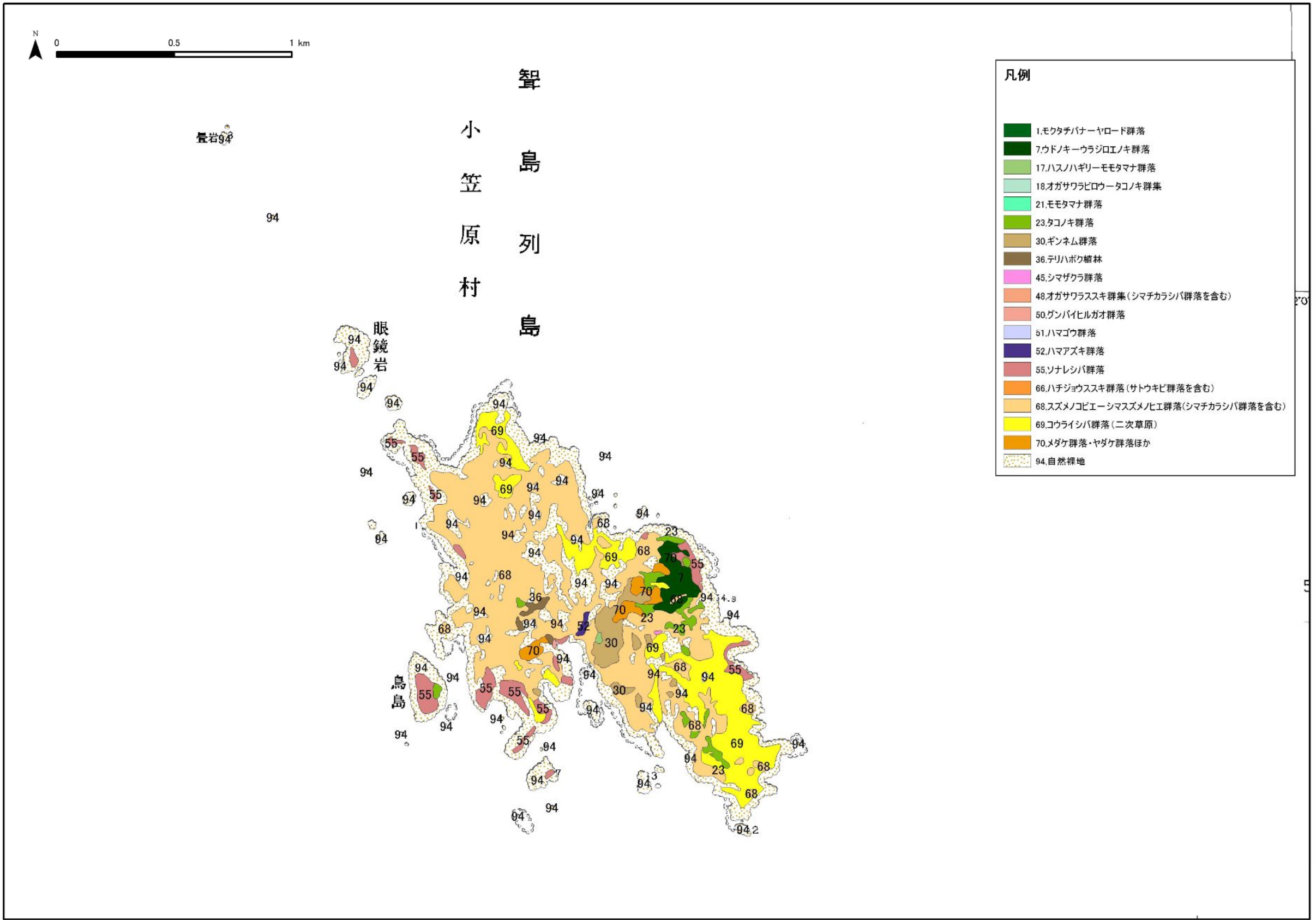
(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の侵入状況の把握	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○外来植物の侵入状況や分布の監視等	（中長期的に対応）	林野庁

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	—
②海鳥類の繁殖地の保全	海鳥類の繁殖地を保全するための基礎情報の把握	○海鳥類の繁殖状況の把握、ネズミ類の影響把握等	（中長期的に対応）	—





媒 島

植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 媒島における生態系保全管理の長期目標

海鳥類の繁殖地や在来植生を中心とした生態系を保全する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・媒島はクロアシアホウドリやカツオドリなどの海鳥類の繁殖地となっている。
- ・既にノヤギが根絶されており、海鳥類の繁殖地や在来植生の保全、回復を図るため、ギンネムの駆除を土砂流出防止対策とあわせて継続的に取り組んでいくとともに、クマネズミや外来植物の駆除に向けた検討を中長期的に行っていく。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	ギンネム駆除を実施し、事後モニタリングにて効果確認。 また、空中写真判読により、縮尺1：25,000地形図を用いた外来植物分布図を作成。	侵略的外来種であるギンネムのさらなる低密度化。	小笠原国立公園智島列島植生回復調査検討委員会
②クマネズミの根絶	駆除検討中。	(中長期的に対応)	—
○ノヤギの根絶	平成11年度までに根絶完了。		

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	(中長期的に対応)	(中長期的に対応)	—
②海鳥類の繁殖地の保全	(中長期的に対応)	(中長期的に対応)	—

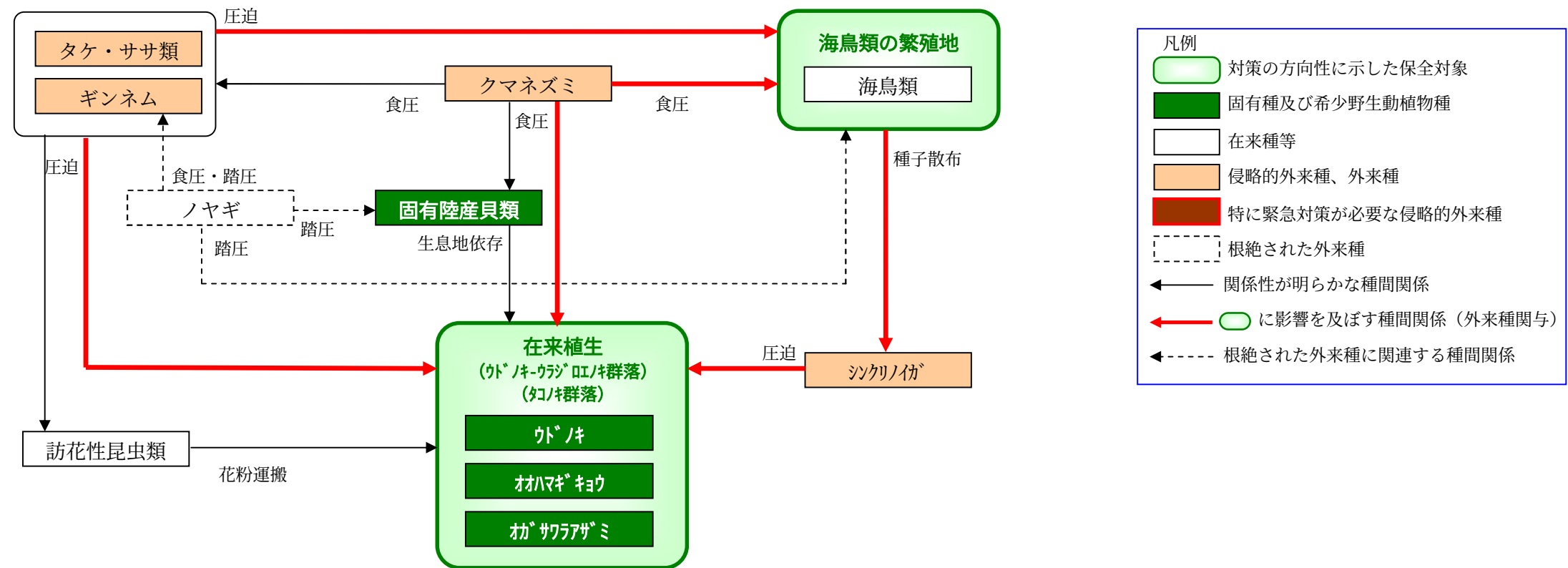
3) 取組みの項目と内容

(1) 侵略的外来種に対する防除

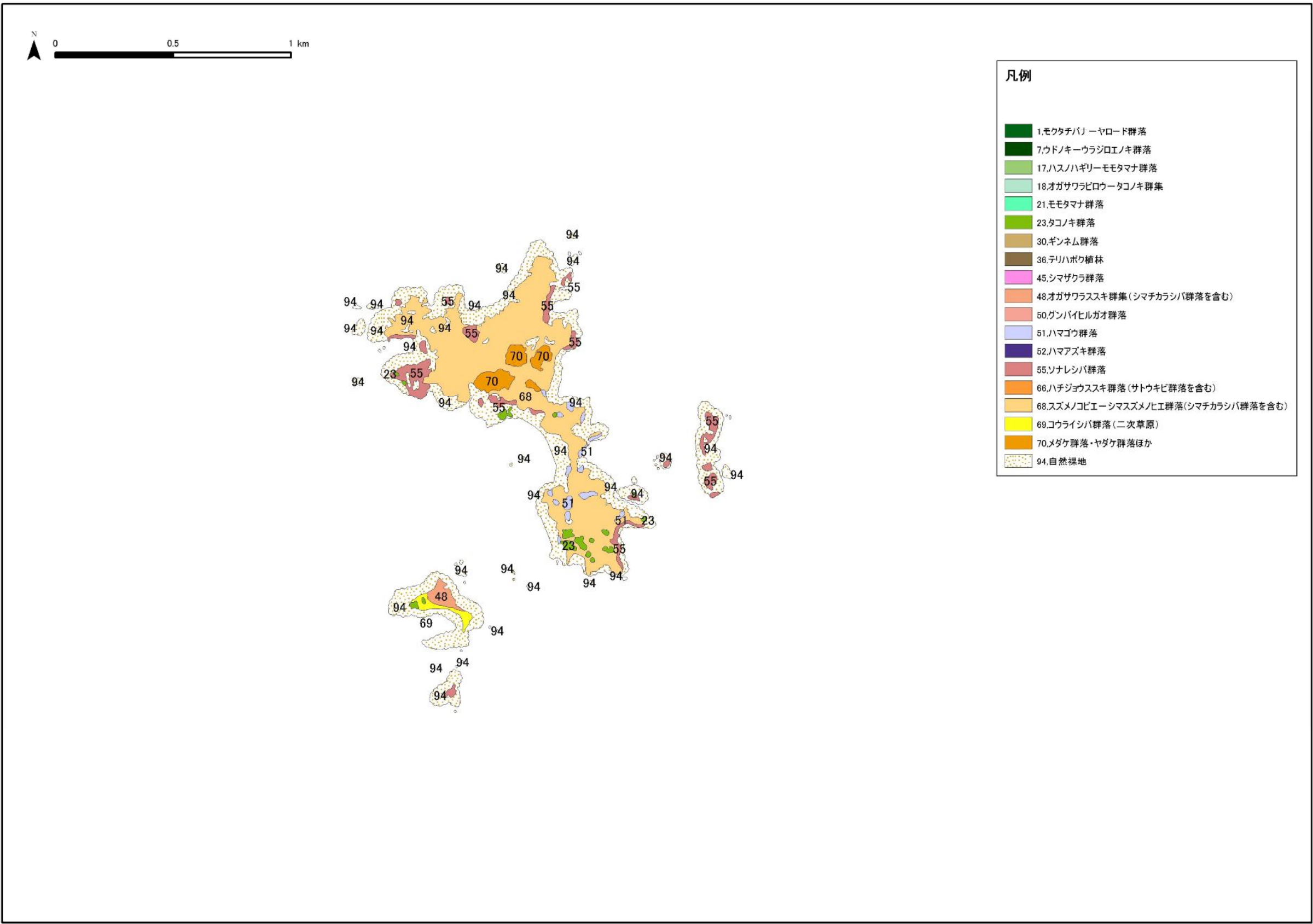
対策の方向性	目的	取組みの項目 (H29年度末まで)	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○ギンネム駆除	ノヤギ駆除後に生育範囲が拡大しているギンネムの駆除を継続し、低密度化。	東京都
		○タケ・ササ類駆除	ギンネム駆除とあわせ、タケ・ササ類の駆除を検討。	東京都
②クマネズミの根絶	固有生態系の復元、影響排除	○クマネズミ駆除	(中長期的に対応)	—

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目 (H29年度末まで)	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	(中長期的に対応)	—
②海鳥類の繁殖地の保全	海鳥類の繁殖地の保全していくための基礎情報の把握	○海鳥類の繁殖状況の把握、ネズミ類の影響把握等	(中長期的に対応)	—
③固有昆虫類の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○外来種駆除後の回復状況の把握等	(中長期的に対応)	—



嫁 島



植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 嫁島における生態系保全管理の長期目標

海鳥類の繁殖地や在来植生を中心とした生態系を保全する。

2) 対策の方向性と第 2 期アクションプランにおける達成目標

- ・嫁島はクロアシアホウドリやオナガミズナギドリなどの海鳥類の繁殖地となっている。
- ・既にノヤギが根絶されており、海鳥類の繁殖地や在来植生の保全、回復を図るため、クマネズミや外来植物の駆除に向けた検討を中長期的に行っていく。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の個体数低減	空中写真判読により、縮尺 1：25,000 地形図を用いた外来植物分布図を作成。	中長期的に対応。	—
②クマネズミの根絶	クマネズミの駆除検討中。	中長期的に対応。	—
○ノヤギの根絶	平成 13 年度までに根絶完了。		

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①在来植生の保全・回復	—	中長期的に対応。	—
②海鳥類の繁殖地の保全・回復	—	中長期的に対応。	—

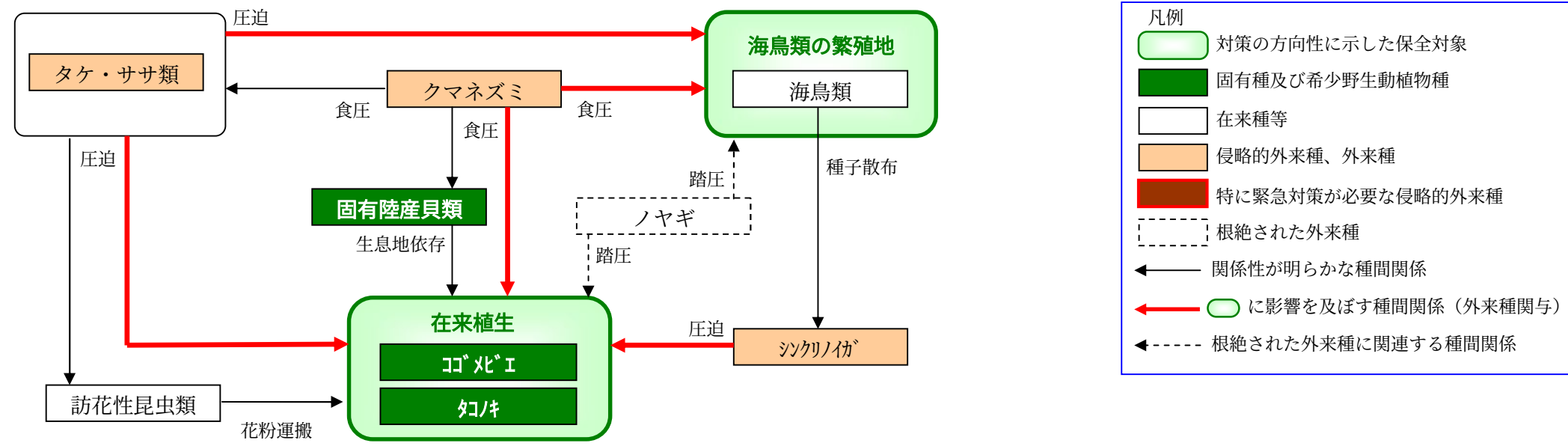
3) 取組みの項目と内容

(1) 侵略的外来種に対する防除

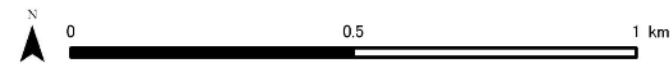
対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の個体数低減	外来植物の生態系への影響排除	○タケ・ササ類の駆除等	（中長期的に対応）	—
②クマネズミの根絶	クマネズミの生態系への影響排除	○クマネズミの駆除	（中長期的に対応）	環境省

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

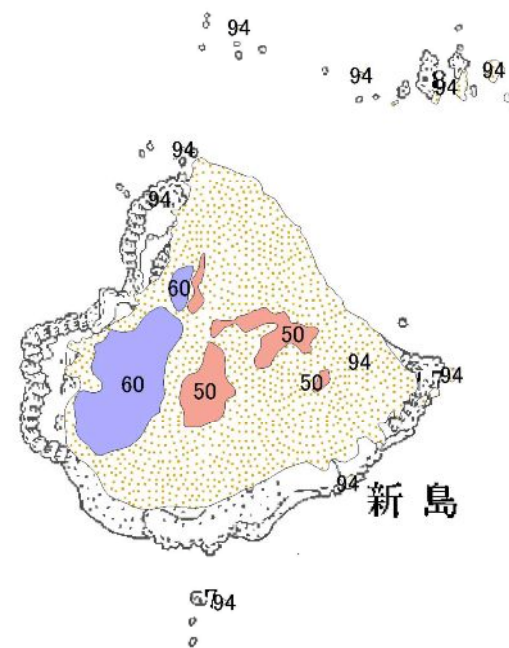
対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①在来植生の保全・回復	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）	林野庁
②海鳥類の繁殖地の保全	海鳥類の繁殖地を保全するための基礎情報の把握	○海鳥類の繁殖状況の把握、ネズミ類の影響把握等	（中長期的に対応）	環境省



西之島



小笠原村



凡例

- 50, グンバイヒルガオ群落
- 60, スベリヒューオシンバ群落
- 94, 自然裸地

参考：2013 年 11 月以降の噴火に伴う拡大状況



写真出典：海域火山データベース 海上保安庁海洋情報部
(2014 年 2 月 11 日撮影)

植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 西之島における生態系保全管理の長期目標

海洋島特有の生態系を保存する。

2) 対策の方向性と第 2 期アクションプランにおける達成目標

- ・西之島は、1973 年の噴火により前ページ植生図の地形が成立。さらに、2013 年の噴火によって南側に新島が出現した。その後徐々に拡大し、西之島と一体的な地形へと成長している。
- ・今後とも現況把握のための調査を実施して遷移による植生変化等を観察し、生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握を中長期的に行っていく。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①現況把握の実施	空中写真判読により、縮尺 1：25,000 地形図を用いた外来植物分布図を作成。	(中長期的に対応)	—

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①現況把握の実施	(中長期的に対応)	(中長期的に対応)	—

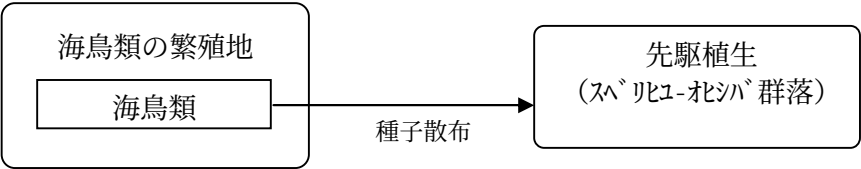
3) 取組みの項目と内容

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目 (H29 年度末まで)	内容	実施機関
①外来植物の侵入状況の把握	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○外来植物の侵入状況や分布の監視等	(中長期的に対応)	—

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

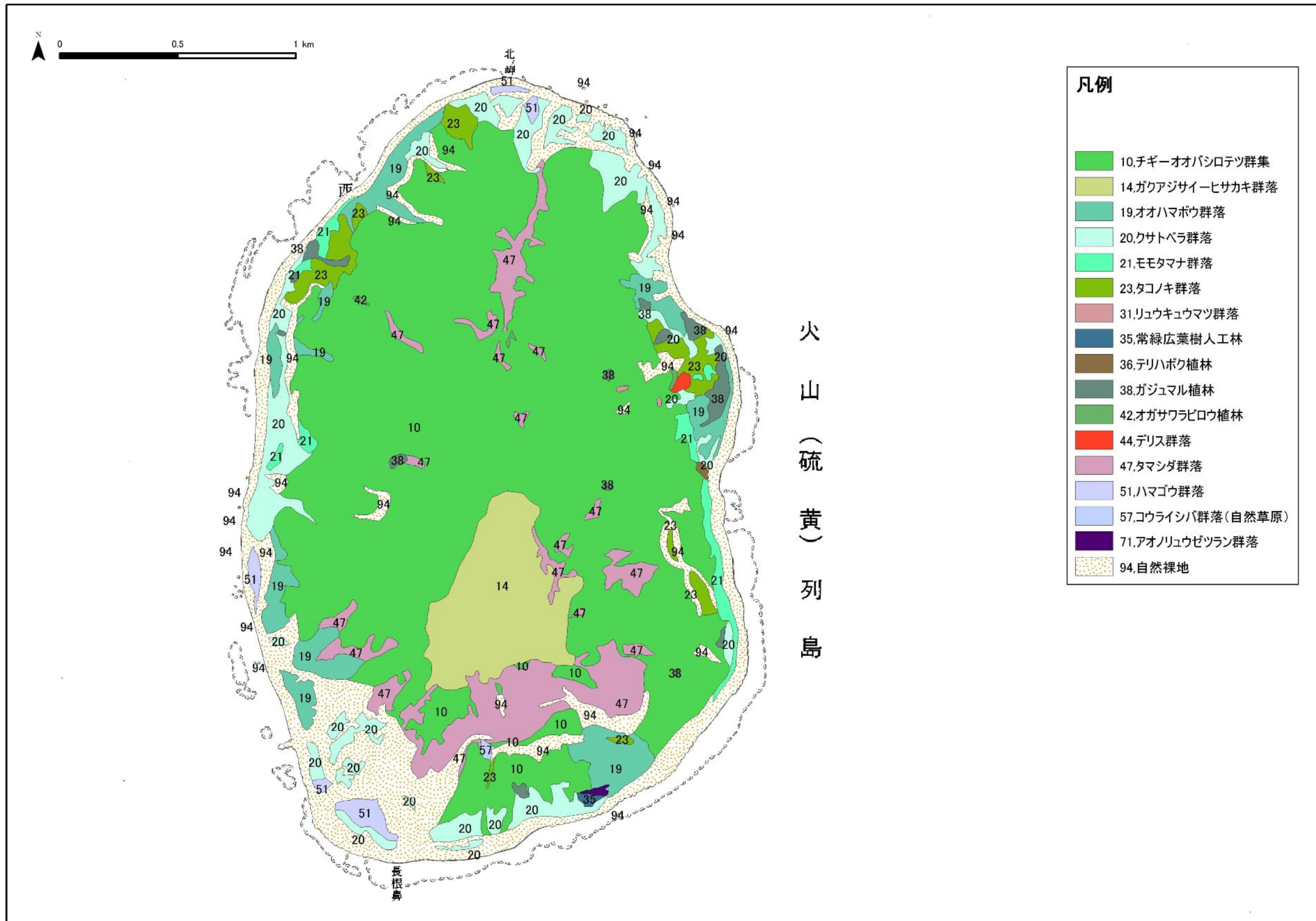
対策の方向性	目的	取組みの項目 (H29 年度末まで)	内容	実施機関
①固有生態系の現況把握	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施、遷移状況の把握等	(中長期的に対応)	—



凡例

- 対策の方向性に示した保全対象
- 固有種及び希少野生動植物種
- 在来種等
- 侵略的外来種、外来種
- 特に緊急対策が必要な侵略的外来種
- 根絶された外来種
- 関係性が明らかな種間関係
- に影響を及ぼす種間関係 (外来種関与)
- 根絶された外来種に関連する種間関係

北硫黄島



植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1）北硫黄島における生態系保全管理の長期目標

海洋島特有の生態系を保存する。

2）対策の方向性と第 2 期アクションプランにおける達成目標

- ・北硫黄島は、海洋島特有の生態系が維持されている。
- ・今後とも希少鳥獣類の保全を図るための基礎情報として、アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリの生息状況を継続的に把握する。
- ・また、固有の生態系、特に海鳥類の繁殖地を保全するためのネズミ類の根絶に向けた検討を中長期的に行っていく。

（1）侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の侵入状況の把握	空中写真判読により、縮尺 1：25,000 地形図を用いた外来植物分布図を作成。	中長期的に対応。	—

（2）在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第 2 期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①希少鳥獣類の現況把握	アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリの生息調査を実施。	さらなる基礎情報の蓄積。	—
②海鳥類の繁殖地の保全	—	中長期的に対応。	—

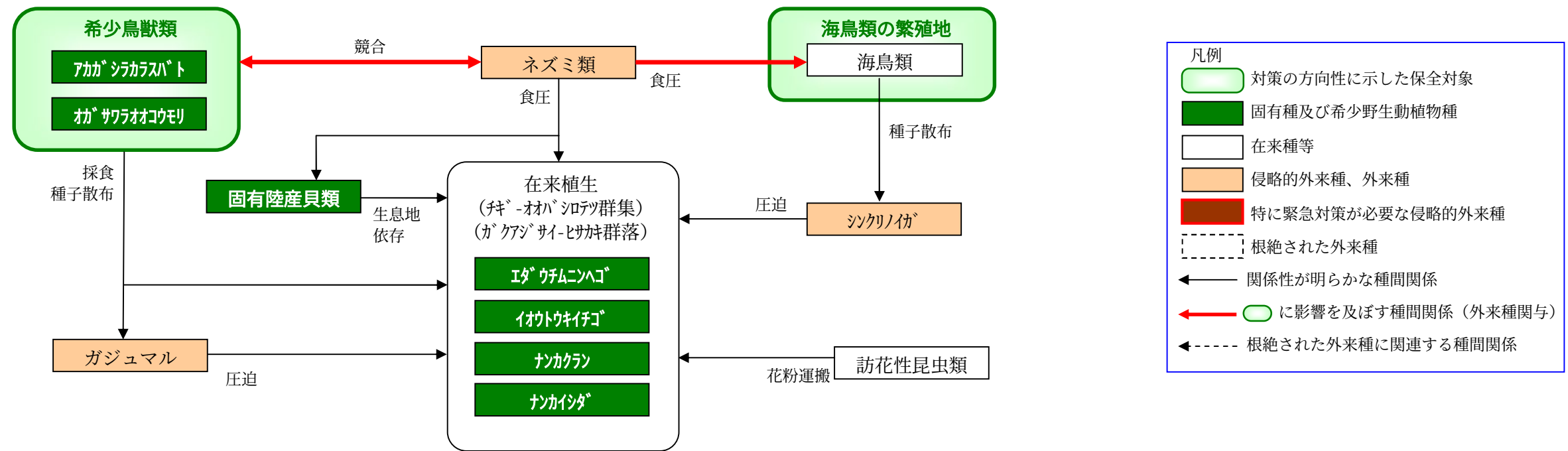
3）取組みの項目と内容

（1）侵略的外来種に対する防除

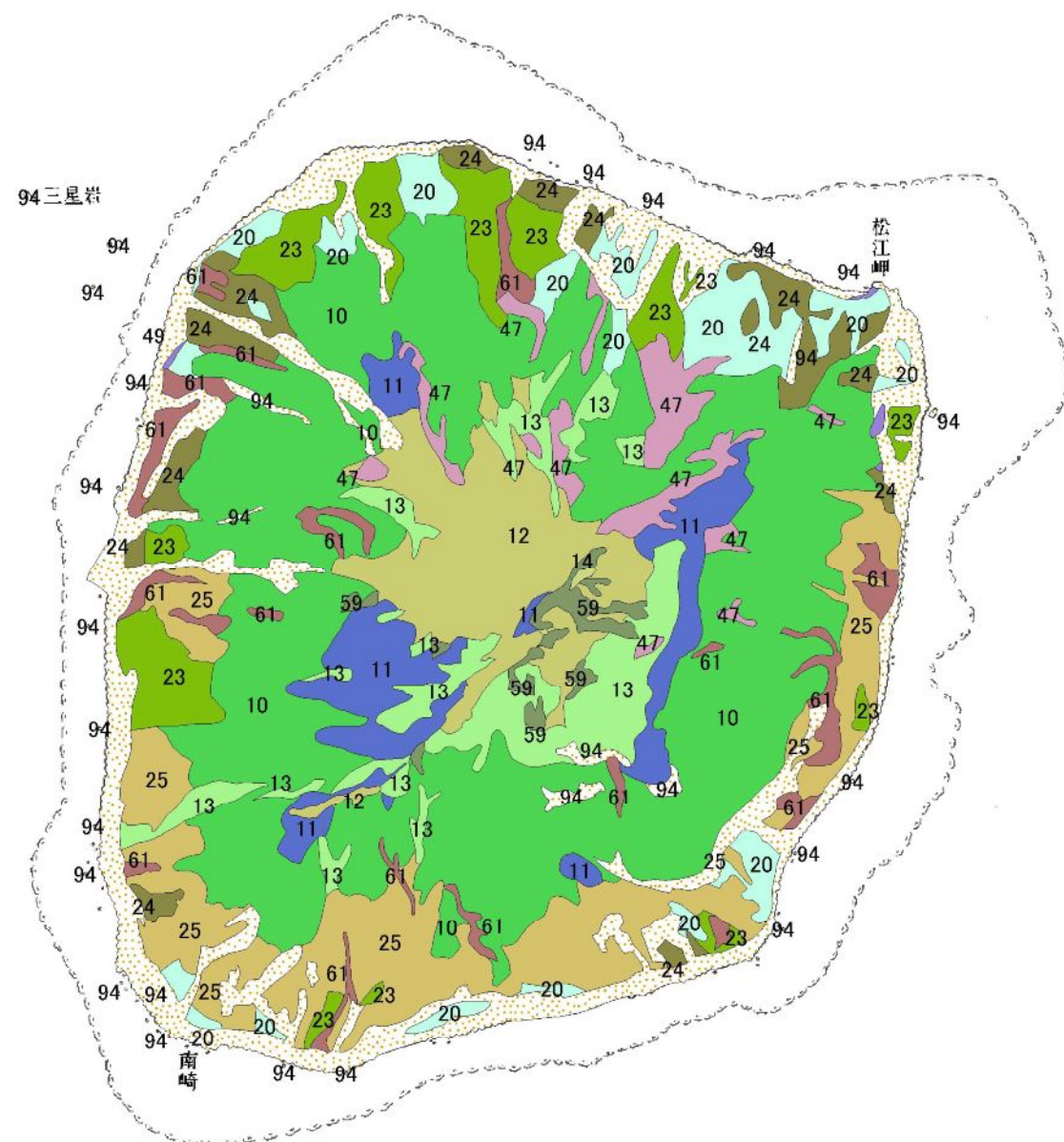
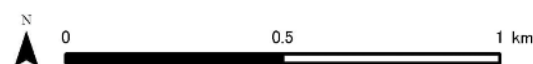
対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の侵入状況の把握	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○外来植物の侵入状況や分布の監視等	（中長期的に対応）	—
②ネズミ類の根絶	ネズミ類の生態系への影響排除	○ネズミ類の駆除	（中長期的に対応）	—

（2）在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29 年度末まで）	内容	実施機関
①希少鳥獣類の保全	希少鳥獣類の保全を図るための基礎情報の把握	○アカガシラカラスバト・オガサワラオオコウモリ生息状況把握	希少鳥獣類の調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	東京都
②海鳥類の繁殖地の保全	海鳥類の繁殖地の保全	○海鳥類の繁殖状況の把握、ネズミ類の影響把握等	（中長期的に対応）	—



南硫黄島



凡例

- 10,チギーオオバシロテツ群集
- 11,コブガシ—コクモウクジャク群落
- 12,マルハチ群集・エダウチムニンヘゴ群集
- 13,オトキワイヌビワ群落など
- 14,ガクアジサイ—ヒサカキ群落
- 20,クサトベラ群落
- 23,タコノキ群落
- 24,アカテツ群落
- 25,センダン群落
- 47,タマシダ群落
- 49,モクビャクコウ群落(小形半低木群落)
- 59,ススキ—ナンヨウカモジグサ群集
- 61,ナンバンカラムシ群落
- 94,自然裸地

植生図：「平成 24 年度東京都（小笠原諸島）現存植生調査委託、東京都環境局・アジア航測(株)」のデータを用いて作成

1) 南硫黄島における生態系保全管理の長期目標

原生の姿を残す海洋島特有の生態系を保存する。

2) 対策の方向性と第2期アクションプランにおける達成目標

- ・南硫黄島は、海洋島特有の生態系が原生的な状態で維持されている。
- ・今後とも、原生的な自然環境として極力人為的影響の可能性を回避し、生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握を中長期的に行っていく。
- ・それにより原生の海洋島生態系のしくみを明らかにするとともに、外来種の侵入状況を継続的に監視することなどにより、南硫黄島における生態系を維持していく。

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①外来植物の侵入状況の把握	空中写真判読により、縮尺1：25,000地形図を用いた外来植物分布図を作成。	中長期的に対応。	—

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	これまでの取組み成果及び現状	第2期アクションプランによる達成目標	評価実施・事業へのフィードバック等
①固有生態系の現況把握	—	中長期的に対応。	—

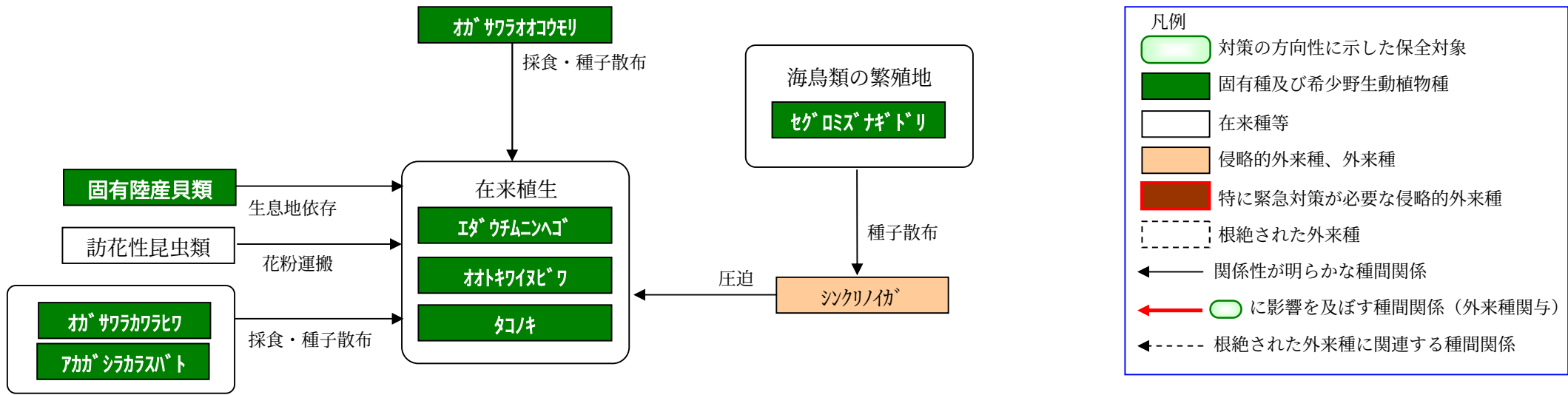
3) 取組みの項目と内容

(1) 侵略的外来種に対する防除

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29年度末まで）	内容	実施機関
①外来植物の侵入状況の把握	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○外来植物の侵入状況や分布の監視等	（中長期的に対応）	—

(2) 在来種の保全及び生態系機能の保全

対策の方向性	目的	取組みの項目（H29年度末まで）	内容	実施機関
①生態系の現況把握	生態系保全管理を推進していくための基礎情報の把握	○植生調査の実施等	（中長期的に対応）	—



参考資料１．「在来種の保全及び生態系機能の保全」に関する整理

対策の方向性	取組みの項目 (H29 年度末まで)	内容	父					弟	西	東	南	母			向	姉	妹	姪	平	聳	北之	媒	嫁	西之	北硫	南硫
			夜明平 長崎	東平 中央山	東平 ※	南部	その他					石門	中北部	南崎												
在来植生の保全・回復	○オガサワラグワの生育状況調査	オガサワラグワの保全計画に基づき、調査・対策を継続。						都																		
	○タコノキの植栽	NP0 と連携しながら在来種の植生の回復。							林																	
	○希少植物の保全	タコノキ植栽箇所のモニタリング等					林																			
		林木育種センター育成の父島産オガサワラグワの野生復帰(具体的箇所については検討中)	林	林		林	(林)																			
		希少植物（コバトベラ、ウラジロコムラサキ、コヘラナレン等）へのネットの設置によりノヤギ・ネズミ類の食害の回避。	環	環		環	環																			
		希少植物（コバトベラ、ウラジロコムラサキ、コヘラナレン等）の生育環境改善、人工増殖等の域内保全、域外保全の継続により、個体数の安定、回復を図る。希少植物を被圧する外来植物の除去を進める。			環																					
	○希少植物の生育状況調査・生育状況巡視	希少植物（ホシツルラン、タイヨウフウトウカズラ、ヒメタニワタリ、シマカコソウ）の生育状況調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。										環林														
		希少植物（ホシツルラン、シマカコソウ）の生育状況調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。											環林													
	○希少植物の生育状況調査	希少植物（シマカコソウ）の生育状況調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。												環												
	○シマカコソウの現況把握	シマカコソウの生育状況のさらなる基礎情報を蓄積。															環									
	○希少植物の巡視	希少植物（コバトベラ、ウラジロコムラサキ、コヘラナレン等）の巡視	林	林		林	林																			
	○種間相互作用による生態系機能の解明	調査区を設置しての植生調査やライントランセクト法による動物調査等を実施し、種間関係図等を作成。						林																		
	○種間相互作用による生態系機能の解明	調査区を設置しての植生調査やライントランセクト法による動物調査等を実施し、種間関係図等を作成。	(林)	林		(林)	(林)																			
	○植生変化・世代交代の確認	調査区を設置して実生の発生状況調査を含む植生調査等を実施。						林																		
生態系機能の保全	○植生調査の実施、外来種の影響把握等	（中長期的に対応）							林	林	林	—	—	—	—	—	—	—	—		—	—	林			
	○外来種駆除後の回復状況の把握等	（中長期的に対応）																		—						
生態系機能の保全	○植生変化・世代交代の確認	調査区を設置して実生の発生状況調査を含む植生調査等を実施。		林																						

対策の方向性	取組みの項目 (H29 年度末まで)	内容	父					弟	西	東	南	母			向	姉	妹	姪	平	聳	北之	媒	嫁	西之	北硫	南硫
			夜明平 長崎	東平 中央山	東平 ※	南部	その他					石門	中北部	南崎												
希少鳥獣類の保全	○オガサワラノスリの生息調査	オガサワラノスリ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。										環林	環林													
	○アカガシラカラスバト・オガサワラオオコウモリ生息状況把握	希少鳥獣類の調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。																						都		
	○アカガシラカラスバトの生息調査	アカガシラカラスバト保護増殖事業計画に基づき、調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。		環林																						
	○アカガシラカラスバトの生息調査	アカガシラカラスバト調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。			環林			環	環		環	環林	環林													
	○アカガシラカラスバトの生息調査	アカガシラカラスバト調査等を継続し、ノネコの影響など、さらなる基礎情報を蓄積。												環林												
	○ハハジマメグロの生息調査	ハハジマメグロ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。										環林	環林													
	○オガサワラカワラヒワの生息調査	オガサワラカワラヒワ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。										環林	環林													
	○オガサワラカワラヒワの生息調査	オガサワラカワラヒワ調査等を継続し、ノネコの影響など、さらなる基礎情報を蓄積。												環林												
	○オガサワラオオコウモリの生息調査	都有地を活用してオガサワラオオコウモリの保全を図るため、オガサワラオオコウモリの生息状況や生態等、さらなる基礎情報を蓄積。	都	都		都	都																			
○オガサワラオオコウモリの生息調査	オガサワラオオコウモリ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。			環			環	環	環	環																
希少鳥獣類の現況把握	○生息・繁殖状況の把握、ドブネズミの影響把握等	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。													林	林	林									
		希少鳥獣類の調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。																林								
	○生息・繁殖状況の把握、ネズミ類の影響把握等	アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワ調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。															林									
海鳥類の繁殖地の保全	○海鳥類の繁殖状況の把握、ネズミ類の影響把握等	(中長期的に対応)																		—	—	環		—		
アホウドリ類 3 種の保全	○アホウドリの新繁殖地形成への誘導	継続的に事後モニタリング及び誘引を行い、必要に応じて新たな対策等を検討。																	環都							
	○クロアジアホウドリ等のモニタリング	継続してモニタリングを実施。																	都		都	都				

対策の方向性	取組みの項目 (H29 年度末まで)	内容	父					弟	西	東	南	母			向	姉	妹	姪	平	聳	北之	媒	嫁	西之	北硫	南硫
			夜明平 長崎	東平 中央山	東平 ※	南部	その他					石門	中北部	南崎												
固有昆虫類の保全	○固有トンボ類の域内保全	保護増殖事業計画に基づく調査・対策を継続。						環				環	環	環												
	○固有トンボ類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。	環	環		環	環																			
	○止水環境の維持・回復	人工トンボ類繁殖池も含めた止水環境の維持・回復を実施。						環																		
	○希少昆虫類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。						環																		
	○オガサワラシジミの域内保全	保護増殖事業計画に基づく調査・対策を継続。										環	環	環												
	○オガサワラシジミの保全施設活用	都有地に設置した施設にて、人工飼育に向けた取組を実施。											都													
	○ヒメカタゾウムシ類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。										環	環	環												
	○コメツキムシ類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。										環	環	環												
	○その他希少昆虫類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。										環	環	環												
固有昆虫類の現況把握	○生息状況の把握等	オガサワラセセリ調査等を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。															環	環								
		昆虫類調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。													環	環			環							
固有昆虫類の保全・回復	○外来種駆除後の回復状況の把握等	(中長期的に対応)																		—		—				
固有陸産貝類の保全	○域外保全、及び、保全的再導入	域外での飼育（室内・野外）の継続、さらなる基礎情報の蓄積。父島個体群の周辺属島への保全的再導入の検討。					環																			
	○固有陸産貝類・貝食性プラナリア類の生息調査	現況把握のための調査を継続し、さらなる基礎情報を蓄積。										環	環	環												
固有生態系の現況把握	○植生調査の実施、遷移状況の把握等	(中長期的に対応)																					—			
生態系の現況把握	○植生調査の実施等	(中長期的に対応)																							—	

※父島「東平」…ノヤギ・ノネコ柵の内側

注記）①兄島は除いた（取組み項目や内容について詳細に区分されたため）

②「―」は関係機関の役割分担が未定の項目

③空欄は対象外

参考資料２．「侵略的外来種に対する防除」に関する整理

対策の方向性	取組みの項目 (H29 年度末まで)	内容	父					弟	西	東	南	母			向	姉	妹	姪	平	聳	北之	媒	嫁	西之	北硫	南硫
			夜明平 長崎	東平 中央山	東平※	南部	その他					石門	中北部	南崎												
外来植物の個体数低減	○アカギ駆除	アカギの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林	林	林							林	環林	環林												
		継続的に事後モニタリングを行い、確認時には駆除を実施。						環											環							
	○モクマオウ駆除	モクマオウの駆除を継続し、さらなる低密度化。						環林都																		
		ギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環林	環林	環林				林	林																
		ギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの駆除に着手し、低密度化。												林			林									
	○モクマオウの生育状況の監視	モクマオウの再拡大に留意し、監視。																環								
	○モクマオウ駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやギンネムとの関係に留意しつつ、モクマオウの個体数低減に向けた検討を実施。													林	林			林							
	○リュウキュウマツ駆除	リュウキュウマツの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環林	環林	環林			林					環林	林		環										
	○ギンネム駆除	ギンネムの駆除を継続し、さらなる低密度化。	環林都	環林都	環林	環林都	環林都	環		林		林	環林	林	林		環	環								
		ギンネムの駆除に着手し、低密度化。							林										林							
		ノヤギ駆除後に生育範囲が拡大しているギンネムの駆除を継続し、低密度化。																		都		都				
	○シマグワ駆除	シマグワの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林	林									環林		林			環								
		シマグワの駆除に着手し、低密度化。						都				林														
	○ガジュマル駆除	ガジュマルの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林	林	林			環																		
		ガジュマルの駆除に着手し、低密度化。										林														
	○キバンジロウ駆除	キバンジロウの駆除を継続し、さらなる低密度化。	林																							
	○都有地内外来植物駆除	都有地内の外来植物（キバンジロウ、シマグワ等）の駆除による低密度化。	都	都																						
	○パパイア駆除	パパイアの駆除を継続し、さらなる低密度化。										林														
	○ホナガソウ駆除	ホナガソウの駆除を継続し、さらなる低密度化。		林																						
	○シマサルスベリ駆除	シマサルスベリの駆除に着手し、低密度化。							林																	
	○シュロガヤツリ駆除	シュロガヤツリの駆除を継続し、開放的な止水環境の維持。						環																		
	○ソウシジュ駆除	ソウシジュの駆除を継続し、さらなる低密度化。						林																		
	○ソウシジュ駆除	ソウシジュの駆除に着手し、低密度化。							林																	
	○タケ・ササ類駆除	ギンネム駆除とあわせてタケ・ササ類の駆除を検討。																		都		都				
	○タケ・ササ類の駆除等	（中長期的に対応）																					—			
外来植物の侵入状況の把握	○シンクリノイガ等の外来植物の除去	シンクリノイガ等の外来植物の除去を継続し、低密度化。									都															
	○外来植物の侵入状況や分布の監視等	（中長期的に対応）									—										林			—	—	—
		利用の影響を継続的なモニタリングを実施										都														

対策の方向性	取組みの項目 (H29 年度末まで)	内容	父					弟	西	東	南	母			向	姉	妹	姪	平	聳	北之	媒	嫁	西之	北硫	南硫	
			夜明平 長崎	東平 中央山	東平※	南部	その他					石門	中北部	南崎													
クマネズミの根絶	○クマネズミの駆除	生態系保全の観点から、排除手法の検討含め、中長期的に検討。			環																						
	○クマネズミ駆除手法の検討	クマネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。						環	環		都	環	環														
		陸産貝類の保全のため、クマネズミの低密度化に向けた駆除方法や手順を検討。												環													
	○クマネズミ生息確認調査	継続的に事後モニタリングを行い、根絶や再侵入を監視。								環										環							
	○クマネズミの駆除	(中長期的に対応)																				—	環				
ドブネズミの根絶	○ドブネズミ駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやモクマオウ等との種間関係を考慮し、ドブネズミの根絶に向けた駆除方法や手順を検討。													環	環	環		環								
ネズミ類の根絶	○ネズミ類駆除手法の検討	オガサワラカワラヒワやモクマオウ等との種間関係を考慮し、ネズミ類の根絶に向けた駆除方法や手順を検討。																環									
	○ネズミ類の駆除	(中長期的に対応)																							—		
ノヤギの根絶	○ノヤギ駆除	ノヤギの駆除を継続し、さらなる低密度化。	都	都		都	都																				
ノネコの排除	○ノネコ排除	ノネコの排除を継続し、さらなる低密度化。	環	環		環	環																				
	○ノネコ排除	ノネコの排除を継続し、残存個体の排除状態を維持。			環																						
	○ノヤギ・ノネコ柵の維持	ノヤギ・ノネコ柵の維持。必要に応じて改良や補修を実施。			環																						
ニューギニアヤリガタリクウズムシの生息域の拡大防止	○ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入防止対策の検討	侵入防止施設の効果検証、新たな対策の検討。重要地域（鳥山）への侵入防止対策の着手。					環																				
	○モニタリング	ニューギニアヤリガタリクウズムシの侵入防止、及び、侵入時の緊急対応を検討。											環林都村	環林都村	環林都村												
	○外来種除去装置の運用																										
グリーンアノールの根絶	○グリーンアノール駆除	属島へのグリーンアノールの拡散を防止する観点から、大村地区周辺での捕獲を継続し、また、兄島への再侵入防止の観点から、父島北部（宮ノ浜周辺）での捕獲に着手。					環																				
		東平地区での昆虫相の現況を調査する。兄島でのグリーンアノール対策の技術を活用した、父島での対策実施に向けた方向性を検討する。			—																						
外来動物の個体数低減	○グリーンアノール駆除	グリーンアノールの駆除を継続し、さらなる低密度化。											環														
		新夕日ヶ丘自然再生区でのグリーンアノールの駆除を継続し、さらなる低密度化。												環													
		南崎自然再生区でのグリーンアノールの駆除を継続し、さらなる低密度化。													環												
オオヒキガエルの根絶	○オオヒキガエル駆除	父島島内からの排除のための手法を検討するため、集落地域周辺での捕獲を継続し、さらなる低密度化および捕獲手法の改良検討。					環																				
外来動物の個体数低減	○オオヒキガエル生息確認調査	新夕日ヶ丘自然再生区での継続的な調査により、再侵入を監視。												環													
		南崎自然再生区および蓮池での継続的な調査により、再侵入を監視。													環												

※父島「東平」…ノヤギ・ノネコ柵の内側

注記）
 ①兄島は除いた（取組み項目や内容について詳細に区分されたため）
 ②「—」は関係機関の役割分担が未定の項目
 ③空欄は対象外

